

UL511

4



00950271

# 圖書館經營入門

竹林熊彦

×  
複写

京都出版株式會社



事務用  
受入部 納車房  
1086



竹林熊彦著

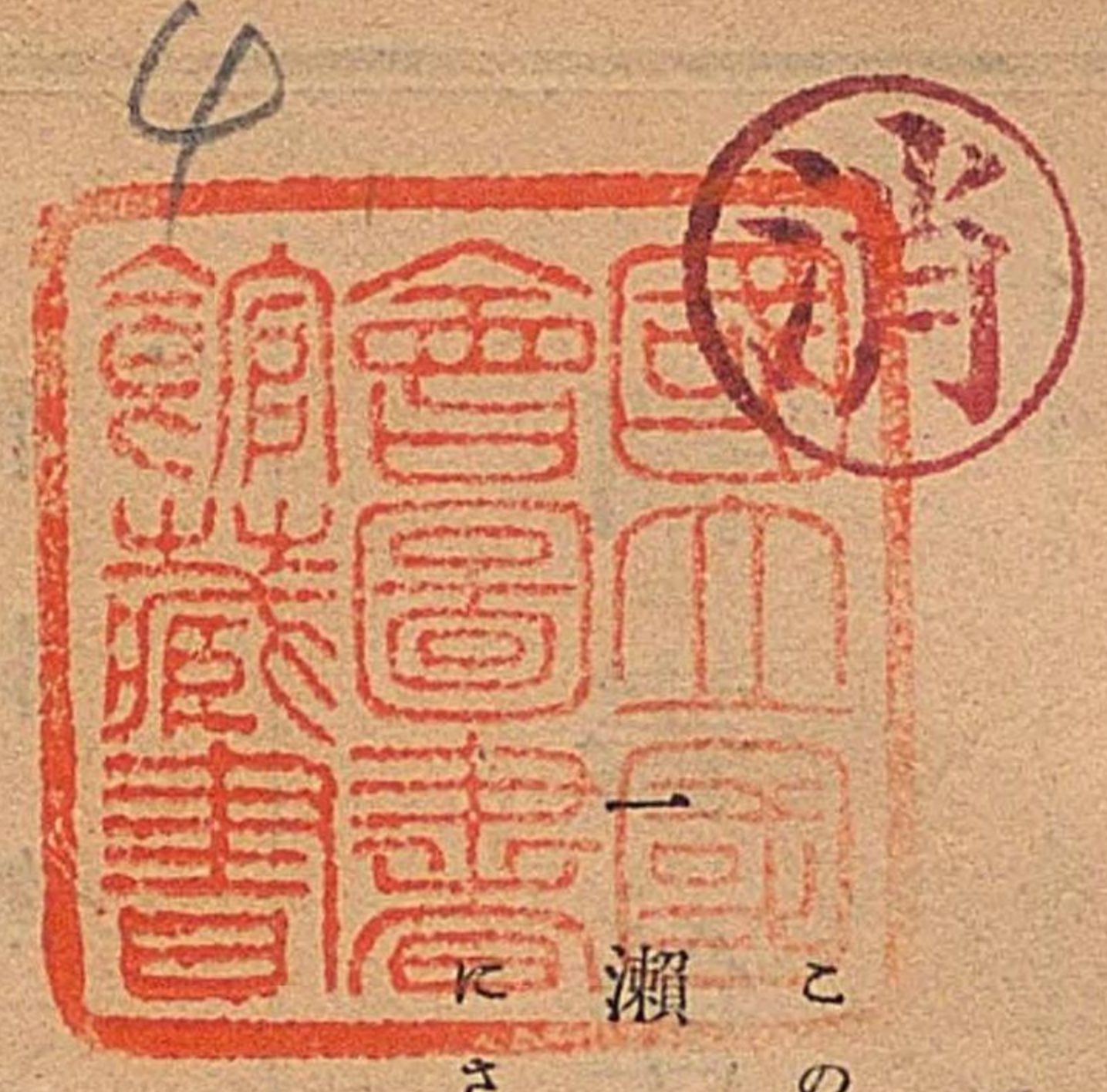
(日本圖書館研究會  
日本圖書館學叢書 第一卷)

圖書館經營入門

京都出版株式會社



U6511



この一篇を  
瀨信子  
にささげる



著者



950271

### 『日本図書館學叢書』監修の辭

一國文化の水準は國民一人々々の人格と教養とによつて決定する。新憲法が教育の機會均等を認め、あらゆる所とあらゆる時にと、人格を高め教養を培ふ機會を保障して、學校・社會兩面の教育機關の整備擴充を法的に基礎づけたことはよろこぶべきであるとともに、文化を理念とする國家當然の行政措置ともいふべきである。こゝに圖書館は、今や我が國に於ては學校教育にも社會教育にも不可缺の機關として、大きく國民の前に提示されることになつた。

圖書館活動に施設や圖書の重要なことはいふまでもないが、圖書館の眞の教育活動はむしろ運營技術の良否にかゝつてゐる。運營技術の良否はそのまゝ圖書館學の正しい認識如何によつてきまることがを忘れてはならぬ。圖書館學は理論的には國際的であり、技術的には高度の規格性と統一性を必要とするものであるが、従來わが國では圖書館學の發達が極めておくれ、今日まで完全な圖書館學の教育機關も研究所施設も持たなかつた事を國民ひとしく反省して遺憾とするところである。

本會がその前身青年圖書館員聯盟時代から二十餘年間、圖書館運動の方針として來



たところは實に圖書館の必要性の主張と、圖書館學の普及、圖書館技術の規格化という三點に終始してゐた。この努力は敗戦後の今日に至つて漸くその一つのみがむくいられ、學校教育法と公共圖書館法によつて圖書館の必要性がはじめて法的に基礎づけられたことは、顧みていささか感慨無量なるものがある。然るに圖書館學の普及と技術の規格化については前途に尙遠なるものがあると同時に、對策もまた緊急を要することを痛感するのである。

本會は茲に斯界の權威者を集めて『日本圖書館學叢書』を監修して圖書館界を啓蒙し、我が國圖書館學の水準を高め、日本圖書館技術の國際化を圖るため、洽く廣く圖書館界にこれを推薦しようとする。この叢書は圖書館學の入門書ではあるが、技術的には斯學最高峰の縮圖である。幸にして本叢書が日本全國の津々浦々にまで普及するとき日本の圖書館界がはじめて文化國家の誇りを世界に顯示するときであり、日本憲法の理念とする教育の機會均等、國民文化の向上もはじめて實現するときであらう。この意味で本叢書が日本文化の礎石となることを念願しつゝこれを監修の辭とする。

昭和二十三年八月

日本圖書館研究會

## 序

新しい日本は平和國家・文化國家として再出發すべき運命にある。そのためには政治に經濟に社會に根本的革新が行はなければならない。そしてそれは既に急速に實踐に移されてゐるが、その裏付としては、國民ひとりびとりが、個人としても公民としても、自主的に自律的に、その所信を等しく自由に大膽に力強く語り、且つ實行するのでなければならぬ。従つて教育と知識とを有閑階級の獨占から勤勞階級に解放して、これを正しく分配するのでなければならぬ。教育貴族の存在が民衆社會にとつて危険であるのは、獨占企業家が經濟社會を脅かすのと同様である。

圖書館は市民大學と言はれてゐる。國民の大部分は職業を通じて社會生活に奉仕し勤勞を通じて人格を陶冶し、餘暇を利用して一般教養を完成するのである。象牙の塔にこもつて教育の遊戯を續けるのでなく、實生活のうちに灼熱的に自己を鍛鍊するこ



とが要求される。これからの日本はこれまでの學校教育偏重の弊を打破して、科學と文化と藝術の汲めども盡きぬ泉を社會教育に求めねばならぬ。一般・専門・特殊圖書館の創設・擴大・強化は「今日」以後の重要な國民の課題であらねばならぬ。

本書はこの時代の要求に應ずるため、日本圖書館研究會が企劃した『日本圖書館學叢書』の一冊をなすものであつて、圖書館經營の手引として圖書館に關心をもつ一般有識者の讀物に、現在にまた將來に圖書館事業に挺身する人々のため執筆したものである。もともと一昨年以來二回に亘つて凡そ十時間づつ、同志社大學圖書館學講習所で講演した草稿をもとに改訂増補を加へたものである。できるだけ廣い範圍に觸れたため、個々の事項について深く立ち入つて詳しく述べることができなかつたが、それは別冊「圖書目錄法概説」「圖書分類法概説」「圖書選擇法」「學校圖書館經營法」などの諸書に譲つた。著者は讀者諸君が畏友木寺清一氏の「圖書館經營實務篇」を併せ讀まれるならば、裨益されるころの多大なるべきを信じてこれを推稱する。なほ近く圖書館法が公布されるさうであるが、その内容はよく知らないし、それがどうで

あらうとも、本書に述べたところは本質において多く改訂を加へることはあるまいと考へてゐる。

入門書の著述は、深い學殖と豊かな經驗と高い識見をもつ人によつて始めて可能である。著者は自らその資格を最も缺くものと意識しながら、焦眉の急を満たすために、また「後に來る人々」に一枚の煉瓦を運ぶことを念願して、不遜にもこのことを敢てした。附録に掲げた參考書は著者の座右にある乏しい資料の一部に過ぎない、若しこれ等によつて讀者諸君が著者の説き得なかつたところを自得されるならば、著者の最も幸福とするところである。

著者は春なほ浅い四月上旬、本書の大部分を脱稿して心も軽く、老妻を伴うて山陽路を西下し、潮の香高い海濱に愛孫と楽しく兩三日を暮らすことができた。その記念としてこの一篇を一瀬信子にささげる。

昭和二十三年晩春の一日、京都下鴨の寓居において

著者しるす



目次

九	八	七	六	五	四	三	二	一	序説	監修の辭	日本圖書館研究會
圖書目録と分類	圖書の注文・受入・整備	圖書の選擇	圖書館の職員	圖書館の設備	圖書館設立の準備	圖書館の種類	圖書館の民主性	圖書館發達の過程	圖書館の構成	日本圖書館研究會	三頁
七五頁	六八頁	五九頁	四九頁	四四頁	三七頁	三二頁	二五頁	一七頁	一一頁	五頁	



一〇 圖書の貸出……………八四頁

一一 圖書館商議會……………九四頁

一二 專門圖書館の輪廓……………一〇七頁

    法律圖書館……………醫學圖書館……………商工圖書館……………農業圖書館……………  
    宗教圖書館……………新聞社の調査部……………

一三 特殊圖書館點描……………一一九頁

    點字文庫……………病院圖書館……………行刑文庫……………兒童圖書館……………  
    學校圖書館……………公民館……………

一四 圖書館職員の倫理……………一三二頁

一五 圖書館協會……………一三七頁

    參考書……………一四二頁

    索引……………一四三頁



# 圖書館經營入門

竹林熊彦 著

## 序説 圖書館の構成

圖書館は近代文化の現實な必要から生れ出たもので、議會・裁判所・警察・行政官署・學校・博物館・畫廊・公園・音樂堂・電車・上下水道と同じく、現在の文化國家の社會組織に缺くことのできぬ機構なのである。そこで圖書館とは何か、といふ質問に答へるよりも、圖書館は何によつて成り立つか、を説明するのが適切だと思ふ。

圖書館を構成する要素の第一は圖書館職員である。木の一端に書物を置き、他の一端に書物を取扱ふ人——ライブラリアン司書を置くと、それで完全な圖書館ができると言つた人がある。むろん誇張した表現ではあるが、眞理である。幾百・幾千・幾萬の書物が蒐められてあらうとも、これを適當に運用す



る人がなければ、書庫は存在するかも知れないが、図書館ではない。図書館に生命力を與へるものはこの人である。これを専門の仕事とし、これによつて生活するものはもちろん、多少の時間を割いてこれに専心するものも亦司書と言ふことができる。多くの事業が人を得て興り、人を失うて衰へるごとく、司書その人を得れば図書館は盛んとなり、得なければ萎靡沈滞する。図書館に生命力を與へるものは司書だ、といふ所以はここにある。

過去において図書館が學問の府であつたときには、司書も亦同様に名譽ある學者であつた。この場合に「図書館人は生るべきもの、作らるべきものではない」といふ信念が行はれたのは尤もなことである。だが近代の図書館は、書物と讀者とを結びつける社會奉仕の機關である。若し同じ社會に奉仕する醫師・官吏・技術家・教員・辯護士などの専門的職業に就くために、専門の教育が必要であるのかと疑問を抱いたとしたら、一喝の下に愚問として片付けられるであらう。醫師や技術家や辯護士は古く昔からある職業であり、図書館の司書は新しい職業である。アメリカはもとより、その他の主なる國々には司書を養成する図書館學校がある。かつてエヂソンに發明は教へることができると聞いたたら、彼はできると答へたといふ話である。これは現代の科學的研究が、前世紀の人々がつてゐた發明に對する態度と、觀念的に相違してゐる證據である。図書館に生命力を與へ

る司書は養成されねばならない、學校教育に教員の養成が必要であるごとくに。

第二に図書館を構成する要素は、言ふまでもなく書物——圖書である。紙に活字で印刷し、裝釘したものばかりが圖書ではない。人間の思想・行動・經驗・知的活動を記録したものは、すべて圖書である。砂濱に残された人の足跡も、これ亦一つの記録であるとさへ言はれてゐる。人と人とが社會を作り、共通の言葉を語ると、その部族の過去の經驗が語部によつて傳へられる。語部の語るところは言葉による記録である。游牧時代の冒險談、部族間の戰爭物語、日蝕・彗星・洪水などの天變地異、ありし日の出來ごとが、幾十年のあいだ幾たびとなく繰返し語られ、やがて文字に寫されて民族の歴史となる。録音されたものがラヂオを通じて放送される、その逆を行つたものが語部の記録である。原始民族が洞穴に描いた繪畫、木や石に施した彫刻も、ただ話の題材であるばかりでなく、繪畫文字・象形文字の一步手前と言ふべきであらう。

英語のペーパーは、誰でも知つてゐるやうにエジプトのナイル河に産するパピルスから轉じ、ライブラリー——図書館はラテン語のリベル *liber* と樹皮に起源したもので、ともに記録の材料に縁がある。羊皮紙のパーチメントはヘレネスチック時代、小アジアで榮えた都市ペルガモンで作られ、その名稱の起源となつた。メソポタミアの住民たちは粘土板に文字を刻み、天日に乾かして記録と



した。竹帛・貝葉・犢牛皮<sup>ペーラム</sup>・金屬板を材料とする書寫時代から印刷時代に移ると、廉價で多量に生産される紙がこれに拍車を加へて、今日の汗牛充棟も嘗ならぬ圖書出版の黄金時代を作り出すに至り、更に將來はフィルム化への動向すらある。

しかし書物は讀まれなければならぬ。書物を通じてわれわれは前代文化の遺産を繼承し、現代の世相を知ることができる。われわれの生活を豊かにし、高めもし、また深めもするのは書物である。讀書によつてわれわれは慰められ、歎びを感じ、或は憤り或は楽しみ、未踏の世界に入り、未見の人と語る。讀書人——讀者こそは圖書館を構成する第三の要素であつて、讀者のない圖書館の司書は書物の番人に過ぎない。幸に人間には知りたいといふ本能がある、毎日毎朝、新聞を手にするのはこの本能を充たすためである。この欲望がいよいよ昂進して満足を求めるとき、自<sup>オソツ</sup>から圖書館の對象となる讀者層が形成される。この讀者層が一般の圖書館——公共圖書館の目的となる場合には市民大衆であり、老若男女、一切の差別は存在しないが、特殊の讀者層——例へば學校の教員・生徒であるとか、企業家・貿易業者のためとか、學者・研究家を對象とした場合、或は盲人・病者・受刑者を目的とするときには、専門圖書館或は特殊圖書館が発生する。

以上述べた圖書館を構成する三つの要素——司書・圖書・讀者は、いづれも圖書館の性格を決定する本質的のものであるが、更に圖書館を維持經營し、これを永續させるためには別の要素が必要である。その一は圖書館商議會であり、他は圖書館經費である。

前に述べて置いたごとく、圖書館は社會奉仕の機關である。一般社會であらうと、特殊社會であらうと、圖書館がその社會に存在し、その社會のために存在價值をもつからには、これを健康に維持永續させるために、精神的援助はもとより、財政的物質的支持を與へるのは、その社會の共同責任である。そのため一面には圖書館の本質をありのままに社會に説明し解釋し、他面にはまた社會の要求を如實に圖書館に反映させ、その經營を正しく指導してゆく團體を圖書館商議會といふのである。

言ふまでもなく、圖書館を實際に運營するものは司書である。随つて圖書館の經營は擧げて司書の自由な手腕に待つべきであつて、徒らにこれを制肘し拘束してはならない。しかし圖書館は社會のために存在するのであるから、圖書館の技術面や日常の實務は別として、その根本方針——政策はその社會によつて決定され、圖書館は社會のものとならなければならない。圖書館を社會に解説するのは司書の責任であるが、普通の社會人によることが効果のある場合があり、またそれが望ま



しい。圖書館と表裏一體をなす團體が、社會面への活動を引受けてくれるならば、圖書館の發展は自然に促進され、その活動分野も擴大してゆく。第三者の積極的な援助の有無は、圖書館の將來を左右する鍵と言つて差支ない。圖書館商議會はまた圖書館の實際運營者である司書が獨善に陥るのを阻むブレーキでもある。

圖書館を經營するためには經費が必要であり、その經費は圖書館を永續發展させるために年々増加されなければならない。司書をはじめ圖書館の實務に當る職員給料、圖書購入の資金、建物の修理・器具の新調・圖書保存のための費用を缺いては、圖書館の經營は不可能でないにしても困難である。そして圖書館の經費はその存在する社會がこれを支出する義務がある。随つて圖書館が社會の正當な認識を得ないときには、經費の支出がむつかしくなる。圖書館を社會に正しく認識させるのは司書の責務であるが、これを側面から援けるものは圖書館商議會である。寄附金にしても圖書館基金にしても、圖書館の當事者がその衝に當つて支出を求めるよりも、圖書館商議會の斡旋に待つことが望ましく、それ等の基金・寄附金の運營も亦、これを商議會に委託するのが適當である。

圖書館の經營は、以上掲げた五つの要素を缺いては軌道に乗らない。困難であるばかりでなく、

むしろ不可能に近いと言はなければならぬ。これら五つの要素が、曲りなりにも必ず成立する豫想のもとに、始めて圖書館の經營が企劃せらるべきものである。その一を缺くことが判れば、退つてその補足される時機を待つがよい。圖書館は少數者の恣意や氣まぐれで計畫されたのでは、發展性も永續性もあり得ない。發飾物としての圖書館はやがて門前雀羅を張ることであらう、社會の根強い要求の上に、周到にして聰明な經營方策が講ぜられなければならぬ。

## 一 圖書館發達の過程

一八五〇年サア・オースチン・レヤードは、チグリス河邊のクエーンジクでアッスル・バニ・パル王の宮殿を發掘した。その一部に宮廷文庫があり、西曆紀元前第七世紀に屬する世界最古のものと謂はれてゐる。現在大英博物館に所藏保存されてゐる瓦槩の圖書目錄から、當時圖書館の系統的な經營管理法があつたことが推測される。ギリシヤ・ローマに圖書館の存在してゐた事實は、夙に記録の傳へるところであつて、西ローマ帝國が土崩瓦壞したのち、歐羅巴の文化が晦冥に陥つたときにも、キリスト教の修道院がその傳統をうけつぎ、中世を通じて現代に及ぶ圖書館文化の歴史的



發展があつた。その過程については姑くこれを他日に譲り、ここでは圖書館事業の最も發達してゐるアメリカにおける進化の状態を一瞥することにしよう。

コーネル大學の史學教授タイラーは、アメリカの植民者が讀書好きの移住民であつて、斧や犁と一緒に書物を旅装の一部としてゐたこと、植民地の偉大な建設者——ロジャーク・ウヰリヤムス、ウヰリヤム・ペン、ウヰリヤム・ブラットフォード、ジョン・スミスなど、イギリスの文化を大西洋の彼岸に齎した人々は、いづれも愛書家であり、集書家であり、讀書家であり、また著作家であつたことを指摘したのち、アメリカの圖書館は明らかに六個の段階を経てゐると述べてゐる。その第一は個人文庫の時代で、個人の利用が主となつてゐた。一七二四年紐育に到着した青年機械工ベンジャミン・フランクリンが知事の賓客として招かれたのは、彼が多くの書物を所持してゐることが船長によつて傳へられたからである。「知事は私を丁寧に迎へ、その書齋を示してくれたが、それは相當のものであつた。私達は長い間書物や著者について話をした」と彼はその『自叙傳』に記してゐる。この個人文庫の時期はアメリカ植民時代、即ち第十七世紀から第十八世紀の初期に相當する。しかし個人文庫の價値が大きいにしても、社會全體の知的要求に應ずる適當な施設ではない。圖書を共有し、共同してこれを利用する第一歩として、大學その他の學術團體が書物を蒐め、これを

學者社會——學生・研究者・専門家の利用を目的とするに至つたのが、タイラー教授の謂ふ第二の段階である。ハーヴァード大學の創立は一六三八年であり、次いでウヰリヤム・メリー大學、エール大學が設立された。その後も高等専門の學術團體に屬する圖書館が踵を繼で起り、著大な寄與をしたことは何人も疑を容れぬところである。しかも此等の學術圖書館の寄與する直接の價値は或る階級に限られ、學者の圖書館であつて市民大衆の圖書館ではない。社會は書物が完全に市民大衆のものとなるまでは満足するものではない。そこで圖書館發達の第三段階である會員組織圖書館サブスクリプションライブラリーの發生を見るに至つた。

一七三一年フィラデルフィアの青年たちは、仲間の一入であるベンジャミン・フランクリンの提案で、フィラデルフィア圖書館會社を設立した。それは最初こそ小規模であつたけれども、その價値は高く評價され、廣く利用されるに至つた。會員組織圖書館は資金を醸出し、經費を負擔する會員に限り、その利用を許したこともちろんであるが、ここに近代的企業精神の片鱗が現はれてゐる。鐵道の敷設・運河の開鑿、その他商工の企業で、獨力では爲し得ないものでも、協同してこれを成就することができる。個人では手に入らない書物を、男女の會員が協同してこれ入手することができるのである。か様にして毎週一回圖書館は開かれ、會員は圖書の貸與を受け、若し所定の期日



に返却せぬものがあれば、書價の二倍を支拂ふ誓約であつた。

このフランクリンの發案は、タイラー教授によれば、人類の新らしい出發點を意味するといふのである。即ちそれは知的利益を弘通傳播するために民主的精神の適用を教へた。書物といふものは、すべての民族がすべての時代を通じて集積した思想を含み、われわれに最も高貴な悦びと神に等しい力とを與へるものである。しかもこの時まで書物を手にするものは特權階級中の特權階級であつたが、この時に至つてフランクリンの言つてゐることく、すべての階級にこの特權を與へることによつて従來の特權階級を廢止し、書物そのものもつ祝福をすべての人々が享けることとなつた。そしてフランクリンを援助し協力した人々は、彼と同じく青年であり、無名の人であり、貧しい勤勞者であり、印刷工であり、機械工であつた。思へ、これ等五十名の若人によつて成し遂げられたことは、同じく誰でも爲し得られるものである。彼等の事業は遠近に傳はり、これに共鳴して歐起するものが到るところに現はれた。一七四三年にはロードアイランドのニューポートに、五三年にはプロヴァイデンスに、五四年には紐育に、六〇年にはマサチューセツツ州のサレムに、六三年にはランカスターとポートランドに同種の組織が發足し、やがて合衆國全土に及んだ。

會員組織圖書館は有效適切な施設であつたため、約百五十年間も永續して行はれたとは言へ、な

ほそれは缺陷をもつてゐた。即ち前にも述べた通りに、この特權は會員に限るのであつて、讀書を欲するすべての人々に無料で奉仕する組織ではない。そこで社會は圖書館發達の第四段階——圖書の完全な民衆化へ接近することになつたが、これは國家——合衆國では各州が、その構成員である市民に書物を與へることを義務責任とする新思想の出現である。この原則は既に承認されてゐて、國家はその市民を教育する義務を負ひ、そのためには學校を維持經營せねばならぬ。同じ目的と同じ原則のもとに、各州は圖書館を維持する。そしてこれ等の圖書館は學校に附設され、學區圖書館として市民教育に必要缺くべからざる施設となつた。

この學區圖書館の發足は紐育州が端緒であつて、一八二六年州知事クリントンの教書に述べられ、三六年には年額五萬五千弗の圖書購入費を各學區に分配する法律が州議會を通過し、同じ目的のために同じ金額を課税することを各學區に要求した。この制度は一般の歡迎を受け、四一年の報告によれば學區圖書館の藏書數は四二二、四五〇冊、翌年は更に二十萬冊を加へ、一八五三年には一、六〇四、二一〇冊の尨大な數字を示すに至つた。そして紐育州の計畫はマサチューセツツ州に傳はつて一八三七年の立法となり、更にミシガン州がこれに倣ふて同じく三七年の學校法のうちこれを織り込んだ。次で三九年にはコンネチカット、四〇年にはロード・アイランドとアイオワ、四一年



にはインデアナと續き、一八七六年のコロラドを最後として各州に普及した。これ等學區圖書館の收めた効果は顯著なものがあつた。就中その最大なものは、公共圖書館なるものは市民教育制度の一部として眞の機能を發揮する、従つて圖書館の經費も亦教育税と同様に、市民課税の對象となり得ることを承認した點である。

學區圖書館の擧げた功績は以上にとどまらない。これによつて老若男女幾百萬の人々が書物を手にして、愛書の趣味を養ひ、もろもろの知識を獲、人生の幸福を味はひ、知的改善の方法を體驗した。しかしこれ等の功績にかかはらず、學區圖書館がついに失敗に歸したのは、主として次に掲げる經營管理上の欠陥があつたためと言はれる。即ち(一)圖書の選擇に注意と智慧とが足らなかつたため、蒐められた多くの圖書が愚書駄作であつたこと、(二)圖書の配布回収に注意を拂はなかつたため散逸紛失したこと、(三)圖書の修理保存に注意しなかつたため、急速に減損の一路を辿つたことである。圖書館經營には常識が必要であり、能率的であらねばならない。一八七五年紐育州教育局長官の報告書によれば、この制度の運営がうまくゆかず、殆んど利用されずにその價值を失つてしまつてゐると記されてゐる。

圖書館發達の第五段階は圖書館が全く個人の寛大仁俠的寄附になる時期で、創立者の意思による

條件で市民大衆に公開される。その最もよい例は紐育のアスター・クーパー・レノックス圖書館であり、ボルチモアのピイボデイ圖書館である。市民は一文も負擔しないで、これ等の圖書館を自由に利用し得るのである。創立の設備萬端はもとより、その後の經營發展の費用一切を寄附者に仰ぐのである。これは確かに個人の富を善用する一個の典型であつて、その恩惠の及ぶところ多大なるは言ふまでもない。しかしながらこれをもつて最善にして且つ最後の圖書館經營の型態とするとはできない。何となれば、かかる特志家がどの社會にも存在するわけではない、しかも無料公共圖書館はあらゆるすべての社會に必要なのである。かつ最も健全な社會的贈與は、その社會に毫しの努力も犠牲も要求しないものではなく、社會自身をしてその爲し得るだけのことは進んでこれを爲さしむることである。換言すれば、最も健全な扶助は、個人に對するものであらうと、社會を對象とする場合であらうと、自助的精神を作興するものであるべきである。

アメリカの圖書館が最後に到達した第六段階は、二つの偉大な思想の結果である。即ちそれは(一)無料公共圖書館は市民教育の組織體系中で本質的重要部門であること、(二)従つて圖書館を市民課税の對象として認められたことである。むろん個人の寛大な寄附を拒むのではなく、むしろその高貴な精神と市民の自助的協力とを結成して、最も完全な圖書館の様式を作らんとするにある。



一八四八年マサチューセッツ州は地方自治體が無料公共圖書館を維持經營するため、市民に課税することを允許する州法を規定し、次で他の諸州もこれに倣つて同様の立法を行ひ、自治體の指導のもとに市民は少くとも經費の一部を負擔し、圖書の組織的民衆化される時期に達した。回顧すれば過去二百數十年に亙る上述の過程は、多くの苦闘と失敗と犠牲の連続であり、多くの金銭と勞力とがそのために費された。人間の教育は搖籃に始まり、墳墓に至つて終りを告げると言はれてゐるが、學校を卒へた青少年男女は、無料公共圖書館によつてその後の知的訓練を繼續し維持することができ。ここに始めてコンメンスマメントの意義が徹底するのである。

以上はタイラー教授が一八八四年一月十六日、ミンガン州ウエスト・ベイ市セージ圖書館の献堂式における講演の要約であるが、アメリカの圖書館が完全に成功してゐるとは斷言できない。顧みれば一八三三年ニュー・ハンブシャイア州ピーターボローに開設された圖書館は、租税によつて經營された最初の公共圖書館で、わずかに一室よりなり、藏書の數も少く、一週敷時間開館するだけであつたが、一九三八年には合衆國の圖書館の數は約一萬七千、藏書の數は一億七千萬冊、なかには百年前のピーターボローと餘り大差のない、小規模で藏書に乏しい、經營困難のものがなくても

ないが、他方では一館で百萬、二百萬、三百萬の藏書をもつものもある。大學その他の高等専門學校の教育機關はその數約一千、いづれもそれぞれ圖書館を擁してゐる。人口五萬以上の都市で圖書館のないところはなく、各種の銀行・新聞社・保險會社・工場・裁判所に圖書館があり、中學校にも小學校にも圖書館の施設がある。それにもかかはらずなほアメリカ全人口のうち四千五百萬人が自由に無料で書物を手にする機會に恵まれてゐないと言はれてゐる。黑人のためには特に黑人の圖書館職員を養成し、外國生れの移民のためには圖書館がそのアメリカニゼーションに一と役を引きうけ、ユダヤ人のゲットーにも進出してゐる。アメリカ圖書館の職員たちが、すべて讀者に丁寧で親切で、謙遜で快活で、愉快で同情的で、忍耐力に富んだ輔導者であるとは信じられないにしても、それを理想とし目標として、圖書館を明朗で、陽氣で、晴れやかなアトラクティブな場所たらしめようと努めてゐることは事實である。

## 二 圖書館の民主性

街頭には民主主義が汎濫してゐる。圖書館の民主性とは何か。



人類が過去幾千年に亘つて粒々作りあげた文化は、書物といふ形態をもつてわれわれの財産となつてゐる。われわれは一人のこらず、すべてのものがこの文化財を吝みなく享有することができぬのでなければならぬ。しかし書物の数が少く、手に入れることが困難であつた時代には、それが貴重品であり、従つて歐羅巴の第十五・六世紀には、これを保存するために鎖書が行はれ、書物は書架から解放されずに鎖で縛られてゐた。印刷術の發明以來かかる状態は絶無となつたけれども、因襲は久しく脱却することができず、書物は依然として保存が主で、利用は従となつてゐた。曩に述べた會員組織の圖書館や、保證金制度による書物の貸出は、その名残とも言ふべく、少數の限られた人々に特權として書物の利用を許容することである。かかる特權を打破し、すべての人々が自由に平等に、かつ容易に書物を利用し得るためには、圖書館の位置は自<sup>オ、ツ</sup>から考慮せらるべき課題であらねばならぬ。

郊外の閑靜な一劃に圖書館が位置することは、市井の喧騒をよそに讀書を樂しみ、塵芥を避けて書物の保存によく、圖書館を都市の裝飾とするには適はしいにしても、一般市民に最も便利な場所でない限り、書物の民主化に縁遠きものである。歐米の大都市が各所に圖書館の分館を設けたり配本所を置くのは、市民大衆を容易に書物に近づけ、これを彼等のものとして普及・利用せしめんが

爲めである。都市の人口と圖書館の數とをみると、ダブリン市は三十二萬四千人で五つの地區圖書館があり、エデンバラは四十二萬の市民に對して七箇の分館をもち、七十四萬四千のマンチェスターは、その書物を完全に利用させるには三十の分館が必要であり、九十一萬九千のバーミンガムは二十四の分館では、十分に圖書館の目的を達し得ないことがわかつた。トロント市の人口は五十五萬、十五の分館があり、なほ増設の計畫である。クリーヴランドは八十萬、圖書配給のために二十五の分館と配本所があり、三百萬のシカゴは分館の數四十六、配本所二百七十五では不足を感ずるといふ。市民大衆に愛せられる圖書館が、紅塵萬文の都市の中心にあつて、誰でもそのオフィスから住宅から、數分で行ける場所であることは、當然すぎるほど當然の要求であらう。

書物が保存のためのものであるならば、圖書館の開かれてゐる時間は、閉鎖されてゐる時間より少いはずであり、讀者に書物を提供するよりも、むしろ蟲干や煤拂ひのために開かれるのが至當であらう。サア・アレキサンダー・グラントの『エデンバラ大學史話』によると、第十九世紀の初期同大學圖書館は學生の利用を制限し、一週二日二時間を限り書物の貸出しを許したといふ。アーモスト大學の例によると、一八五〇年に一週一回午後一時から三時まで開館してゐたといひ、一八五九年に發足したコロンビヤ大學は多年の間、一・二年生は毎月一回圖書館に行つて書物の背を眺め



るだけ、三年生は一週一回図書館に連れてゆかれて、助教から書物の内容を説明して貰ふばかり、四年生だけが水曜日の午後に一時間、書物を取り出すことが許されてゐたといふことである。それが一九二四年アメリカ図書館協會の調査によると、八十年前一週わずか二時間しか開館しなかつたアーモスト大學は、午前八時から午後十時半まで、オレゴン大學は七時半から午後十時まで、公共図書館も同様で大體午前九時から午後九時まで、シヤトルや桑港では午後十時まで開館してゐる。図書館は大部分の人々が眠つてしまふまで開いてゐなければならぬし、また市民が寢床を離れたのちにはこれを閉じておくことは許されない。かくて図書館は民衆のものとなる。

書物がその保存から利用に移行したことは、一種の革命であると言つても強ち誇張の言ではあるまい。同様に書物の利用者側にも亦革命が行はれた。図書館は學校とともに教育體系の二大根幹である。図書館を民衆化した裏づけに、教育が階級 *Classes* から大衆 *Masses* への移行がある。アテネやスパルタでは教育は自由民のみに與へられ、人口の九割を占めた奴隸は學問の特權から除外されてゐた。歐羅巴の中世では、地主は隷農に、基督敎會は平信徒に、ギルドは組合員以外のものに教育を否定した。第十八世紀になつても、社會を幸福にし民生を安定させるには、多數のものを貧乏と無智との境地に置くのがよいとの主意からその方策がとられた。讀むこと、書くこと、そして

算術——三Rに示される基本教育さへ、貧民には有害なものとしてこれを否定し、彼等を日々の勞働によつて日々のパンを得ることに驅り立てた。少數の治者階級は神授の權利であるかのごとくに振舞ひ、多數のものに學校教育をうける權利に與らしめなかつたばかりでなく、自からを教育する手段としての書物を手にする權利さへも拒んだ。一八五〇年イギリス最初の公共図書館法であるエワート案が提出されたとき、その反對論は——餘りに多くの知識を多くの人々に與へることは危険で、図書館は政治教育の中心となるであらう——と言ふのであつた。『近代民主政治』の著者ブライス卿は——六十年前の專制政府は教育の普及に無關心であるか、或は反對であつた。その理由は知識と知性とが自由の要求を生み出すことを怖れたからである——と嘆じてゐる。

しかし教育の機會均等といふ大潮流は貧富の障壁を打倒し去つたばかりでなく、男女の性別による制限をも撤廢させた。アテネでは教養と學問のある婦人は娼婦に屬するものであつたし、聖ポロは「何事か學ばんとする事あらば、家にて夫に問ふべし、女の敎會にて語るは恥づべき事なればなり」(コリント前書 第十四章第三十五節)といひ、長い間婦人は教育を受ける能力のないものと普通に信じられてゐた。女子の學校は子女を養育する方法を教へ、學止動作・身躰みを學ぶため、所謂學問を目的としたものでなかつたが、世界大戰以後ひとり教育のみならず、政治的・社會的・經濟



的生活の機會均等が婦人のまへに展開された。假りに婦人の活動分野が家庭にあるとしても、家庭を営むことが既に技術であり、科學であり、進歩的發展的であらねばならぬ。子女の養育・病者の看護・食物・榮養・調理・買物・洗濯・裁縫・園藝・家庭衛生・家屋の修理等相當複雑な仕事があり、男子がその専門の職業に精勵すると同様、婦人も亦不斷の訓練が必要である。そこで——すべての婦人に書物を——が現代圖書館の指導的標語となつてゐる。

交通が容易となつたため都市と農村との牆は除かれ、農民も亦書物を手にすることができるようになつたが、それは世界大戰以後のことである。これよりさきメリーランドとオハイオ兩州では、一九〇五年から組織的に巡回文庫が行はれてゐた。農民は大切な階級であり、土地の耕作は人類の原始的産業の一である。世界を養ふものは農業であつて、英國のような工業國でさへ二〇%は農村の住民である。國際角逐の激しい現代に、農村も舊來の技術を踏襲して偷安姑息の生活では濟まされない。新しい耕作方法が年々發明され、新しい市場を常に發見しなければならぬ。新しい機械の採用、勞力節約の工夫も必要である。そのためには農民を無智と傳統墨守の状態に置いてはならぬ。最新の科學的經濟的思想と事實とを供給しなければならぬ、それには書物と雜誌とを除いて他に手段方法があるであらうか。かつ農村の生活様式は都市との交通によつて變化し、都市との關

係は社會的にも政治的にも經濟的にも親密の度を加へた。そして都市には圖書館がある、——われ等にも亦書物を與へよ——とは農民の自然な希ひであらう。そしてメリーランドの巡回文庫は一九一〇年からワゴンが自動車に代り、そのため農民離村の傾向も小康をみるに至つたといふ。

すべての人々に書物を與へ、彼等の欲するがままにこれを利用させ、知識を、情操を、娛樂を豊かにする圖書館活動の分野は、貧しきもの、婦人・農民に限らず、點字圖書を通じて暗黒世界に住む盲人に呼びかけ、病苦に惱む人々に讀書療法を施し、監獄にある受刑者に娑婆に歸つたのちの準備を與へる。成人には成人の書物を、兒童には兒童圖書を、そして老ひたるも若きも、孤島の燈臺守も水上生活者も、その趣味と必要とに適する書物を手にするのでなければ、眞の民主國家とは言はれない。都市と町村とが全住民に奉仕する一箇ないし數箇の圖書館をもつのでなければ、教育制度は完備したと言ふことはできない。國民をあげて規則正しく書物に接する便宜を得てこそ、その國家は幸福であり、進歩的だと言はれる。そこでわれわれは全國的に圖書館網を作る運動を起し、讀書の恩恵に浴せしめてこそはじめて文化國家と矜り得るのである。



### 三 圖書館の種類

これまでのように、圖書館の種類を設立者によつて官・公・私立に區分するのは無意味である。さらばと言つて圖書館が社會に存在するといふ理由から、一般社會のものは一般圖書館、特殊社會のものは特殊圖書館と區別したのでも徹底しない。全國的の圖書館もあれば地方的圖書館もあり、學術本位の圖書館もあれば實務圖書館もある。學校圖書館で參考圖書館を兼ねる場合もあり、特殊圖書館で一般的圖書群を必要とするものもある。次に私見による圖書館の種類を掲げ、若干の解説を加へてみたが、ククラテスの産婆的批判を與へられるならば幸甚である。

#### 一 公共(一般)圖書館

イ 市分館 配本所  
ロ 町・村  
ハ 都・道・府・縣  
ニ 個人・財團寄附

#### 二 國立圖書館

イ 綜合圖書館(舊、帝國圖書館)  
ロ 官廳圖書館(内閣文庫、その他)  
ハ 國會圖書館

#### 三 専門(参考)圖書館

イ 法律  
ロ 醫學  
ハ 商・工業 經濟關係  
ニ 科學・技術  
ホ 文學・宗教・美術・音樂  
ヘ 調查部(新聞社)

#### 四 特殊圖書館

イ 盲人(點字)文庫  
ロ 刑文庫  
ハ 病院文庫  
ニ 兒童文庫

#### 五 學校圖書館

イ 幼稚園  
ロ 小學校  
ハ 中學校  
ニ 高等學校  
ホ 大學

わが國の圖書館は新しい基礎の上に建て直されなければならない、過去に執着してゐる限り健康な發達は不可能だと考へる。いづれ圖書館法規の改定をみるであらうが、公共圖書館は市・町・村の自治體でその設立が義務づけられ、すべての市民大衆にひとり残らず無料でその欲する書物を提供し、個人としても市民としても、また國民としても成全生活を作りあげる機關となり、小・中學校の所謂義務教育と呼應して教育體系の二大根幹を形づくるものである。無謝學校と無謝圖書館と



は近代的二大十字軍と言はれ、わが國の近代的公共圖書館といふべきものは、明治五年の學制頒布と同時に誕生したのである。しかし當時小學校が授業料を徴収してゐたと同様に、書籍館も亦閱覽料を徴収した。それはわが國の經濟財政事情が己むを得ず然らしめたのであつて、早晚無謝學校・無謝圖書館の實踐が、わが學政當局の肚裡にあつたことは、明治十年文部大輔田中不二麻呂の聲明に明らかである。しかも所謂義務教育は、四半世紀後の明治三十三年に至り、初めて市町村立小學校の授業料徴収を禁止し、大正七年以降はその費用の一部を國庫負擔とした。これに對して圖書館は明治三十二年に圖書館令が公布され、昭和八年に改正されても、自治體は圖書館設置の義務を負はず、公立圖書館は閱覽料又は附帶施設の使用料を徴収し得るのが建前であつた。この一事だけでもわが國の教育體系は、學校教育偏重の跛行状態にあつたことが容易に觀取される。

都・道・府縣の所謂中央圖書館は相當の藏書と職員とをもち、市民大學の體裁を具へてはゐるものの、帶に短く襪に長く、圖書館活動を徹底させるにはその地域が餘りに廣大に過ぎ、その末端にまで普及するには二階から眼藥の感なきを得ない。むろん例外的存在もあるが、府縣立圖書館の多くは封建的で、且つ官僚的色彩が強く、市民を愛する圖書館でもなければ、市民から愛される圖書館でもないとの世評さへも聞く。これは所在地の市・町圖書館に移行するか、或は規模のやや大きい

ものは國立に移管して府縣ブロック圖書館の樞軸となり、地方圖書館活動の推進力たる役割を果たすべきである。國立綜合大學すら既に十指に數へるに近いとすれば、學校教育偏重の譏を免がれるためにも、地方綜合圖書館のために國費を投ずることは、文化國家として當然の義務ではあるまいか。

上野公園にある舊帝國圖書館は、國立圖書館であるところでも自から誇つてはゐたものの、本來官立公開圖書館として出發したのから變遷したのであるから、京童の評するが如く官立下谷圖書館であつたのである。これを英國のブリチシュ・ミュージアム圖書館、フランスのビブリオテク・ナショナルと比肩せしめようとするならば、現在の公共圖書館的性格を拂拭解消し、他方内閣文庫を解體して純然たる官廳圖書館とすると同時に、その必要とする以外の藏書を接收し、また宮内府圖書寮一部の移管を受け、わが國の悠久な典籍文化の綜合的參考圖書館とすると同時に、圖書版權の登録・印刷カード目録の配布・圖書資源の通報機關・諸外國との圖書交換貸借の事務・圖書館員の養成並に資格認定など、圖書館行政の面での活動が期待される。これ等はこれまでも帝國圖書館の當然果すべき課題であつたが、その首腦部の迫力が薄弱であつたり、或は利己的であつたために實現されず今日に至つたのである。

官廳は行政的・技術的圖書館をもちながら、孤高・獨善の殼に閉ちこもり、官僚セクショナリズム



を固執してゐるため、圖書館の當事者は専門的訓練を缺き、そのため圖書館經營者としての意識も十分でなく、地位が安定しないため責任感も鈍く、規律も亂れがちになり、これを世間に押し出して公開することを避ける傾向があるが、これも國會圖書館と同様、能ふ限り國民のために解放すべきである。専門圖書館は政黨・銀行・會社・工場・學會・研究所・法曹團・醫師會・俱樂部等に附屬して、會員組織圖書館類似のものとして經營されるのが能率的であらう。民主社會に會員組織圖書館の存在する理由はないと言はれるが、同一の趣味或は關心をもつものが共同目的のために結社することは、人間並に社會に深く根ざしてゐる本能であり、個人にとつても社會にとつても利益があるばかりでなく、この種の組織をもつことが、その圖書館の繼續發展の可能性をいよいよ助長させる。圖書館が會員の集會所となるばかりでなく、圖書館利用者の顔觸れも自から制限されるから、經營者と親密の度を加へ、圖書館奉仕の面では深化する利益がある。會員組織圖書館は會員ばかりでなく、會員の紹介する人々にも解放せらるべきものである。

大學の圖書館は専門的參考圖書館であるから姑く措くとして、學校圖書館は曩に述べたごとく、公共圖書館と連絡直結する教育體系の不可缺機關として、その重要性はいよいよ認識されなければならぬ。従つて學校圖書館の經營については、別箇の研究に俟つのが便宜である。特殊圖書館は

公共圖書館の一分科として、或は獨立して存在することができ。しかしわが國の圖書館が一部を除いてなほ未發達・未開拓の状態にあるのは、その理由として法制の不備・經費の不足・指導の不徹底・熱意の缺乏などが擧げられるかも知れないが、すべての圖書館が相互扶助の精神に生きて有機的組織を作り、それぞれの創意工夫を凝して個性を發揮しながら、無駄を省いて全體の進歩發達を圖る方向に邁進するのぞなければならぬ。例へば圖書資源にしても、自立するだけのものはどんな小圖書館でも是非備へなければならぬが、稀に利用される特殊の書物は圖書館相互の貸借によつて他の援助を仰ぐがよい。自助の精神は結構なことではあるが、極端にこれを主張すると瘦せ蛙が自身の腹を割く結果となる惧がある。圖書館の經營は懷手をしてゐてはできるものではない、これに専心する司書の必要がここにも痛感される。

#### 四 圖書館設立の準備

學校圖書館のやうに當然設置すべきものは別として、圖書館設立の要求が社會に發生したとき、或は二・三の熱心な有志家が圖書館の設立を計畫したとき、先づそれが社會の輿論となることを期



待すべきである。假りに篤志家が現はれて建築資金を寄附し、設備費を申込んでも直ぐにこれに飛びつかないで、これを將來への努力の中心とし、他の人々の興味なり關心をこれに向つて喚起する必要がある。社會はそれぞれ違つた要求をその圖書館に對してもち、従つて圖書館は異つた條件のもとに出發する。公共圖書館にせよ學校圖書館にせよ、専門圖書館・特殊圖書館にしても、實際には參考圖書館的のものとするか、新聞雜誌を中心とするか、婦人兒童を對象とするか、青年男女の集會所とするか。先づ中心目標を決定し、それが社會の要求と合致するか否かを確かめたのちに、その圖書館は始めて成長しかつ勢力を増し加へてゆく可能性が見出される。

圖書館を設立するに方つては中央の日本圖書館協會、府縣の圖書館協會、もし手近に圖書館協會がなければ府縣市の教育委員會、或はその圖書館部會に相談して意見を求め、圖書館經營に關する文献などを蒐集する。また同一府縣内で同種の學校・町村・團體などで既に圖書館經營を實施してゐるものがあれば、これと連絡するなり訪問して見學するなりして實相を調査する。同時に圖書館の價値について互に討論もし、公聽會を開き、新聞に演壇にこれを論じ、有力者・有識者を説得し、學校教師・宗教家を動かし、各種の文化團體に呼びかけてその賛助を得なければならぬ。時として天降りの圖書館の設置が要求される場合もあるが、さうした時でも圖書館は社會の支持なくして

は存續し難いのであるから、健全な成長を期するために準備を慎重に進め、一般の輿論を喚起する運動をもつべきである。即ち社會の各層・各階級を代表する設立委員會を作り、圖書館經營の實際に當る司書と協力して企劃に當る。この設立委員會は將來圖書館商議會の母胎となるもので、圖書館は當初の出發點こそ小規模でも關はないが、のちに發展の可能性をもつ種子であらねばならない。

前にも述べた通り、圖書館も又他の事業と同様に、主腦者の能力と經驗との有無によつて失敗と成功の岐路に立つものである。司書の仕事は一日で修得されるものではない、圖書館の知識は新しい事業に着手するときに最も切實に要求される。従つて圖書館の性格を決定し、その經營計畫を進める前に、事情さへ許せばまづ司書を選定すべきである。相當の給料を吝しみさへしなければ、適當な男女の司書を得るのは困難でなく、最初は或は過重な經濟的負擔と感ぜられるかも知れないが、節約は他の面ですることとして、迫力のある司書を選定せねばならぬ。若し資金その他の關係で未經驗者を採用せねばならぬとしたら、直ちに圖書館の組織管理について充分な知識を要求すべきである。圖書館設立委員會はその選定した司書が、圖書館文献を涉獵しながら各方面と接渉する事實を知るに困難ではあるまい。

最後に創設費の問題である。序説にも述べて置いたが、圖書館の新營建築は第二義的のものである。



るとの見地から姑くこれを除いておく。その理由は、わが國の圖書館が現在の閱覽室中心から貸出中心へ大轉換を行はない限り、建築費は設立費の大部分を蠶食するばかりで、多大の負擔を將來に向つて社會に課することとなり、幾許計上したらいかに見當が付き兼ねるからである。現在のわが公共圖書館の閱覽者は過半數が學生であるが、學校圖書館の設備が充實して活動しなへすれば、彼等はその方に移動することは必然である。街の貸本屋が新しく簇出して重寶がられてゐたり、雜誌廻覽讀書會がインテリ階級の旺盛な讀書欲を満足させゐてゐることなどは、公共圖書館の深く反省しなければならぬ點と考へる。それはそれとして圖書館の建築(書庫及び讀書室)は起債によるなり、有志の寄附に待つなりして、創設費は給與・最小限度の營繕費・備品費(器具・機械)・基本圖書費・消耗品費(筆紙墨薪炭)に限り、まづ經常費の三倍・五倍・十倍と假定し、圖書館の對象となる社會の構成員數(市町村の人口・學校の教員生徒數・會員數)と、圖書館の性格とを考慮すれば適當な決定が得られるであらう。そこで經常費であるが、これもその社會の負擔力のいかに待つよりほかはないが、アメリカの公共圖書館では大體人口當り一弗を標準として、市町村住民の所有財産に課する徵稅價格一弗につき、その千分の一(わが二厘)以上の特別稅で賄ふこととし、個々の市民には大きな負擔とならぬ零碎な額を市町村議會の權限で徵收するのである。一九二四年のアメリカ

カ圖書館協會調査による人口一人當りの公共圖書館費を、A級(藏書十萬以上)・B級(同五萬乃至十萬)・C級(同二萬乃至五萬)・D級(同二萬以下)にわけ、それぞれ最高十館と最低十館とを次に掲げる。但し當該館の市町村名は分つてゐるが、その人口數を正確に知り得ない憾があるので省略し、順位だけを掲げることとした。

順位	A 級		B 級		C 級		D 級	
	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗
1	1.051	0.010	1.031	0.016	1.031	0.015	1.031	0.005
2	1.031	0.019	1.030	0.019	1.031	0.010	1.031	0.002
3	1.010	0.014	1.016	0.011	1.015	0.010	1.010	0.010
4	1.000	0.016	1.011	0.012	1.014	0.014	1.017	0.013
5	0.922	0.010	0.929	0.011	1.019	0.012	1.027	0.018
6	0.914	0.012	0.929	0.012	1.019	0.012	1.029	0.017
7	0.914	0.011	0.929	0.012	1.022	0.012	1.029	0.017
8	0.872	0.011	0.929	0.012	1.013	0.012	1.021	0.010
9	0.874	0.014	0.929	0.012	1.013	0.010	1.026	0.011
10	0.863	0.019	0.929	0.011	1.020	0.014	1.025	0.013



次の表は貸出圖書一冊について要した各館の費用を、同じく最高・最低のおの十館づつを示したものである。

順位	A 級		B 級		C 級		D 級	
	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗
1	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
2	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
3	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
4	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
5	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
6	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
7	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
8	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
9	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元
10	0.2元	0.08元	0.1元	0.094元	0.2元	0.055元	0.4元	0.03元

大學（カレッジ及びユニヴァシチー）図書館の場合は正規の學生（選科生・別科を除く）一人當りの圖書・定期刊行物（雜誌）・製本費合算したものを、A 級（蔵書十萬冊以上、以下前表に同じ）

B 級・C 級・D 級にわけ、最高十館・最低十館とをそれぞれ次に表示する。専門図書館の場合の参考となるかと思ふ。

順位	A 級		B 級		C 級		D 級	
	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗	最高 弗	最低 弗
1	2.5元	2.6元	3.9元	1.9元	1.5元	0.7元	3.4元	0.8元
2	3.4元	4.2元	2.5元	2.2元	1.3元	1.4元	1.6元	0.9元
3	1.9元	5.0元	2.2元	2.2元	1.3元	1.8元	1.6元	0.9元
4	1.7元	5.5元	2.2元	2.2元	1.3元	1.8元	1.6元	0.9元
5	1.4元	6.7元	1.1元	2.5元	6.3元	2.4元	6.9元	1.1元
6	1.3元	6.8元	9.0元	4.0元	6.3元	2.7元	6.3元	1.1元
7	1.3元	7.3元	8.4元	4.0元	6.0元	2.9元	6.1元	1.3元
8	1.1元	7.7元	7.8元	4.6元	5.7元	3.1元	5.3元	1.6元
9	9.7元	8.1元	7.6元	4.9元	5.1元	3.1元	4.8元	1.8元
10	8.8元	8.7元	6.6元	5.5元	5.0元	3.4元	4.5元	1.9元



## 五 圖書館の設備

四四

圖書館が書物を保存するのを主目的とした時代には、圖書館の設備は最小の費用で最大多數の書物を、最小の場所に收容することであつた。圖書館がすべての人々にその欲する書物を、しかも最小の費用で與へようとするならば、その設備は従前のそれとは自から行き方が違はねばならない。書物に就ては別項に譲り、圖書館を設立するに當つては机・椅子・テーブル・書架・本立・自動數字機ナンバリングマシン・圖書原簿・圖書票・館印・藏書印・浮出印・揭示板・カード箱・目錄カード・見出カード・ラベル・ナイフ・錐・ペン・インキ・鉛筆・筆箱・糊・塵拂・塵取・修理道具などさまざまの細々した家具・器具・文具・雜品類が必要である。これ等は専門の製造家があつて必要に應じていつれも供給してくれたのであるが、ここしばらくはその便宜をうけることが困難なので、中央・地方の圖書館協會に相談して規格品を入手することに注意すべきである。規格品とは可動性をもつてゐるといふことである。一つの器具がある場所から他の場所へ移されたとき、そこに適當するものでなければならぬ。例へば新しい書架を舊い書架に並べたとき、高低も凸凹もあつてはならないのである。二つの異なるカード箱が並

んで圖書館職員を睥睨してゐるとき、執務する者の心理に微妙な影響を與へて、知らず識らずのあいだに神経を焦立せ、仕事の上に異なる結果を見ることが少くない。

天衣無縫の圖書館經營法ニユーワーク式をアメリカの天地に發散させた同地の公共圖書館長デーナは、圖書館が土地の中央に地位を占め、濶い場所と光線を充分にとり入れることができれば——この三條件さへ揃へば室の形や種類は問ふを須ひないと言つてゐる。デーナは小圖書館には書庫は必要ないと主張してゐるが、彼の言ふ小圖書館とは藏書五萬冊以下のものである。小圖書館が書庫をもつと不便であるばかりでなく、無用の書物でも保存したいといふ誘惑にかかりやすい。小圖書館は斷えず汚損した時代後れの書物を除去し、新陳代謝を行はなければならぬのである。故に假りに五萬冊の書物を十五年かかつて蒐集し、その間大膽に思切つた廢棄を斷行しなかつたとすれば、少くとも一萬冊の書物は書架にあつて無用の場所を占領し、むしろ却つて有害の作用をしてゐる。即ちこれ等の書物は塵を被つて書架を温めながら、利用もされずに讀者の邪魔になり、いろいろの點で圖書館浪費の原因となつてゐる。

五萬冊の書物を書架に收容するには床面積で二千五百平方呎(七〇坪)を必要とするが、書物のうち少くも四分の一は常に貸出されてゐるのであるから、それほど場所の必要はないが、この書架面



積に讀書室・事務室などに必要な面積を八千平方呎（二百二十五坪）と見積ると、五萬の蔵書を持ち毎日一千冊の貸出をする圖書館は、平家建で百呎平方（三百坪）の素晴らしい建物となり、中央の廣間には天井から充分に光線を採り入れ、地階には暖房機關・倉庫などを設けることができる。これをもつてみても數百冊しか蔵書をもたない圖書館でも、五萬冊の蔵書をもつ圖書館でも、その根本條件では少しも變らないのである。デーナに言はせると、所謂「記念圖書館」なるものは、殆んどすべてその建物が數箇月の後、或は數年の後にはその目的に合致しなくなつてゐるのは、當初の構想によつてコンストラクションに投ずる費用をアーキテクチュアに使つたため、内部の配置が増加する書物・職員・讀者に適當しなくなつたからである。そこで圖書館建築は急ぐ必要はない、むしろ一時は假住ひであつても數年の経験を積めば、圖書館自身で建築の必要條件を決定してくれる。圖書館は一般に豫想する以上に膨脹發展するものであり、圖書館の建築はこれを考慮に入れて計畫すべきものであると。

デーナは上記の三條件のうへに、恒久的な仕切はできるだけ少いがよいと主張してゐる。フェリ一街にあるニューワーク公共圖書館の分館は、銅版工の使用した二室で二十二呎に六十五呎（三十六坪）のものであるが、正面と一方とから光線をうけ、一年平均七萬三千冊の書物を貸出してゐる。

兒童部のために二卓十四の座席を設け、讀書室の座席は三卓十二ある。仕切りには書架を利用して巧みに配置し、事務室も別に設けてある。デーナの説によれば單純であることが圖書館配置の根本原則で、圖書館は日を逐ふて段々と擴大してゆき、書物も讀者も職員も増加して、いろいろと活動の方面も増すが、場所さへ充分にあれば新しい條件に適合するのは容易である。彼が例示した二十四呎平方（三十坪）の小圖書館は三千冊の書物を置き、テーブルを備へて讀者を收容する餘裕が充分にある。第二例は四十呎平方（四十四坪）のもので、これも柱や仕切りがないため六千冊乃至八千冊の書物と、四十の座席のほか貸出席・借覽者讀書席を容れて餘りがある。更に第三例は三十八呎と七十呎（七十四坪）の室で、これまた柱も仕切もないため一人の職員で監督ができ、一萬五千冊の書物を備へて七十八の座席がある。ただ書架が壁に向つてゐるために日中は光線が十分でなく、圖書館の助手も來館者もそこに行くには遠くて億劫がるし、また讀者の妨げとなることが多い。

圖書館の室内裝飾は單純なのがよい。書架は固定したものを避けるべきである。外徑の高さ六尺五寸、各段九寸二分（上段から第五段まで）、最下段は一尺二分として床上と最下段の棚板との間を三寸あける。奥行九寸、兩面ときはは一尺七寸乃至二尺、棚板は厚さ一寸、幅三尺以下、三尺以上ではどんな厚い材料を使つても、書物の重さと棚板の自重で歪みができる。これに一棚二十五冊、



六尺幅で片面三百冊、両面を使用すれば六百冊を收容することかできる。これを蔵書の増加する數に應じて倍にしました三倍にする、片面書架は兩面のものよりも動かしやすいのは言ふまでもない。光線は上部或は下部、または双方から採り入れる。或は書架と書架の中間に窓を置く。器具類は飾りのない程よい。單純な松材或はホワイト・ウッドを拭き込んだものは品位のあるものである。肘掛椅子は場所をふさぐし動かし難いから立居に不便である。しかし長い時間落ちついてユックリと讀書を樂しむ人々のためには、氣持のよい肘掛椅子と餘裕があれば長椅子を備付けたらよい。デーナは二十五年の経験から、椅子よりも鐵脚で固定した廻轉腰掛を推稱してゐる。特に讀書するもの書物を借出するものが頻繁に出入する圖書館では、この腰掛に賛成する當局者が多いと述べてゐる。しかし若し圖書館の部屋を各種の集會や夜學校の教室に使用する場合には、器具類はすべて動かし易いものでなければならぬ。書架のような重い品物は座席などの移動や、配置を仕直すときに邪魔にならぬやう豫め注意しなければならぬ。

椅子でも机でも、多少なりとも丸味を帯びたものが望ましい。兒童圖書館や學校圖書館では、圓卓を是非備付けたいものである。暖房や換氣の設備も司書の注意すべきことであるが、これは氣の利いた守衛なり小使が助手として適當に處理してくれる。圖書館は清潔であるべきで、誰しも清潔

と秩序正しいことを好まぬものはない、圖書館はこれ等の人々の利用する場所である。靜肅であることは讀者・研究者に缺くべからざる條件ではあるが、しかしこれを要求するのに「べし」「べからず」式の揭示はできるだけ避くべきである。「脱帽」、「靜肅」、「禁煙」などの文字も簡潔で要項を得てはゐるものの、圖書館に使用される揭示としては、ぎこちなく感じのよいものではない。圖書館は市民大衆を強いて誘導すべき場所であり、その一般的雰圍氣は春風駘蕩のうちに秩序があり、嬉々悅樂のうちに嚴肅でなければならぬ。しかしそれは官僚的であるといふことではない。

## 六 圖書館の職員

以上述べたところによつて圖書館經營の責任は、圖書館長である司書の双肩にあることがほぼ明らかになつたかと思ふ。書物の數が少く、その保存が圖書館の主な關心事であつた時代には、書物の敵——火災・水難・蟲害・書盜に備へれば足りた。従つて極端に言へば聾啞者でも不具者でも、圖書館の管理者として尸位素餐の譏を受けることはなかつた。そして圖書館の仕事に専門にする人々が必要であるといふ段階に達するまでには相當の時間がかかつた、即ちグラスコー大學では一八



五八年まで司書が入學許可や學生名簿作製の事務を執つてゐたし、ハーヴァートやエール大學でもフル・タイムの専任司書が採用されたのはごく最近のことである。それまで圖書館長の地位は半ば隠退した老教授か無能教師に委ねられ、司書の地位・身分・訓練については他の事務系統の書記と同様であつた。現在でもわが國の大學圖書館長の殆んどすべてが教授の補職であり、半世紀前の東京大學ではこれを「圖書館管理」と呼んでゐた。しかも圖書館専用家の必要が認識されたのちでも、司書の資格を理解するまでにはなかなか至らなかつた。餅は餅屋の譬もある通り、米屋が米の性質を見分け、呉服屋が衣服の銘柄を知り、保険業者が生命表とその意味を知らなければ成功しないと同様に、知識學問に關係をもち、書物を取扱ふ司書が學者としての理解と判斷力とをもち、科學的訓練と慣習の人であることが要求されるのは至當であらう。ここに言ふ學者とは喜劇に出てくる常識外れの術學的な、浮世離れのした「鯛の目玉」の研究に一生を没頭する型の専門家ではなく、書物の選擇・讀書指導・知識の所在を敏速に發見し得る人を指すのである。

司書をはじめ圖書館の職員となるには一般的教養のほか、特別な理論的訓練と實際的經驗が必要であり、同時に多少の手の熟練・タイプライター或は手書の―がいる。どちらかと言へば圖書館員の仕事は同じ専門的職業のうちでも醫師に類するものであるが、手の仕事は下級職員に限られ、圖

書館長はむしろ行政的手腕を高く買はれてゐる。外科醫が手術の經驗を多く積んで評判が高くなるのとは反對である。圖書館職員を養成する圖書館學校は一八八七年アメリカでデューキーがその管理してゐたコロンビア大學の圖書館に創始したのが最初で、その後もだんだんその數が増加してゐる。オルバニーにある紐育州立圖書館學校即ちデューキーの圖書館學校の後繼者は、カレッヂの卒業生を入學させる二箇年課程で、バチュラー・オブ・ライブラリー・サイエンスの學位を與へる。學課は圖書館行政・書誌學・實際課程・技術課程の四部に分れ、講義のほか學級の合同作業・討論・問題の提出・參考書を読むことが要求され、卒業前には讀書目錄・蒐集資料を提出しなければならぬ。その他の圖書館學校も大同小異で、ハイスクール又はカレッヂの卒業生或はカレッヂ二年修了を入學條件にしてゐる。別に夏期學校が大學或は州圖書館委員會主催で開かれ、平常餘暇のない圖書館助手たちのために、最近では學校教師のために學校圖書館經營に必要な知識と訓練を與へてゐる。期間もわが國の夏期講習會と違つて相當永く、例へば前記オルバニーの夏期學校で六週間の訓練を受けたものは、「オルバニー出身」と誇稱してゐるし、チャウタウクアの夏期學校は四年連續講習で一箇年の課程を卒へることになつてゐる。わが文部省の圖書館員講習所は大正十年に開かれ、修業年限一箇年で中等學校卒業生の入學を許可し、圖書館管理法・圖書館史・目錄法・書誌學・分類法・文



化學のほか英・獨・佛の近代語と實習を課してゐた（最近京都大學にもほぼ同様の圖書館學校が設置された）。次に参考のためプラット・インスチテュート圖書館學校の課程を掲げて置く。

一 管理科——管理上の諸問題、圖書購入、分館の管理、執務方法、圖書館史、圖書館建築、圖書館立法、圖書館印刷、兒童部實習

二 技術科——十進分類法、分類史、目錄原理、地圖目錄法、件名目錄法、官廳出版物、圖書館經理、索引、獨佛專門語學、伊太利專門語學（選擇）

三 圖書科——圖書選擇原理、版次、出版者、小説の評價、定期刊行物の評價、兒童圖書、參考圖書、書誌學一般及特殊、時事問題、話術（選擇）

四 實習科——目錄部、貸出部、兒童部、讀書室、參考部、春季一週間の見學（圖書館、製本所、古本市、その他）

かくして養成された人々は、教育機關とした將たまた文化施設として社會的に重要な地位を占め、ますますこれを進歩發展擴張させる必要のある圖書館の當局者であるから、その身分は保障され、その地位に對して正當な待遇——給料を社會から受ける權利をもつ。正しいにせよ正しくないにせよ、現代の人間社會は貨幣を基礎としてその經濟を組織してゐる。貨幣は世界を支配し、そして人

間の身分を決定するばかりでなく、人間の社會に對するカーヴイスの價値をも決定してゐる。不當に菲薄な待遇を人間に與へることは社會惡であり、社會的危機の温床である。貧乏を通りこして飢餓線上を彷徨してゐる圖書館職員に、どんなに天職を説いたところでこれ等の人々からその使命を遂行する情熱の焰を掻き立てることは無理であり、假りにその熱心を喚び起しても豫期の効果を生み出すことは困難だと言はねばならない。アメリカ圖書館協會給料委員會が一九二二年十二月シカゴで開かれた理事會に報告した決議勧告によれば、カレッジを卒業して一年の圖書館學校の教育を受けたものは初任給年額一、六二〇弗以下であつてはならぬ。カレッジを中途退學して一年の圖書館學校を卒業したものは一、三八〇弗以下を受取つてはならぬ。ハイスクールの卒業生で一年の圖書館學校或はこれに準ずる講習所の教育を受けた助手は、初任給一、二〇〇弗以下であつてはならぬ。圖書館學校の正式な教育は受けられないけれども、完備した圖書館で同様の講習或は經驗を積んだ助手は、その經驗の時間と性質とに相當する資格に屬する階級の初任給を受取るべきである。生活費の平均額を上廻る都市にあつては、より高額の最低給料を支給せらるべく、相當責任ある地位についても同様である。都市および州の圖書館職員の給料は、その都市及び州の銀行會社員・教員その他の職業に相應するよう特に是正されなければならぬ。以上の決議勧告の目的はこれによつて



十分に資格のある有能の人物を図書館事業に誘致するがためである、云々。

アメリカ図書館職員の実際を見ると、例へば一、二〇〇弗以下の助手十四人のうち、家族と同居して名前だけの室料と食費とを拂つてゐるものを含めて、十人は給料だけで生活ができないで両親の補助を受けたり、或は他から収入の途を講じてゐる。この種の例は他にもある。図書館助手の最低賃金を定めることは困難であるが、ライブラリー・サーヴィスに載つてゐる一九二〇年一月デトロイトにおける「相當の生活をするための最低給料による家族豫算」を次に掲げる。なほ一九二〇年一月の生活費は世界大戦前の一九一四年七月と比較すると、九〇%の増加である。

室料	三六〇弗	食費	五〇〇弗
衛生費	一二〇	衣料費	三五〇
交通費	五四	健康費	六〇
社交費	八四	贈答費	三六
職業費	六〇	貯蓄	ナシ
計	一、六二六弗		

註 社交費は一箇月三弗、休暇のために一箇月四弗一六仙を用意する。職業費には教養費・會議費を含む。

醫師を迎へたとき、われわれは往診料を支拂ふことを當然と考へてゐる、それは患者の生死の問題だからである。また辯護士に事件の鑑定を求めた場合に、われわれは必ず手数料を支拂ふが、それは財産の得喪にかかる問題だからである。しかし學校教師や図書館職員のサーヴィスはその効果が、醫師や辯護士の場合ほど表面に現はれるものではない。一年の後か、十年の後か、恐らく一・二世代も経つてからその利益が表面に表はれることであらう。しかし學校教師にせよ図書館職員にせよ、都市の他の職員例へば土木技師・衛生技師・財務吏員と同一の給料と特權を受ける權利がある。しかし図書館事業の旺んなアメリカにおいてさへ、學校教師と比較すると、図書館職員の待遇が遙かに下位にあると聞くのは、われわれの特に注意すべきことである。

図書館職員の勤務時間は更に重要な問題である。アメリカでは週四十二時間乃至五十時間であつたが、最近では三十八時間乃至四十二時間になつてゐる。休日と休暇とを差引いて図書館職員の勤務時間は、一年に約二千時間に達してゐるが、デーナによるとこれは普通の學校教師の勤務時間の二倍であるといふ。學校教師の仕事が樂なものでないことは明らかであるが、よい図書館職員の學識・經驗・技能・人格も亦よい學校教師のそれと軒致があらうとは考へられない。ことに図書館職員は常務としての夜間勤務があり、休日出勤があり、勤務時間の多寡よりもその不規則なのが惱み



の種である。次から次へと人のたてこんで来る貸出臺の職員は、休息する時間もなく立ちつづけで、食事の時間も不規則になり勝ちであるが、これほど健康を損するものはない。かつ長時間同一の仕事執ると自然に能率を低下するものである。例へば目録係について、ビショップ博士は勤務の最大限度は七時間を越えてはならぬと言つてゐる。疲労に陥らぬよう一日のうちには擔當事務を他に轉換させる必要があらう。それぞれの職員が自身の管掌事務に精通するのはむろんであるが、他人の處務にも關心をもち、これに同情を寄せることによつて圖書館の均整した發展が望まれる。

圖書館職員と書物と讀者とは圖書館の三位一體であることは前にも述べたが、近代圖書館は讀者なくしては成立しない。曾つて圖書館は讀者の來るのを嫌つたことがある。カピテン・クックの旅日記を要求するものが非常に多かつたとき、その圖書館長はこの書物がある友人に借して暫く手許に置いてくれと頼んだといふ。しかもこの圖書館長は五十年もその職にあつた人であるが、今日では全くアナクロニズムだと言はざるを得ない。アメリカで圖書館はしばしば百貨店に比較されるが、圖書館と百貨店とはアメリカ生活の二大代表かも知れない。圖書館には百貨店ほど人手が十分あるわけではないが、圖書館職員の讀者に對する態度は、決して卑屈であつてはならないが、百貨店員が買客に接したときの愛嬌は學ぶべきであると思ふ。假りに讀者の求める書物が貸出中であつ

たとしても、ただ貸出中ですと答へると、それに代る書物を示して、これはどうですかと訊ねると、讀者がその圖書館から、その圖書館職員から受ける印象は格段に相違あることに疑ひない。圖書館の空氣が氣持よく、圖書館職員が町重で愛想があるならば、讀者の足は自然に圖書館に引きつけられざるを得ない。

圖書館職員が成功するためには心理學者であらねばならない。その意味は心理學原論を研究せよといふのではない。むしろ心理學の研究は決して無益ではないが、多くの人間を觀察する機會をもつ圖書館職員は、實際に働く人間心理の知識を學び、人性を理解する能力を涵養すべきである。兒童でさへも兩親や教師の心理を看破する術を心得てゐるではないか。圖書館職員は書物と讀者とを結びつける仲介者の役である。下世話にも仲人は草鞋千足といふ程に苦勞のあるものである。所謂仲人口を利いてはならず、むしろ正直であることが感謝される。書物を知ることとは圖書館職員のは非必要とするところであるが、これは一方の相手方を知るにとどまり、他の相手方を知らなければならぬ。圖書館職員はいろいろの種類の人に接するが、太郎と次郎の相違を知ることとは、ニュートンとアインシュタインとの相違を知るほど容易ではない。しかしこれなくしては成功は期せられない。讀者に働きかけるのではなく、讀者の立場において共に働くのである。そのためには忍耐心



を要し知性を要する。

図書館に来る人々は千差萬別である、老若男女は言はずもがな、職業の種類だけでも——同じ會社員でもいろいろの會社がある——幾千百を數へるであらう。これ等の人々がさまざまの要求を抱いて図書館の入口をくぐる。知識を求めるものもあらう、特殊の研究材料を探すものもあらう、生活の慰安を求めるものもあらう、單に趣味的娛樂的な讀書をしたいと望むものもあらう。これ等の種々雑多な欲望をもつ讀者は年齢の差があり、知識の程度も違ひ、環境も異つてゐる。それ等の讀者に図書館職員は等しく能率をあげなければならない、しかも書物の限界も亦それぞれ異つてゐる。初心者には入門書を、學者には學術書を與へなければならない。そこで「適當な書物を適當な讀者に適當な時に適當な方法で」The right book for the right reader at the right time in the right manner といふ標語が生れたのである。図書館職員と讀者との關係は教師が兒童を教育するそれではなく、書物について意見を交換する友人關係であるべきである。そこに相互の理解と同情と熱心とが渾然と發揮され融合されなければならない。司書を作るものは學問でなく、知識でなく、經驗でなく、況んや給料でもなく、實にその人格である。

## 七 圖書の選擇

圖書の選擇には二つの意味がある、第一は讀者のために図書館の書物を選択することであり、讀書指導・參考事務・貸付係の仕事である。第二は図書館のために書物を選択することで、第一の選擇に對する豫備的或は先行する仕事である。書物のない図書館は絶対に考へられないのではあるが、さらばと言つて図書館はあらゆる一切の書物を備付けることは不可能である。一九一一年イウインスキーの統計によると世界の書物の種類は、最初のカックストン版以來計算して二千五百萬種と言はれ、これには異版等は含まれてゐない。假りに一切の書物を図書館に備へることが可能であつたにしても、それは無用の業である。従つて書物の選擇が図書館のためには最初の、そして最大の仕事であらねばならない。

図書館の集書は(イ)購入(ロ)寄贈(ハ)寄託(ニ)交換によつて成り立つ。そしてその主要な仕事は購入であり、これに主力を注がねばならないのであるけれども、圖書の選擇は購入の場合に限らず、他のすべての場合にも行はなければならない。寄贈書だからと言つて選擇を等閑にす



ることは厳禁である。図書館長である司書の仕事は多方面に亘り、建物・器具の管理から、その幕僚への仕事の振り當て、對外的には図書館の宣傳・事業の年次報告などいろいろの職務があり、それが最も重要であるかを決定するのは困難であるけれども、圖書の選擇はたしかに多くの精力と時間と熟練とを要するは疑なき事實である。もちろん図書館商議會の示唆もあり、幕僚の助力もあるであらうが、しかしさうした場合でも大部分の仕事は司書の責任である。年々國內で出版される書物の種類だけでも幾萬もあり、購書に投ぜられる費用はすべて市民大衆の負擔になる課税であることを考へると、圖書の選擇は容易なことでもなければ輕微な仕事でもないのは自明である。書架に氾濫するほどに集書があつても、それが讀者に奉仕するでもなく、社會の需要に應ずるものでないならば、それは故紙の堆積に過ぎない。數は少くても、よく選擇されて一定の目的に役立つならば、それはよい図書館と言はれ、それ等の書物が集結協力してその図書館を九鼎大呂より重からしめるのである。

図書館はどんなに小規模のものであつても、その種類によつて独自の理想をもち、一定の政策によつて經營されるものである。公共図書館と學校図書館と専門図書館と特殊図書館とは、それぞれ異つた理想と目的とをもつてゐる。それは図書館の奉仕する對象社會によつて異なるのであつて、社

會の需要は量と質とによつて違つてゐる。公共図書館の書物需要量は大きいが質はそれ程でなく、エキステンシヴであるがインテンシヴでない、これに對して専門図書館はインテンシヴの需要量をもつと言へるであらう。前に掲げた一人當りの図書館經費或は圖書費がこれを示唆してゐる。また讀者社會の需要は書物の種類によつて異なる、知識の書を求めるものもあり、思想感情を高揚させるもの、生活の苦勞を忘れ人生の意義を他人の經驗によつて知らうとするもの、それぞれ讀者によつて書物の價値も違へば、同じ種類の書物であつても讀者によつて需要の質と量とが違ふ。そして讀者の要求を知るには讀者を理解すること、讀者を理解して始めてその要求を満足せしめることができる。讀者が満足すれば図書館の選擇した書物が適當なものであり、適當な時期に適當な讀者に適當な方法で提供され、図書館の目的がここに達せられたことになる。

それではどうして讀者社會の要求を知ることができるか、第一には社會の實體を調査することである。市町村の公共図書館は、その所在地の土地・戸口・職業・産業・教育・宗教・各種團體・政治を知らねばならぬ。この種の調査はこれまで地方の行政官廳なり自治體が現實に行つてゐて、「現勢一覽」を出してゐるから、その資料を利用すれば大體は判明するし、その外商工會議所やその他の團體の特殊調査もある。しかし図書館自らもその必要とする調査を企畫すべきであつて、これこそま



さに貴重な資料と言ふべきであらう。それはもとより困難には違ひないが、図書館長はじめ幕僚は図書館商議會の支援を得て、それぞれ分擔してなり協同してなり、緊急な項目から著手して漸次他に及ぼしたらよい。圖書の選擇は主として司書の責任であることは前にも述べたが、同時に圖書館職員の總智能を傾倒してこれに當ることが圖書館に課せられた義務なのである。學校・銀行・會社・工場・青年會・婦人會などにつき讀書傾向や、或は書店の圖書雜誌の賣行調査など、當事者の理解を得てやつたらよい。讀者社會の呼吸を知るためには圖書館職員自ら社會の脈搏に觸れなければならぬ。

社會調査は圖書館の社會的奉仕の立場からその社會の讀書欲を知るに役立つが、個人的奉仕のためには讀者調査がより重要で、よりの確で効果がある。もとより圖書館に登録してゐる讀者だけでなく、未登録者の間にも圖書館は進出して行かねばならぬことは言ふまでもないが、その基本となるのは矢張りその圖書館の常得意とする讀者である。住所・職業・年齢は讀者層の所在・分布を知り、指導上に發明するところがあるであらうし、専門圖書館ならば會員の趣味嗜好ないし研究題目がわかれば圖書選擇に便利である。分類による讀書統計は讀者の熱度を計る檢温器であつて、こ

れによつて時々グラフを作つて見ると讀者社會の讀書傾向がわかる。しかし餘り概括的な區分統計では無意味な結果を生ずる、例へば美術書が六〇〇冊讀まれたとしても、彫刻・繪畫・寫眞術・運動競技等の全部を通じて均等して書物が貸出されたのではなく、實際には彫刻二〇冊、繪畫五〇冊寫眞術三〇冊、運動競技七〇冊等であつたとしたら、その指數によつて圖書を選擇すべきは贅言を要しない。特に新刊新著書についてはその讀書回數を調査して、その選擇が當を得てゐたか否かを確かめるがよい。或る著書が好評を博すると、同一著者の他の書物が要求されることがあり、或る事件が起つたために、それに關聯する書物が急に讀まれることがある。「最も多く讀まれた圖書」の月計などは参考になる。

讀者に投書させて書物を推薦せしめることも亦圖書選擇の鍵となる、と同時に讀者に圖書館を自分のものと思わせる一石二鳥の効果がある。しかし讀者に盲從してはならない、圖書館の種類・圖書費の多寡などにより、その取捨は飽くまでも圖書館の自主的選擇によるのである。推薦圖書のうち選擇を留保したものは、その目錄を相當期間保存して、時々檢閲すれば意外の發見がある。讀者案内係・參考圖書係・圖書貸付係などに對する讀者の質問も、主なるものは記録して置いて、圖書選擇の會談の席に提出して批判しあふのもよい。人手の足らぬ圖書館では讀書室に帳面を備へて讀



者に要望を記入させ、短い時間内にこれに答へるのも一方法である。讀者のうちにはハニカミ屋さんがあつて、質問なり要求を直接申出ることを躊躇する傾きがあるから、彼等の意見を發表させる手段を講ずるのは賢いやり方である。前節にも述べた讀者との個人的接觸はもとより、圖書館職員は學者・實業家・公吏・教員など社會の指導者たちと親交を結び、各種の學術團體・社交團體・俱樂部の會員となり、支障のない限り政黨に關係し、労働組合に参加するがよい。これ等諸團體に屬する人々の趣味道樂を理解すれば、推してその背後にある市民大衆を理解することができる。

曩に圖書館は百貨店と比較されると述べたが、圖書の選擇についてもこの比較は正しいことがわかる。圖書館は市民大學と言はれてあらゆる科學と知識とが蒐積されてゐる、それは恰度百貨の品を店頭並べて需要者の來るのを待つデパートの状態に似てゐる。書物の選擇は百貨店の仕入掛が商品を仕入れるのと同じで、商品目錄は即ち出版圖書目錄である。仕入掛はこれによつて高價のものであらうと廉價のものであらうと、市民の欲望を察してこれに適應する品物を仕入れる。この際百貨店全體の商品を仕入れる場合もあらうが、多くはそれぞれ専門の部門を擔當して或は食料品、或は雜貨品または衣料品を受持つてゐる。しかし商品の仕入れは百貨店の事務の一部であつて、その商品が賣られて買客の手に渡つたのちに利潤を生じ、そこではじめてその仕入が當を得たか否かが

が分明する。賣れない商品を徒らに擁する百貨店は結局失敗と斷じてよいが、同様に讀者の現在および將來に利用される書物を選択するのが優れた圖書選擇者の建前である。良書であつてもスタンダードの書物であつても、それが利用されなければ選擇は謬つたと言はなければならぬ。圖書館全體の場合であつても、兒童書とか科學書といった専門書の場合でも同様である。そこで圖書の選擇には圖書館全體がこれに關心をもち、書物について兒童にも使丁にもその所見を徴したらよい。

圖書館はその特殊性を裏づける書物を選択してこれを蒐集する心掛けが必要がある。所謂郷土誌料としてその地方の地理・歴史・人物・産業・政治等に關する書物印刷物を集める。學校圖書館ならば生徒の製作品、教授の著書論文、學校の出版物はもちろんのこと、事情さへ許せば傳記書とか美術書とかに重點を置いて書物を蒐集する政策があつてよい。マサチュセツツ州のニューベツトフオード公共圖書館では捕鯨船の出入基地であるといふので、捕鯨に關する集書があると言ふことである。有名な個人文庫を手に入れることができれば、これ亦圖書館の特色となるであらう。住宅街の分館と商工地區の集書には自ら異色のものができてよい筈である。地方地方の圖書館が協同して圖書資源の有無を融通する書物の相互貸借は是非實行せねばならないが、その場合には圖書の選擇の協定も行はれるであらう。しかし一般に多くの種類の書物を集めるよりも、よく讀まれる書物



を選択して重複を削りてはならない。良書は選擇の目標ではあるが讀まれない良書に力を入れて、讀まれる平凡の書物を無視するのはよくない。積極的に利用價值のあるもの、何等かの目的に役立つもの、永遠性をもつもの、教育的價值のあるものを一般の選擇方針とすべきである。選擇は公平で均整のとれた判斷を必要とする、政治的・宗教的・經濟的・文學的偏見の介入することは極端に警戒すべきは言ふまでもない。

讀書の習性をもつ圖書館職員は自然に書物の價值判斷を下し得るのであるが、著者・出版者・書價・裝釘・紙・印刷などについて一應の知識を具へ、内容の配列に注意し圖版・挿畫・脚註・索引の有無・版次が選擇の標準になる。新聞雑誌の廣告・紹介・批評にも目を通し、標準圖書目録・他の圖書館の藏書目録・館報にも注意を要する。しかしいづれにせよ集書の完璧を期することは不可能とも言ふべき野心であつて、特殊性を備へた普遍的均整のとれた集書をもつて満足しなければならぬ。そして圖書費が恐らく最後の決定的役割をもつと言つてよい。圖書費は大體圖書館總經費の二五%乃至三〇% (新聞雑誌を含む)、これに對して給料(俸給及び雜給)四五%ないし五〇%、その残りが事務費(製本費・營繕費・消耗費・旅費等)である。わが國の圖書館では圖書費が比較的高率で、給料が非常に低いのは食物が多過ぎて消化力がこれに伴はず、食滯病に罹つてゐるのだ

と和田萬吉博士は評して居られるが、圖書費は豫め書物の種類に應じて區分して置くのも圖書選擇の目安になるであらう。アメリカ圖書館協會の標準目録、デーナ、ブラウン・セーヤー、ウキリヤムスによる圖書費の區分を次に掲げて他山の石とする。

分類	ALA (一九三三)	ALA (一九四四)	ALA (一九五六)	デーナ	ブラウン・セーヤー	ウキリヤムス
總記	四%	一九%	二二%	四%	三%	五%
哲學	二	一九	二八	一	四	三
宗教	八	四〇	一〇	一〇	七	七
社會	二	一〇	一〇	一	四	六
言語	二	一〇	一〇	一	七	七
科學	七	六二	四三	九	九	一〇
技術	五	六〇	九二	六	九	八
美術	四	四七	九六	四	七	九
文學	四	三三	一四	二	二	二
小文	一	一六	一三	二	二	二
歷史	一	一三	一三	一	一	一
旅行	八	九一	九八	九	八	八
傳記	二	一三	九二	九	八	八
計	100	100	100	100	100	100



## 八 圖書の注文・受入・整備

圖書館經營は他の事業と同じく、處務分擔を定めることが能率的で效果的である。小圖書館では一人で幾つもの仕事を處理せねばならないし、また分館では處務の若干を省略することもできる。いづれにせよ事務を順序よく片付けることが必要である。普通に庶務といはれる部門に文書の受理發送・雇傭人の任免が含まれてゐる、會計事務は圖書館經營が公けの費用である建前から、その取扱に細心の注意が必要なることは言ふまでもないが、圖書の購入以外には面倒は少く、通常の會計處理方法を適用すればよい。しかして圖書の購入はそれほど單純に處理し得られないのは、書物が圖書館の生命であるばかりでなく、いろいろの要素をもち、その數も金額も相當量に達するので、自然系統立てて整理するの<sup>で</sup>なければ、混雜と錯誤とを生ずる懼れが多分にあるからである。

選擇された書物は注文する前に、一應藏書目錄について重複してはゐないかを調査する必要がある。よく讀まれる書物は二部あつても三部あつてもよいが、それ等は別として重複は避けられるものなら避くべきである。書物の注文には一部につき一枚の注文票を作る、これは標準型のカードを

使用して、これに著者名・書名(書物の標題)・卷數・出版地・出版者・出版年・定價・注文先・注文年月日・圖書選擇者(もし讀者の推薦であれば推薦者の姓名と住所)を記入する。この注文票から注文書を作る場合には注文番號を記入して發送簿に控へておくが、注文票を正副二通作つてその一通(甲)を注文先の書店に、他の一通(乙)を圖書館の藏書目錄中に入れて、ある書物が現に注文中であることを知る證憑書類とする。注文先の本屋はその地方の信用のあるのを選ぶべきである。

注文した書物が圖書館に到着したときには、先に本屋に渡した(甲)注文票を必ず掲出させ、これと納品書(代金請求書)と實際の書物とを對照して間違がないかを調査し、(乙)注文票には到着日附を記入し、場合によつては書物の推薦者に通知するが、この(乙)注文票はその儘この書物の目錄ができて目錄カード函に挿入されるまで残して置く。アメリカでは注文票は複寫紙を入れて三通作り、(甲)(乙)は前記の通り、(丙)注文票は議院圖書館に送つて、印刷カード目錄の注文用とするとのことである。

書店から納められる書物は常に完全とは言へないから、落丁・亂丁を調べて取り替へる、とくに高價の書物はこの手數を忘れてはならぬ。出版者は後になつても取り替へて呉れるであらうけれど



も、不完全を発見することが早ければ早い程あとの面倒が少くて済むわけである。書物の注文に當つて図書館の種類にもよるが、ある著者の全著作或は全集を購入しようとする誘惑に打ち克たなければならぬと説く人もある。全集のうちには多く讀まれるものと然らざるものがある。叢書の著者は必ずしもすべてが同一水準の人とは限らない。従つて豫約ものはよくよくの場合でない限り手を出さないで、他日古本店に出たときに必要に應じて購入しても遅くない。小説などで紙質のよくないものは、損傷が早くても製本が可能でないから避くべきである。現品を手にとつて親しく検討して選擇したのでないときには、不適當な書物は引取つて貰うことを豫め注文書店と契約して置くのが安全である。

いよいよ購入と最後の決定をした後には受入傳票を作るもよし、さうでない場合には前記(甲)注文票を受入票に轉用してナンバリング・マシン(自動數字機)で受入番號を記入する、これは直ちに圖書番號となるのであるから正確を期せなければならぬ。書物一冊につき一番號の原則は必ず厳守すべきであつて、すべての書物・小冊子・報告書・會報・雜誌はもちろん、寄贈書・交換書についても同様である。即ち上下二巻の書物はそれぞれ別の圖書番號をもち、後れて出版されても決して番號を遡らせることをしない、またそのために番號を保留することもしない。そして書物には藏

書票を貼り或は藏書印・館印を捺し、必ずこれに圖書番號を記入して置く、場合によつては受入日附が併記されることもある。(甲)注文票は更に受入簿或は圖書原簿に轉記するために廻附されるのであるが、圖書原簿には受入年月日・受入番號(圖書番號)・著者名・書名・出版地・出版者・出版年・頁數・大いさ・裝釘・供給者(書店)名(寄贈書の場合は寄贈者名)・價格・分類・備考の諸欄に記録する。この原簿はその圖書館の書物の完全な活きた歴史である。ことに備考欄には地圖・圖書雜誌・製本・紛失・廢棄・代置等と記入して置けば、その書物の性格と運命とがわかる。轉記入を終つた(甲)注文票は一括して日附順に整理し、代金が支拂はれた後には商議會の請求によりいつも検査を受けられるようにして置き、一方ではこれによつて増加圖書の日計・月計を調製しておくと便利である。

書物は受入が済めばこれを分類し、著者による圖書記號即ち函架番號を定め、これを書物の表紙裏の右上隅に鉛筆で書き入れ、さらに函架表に記入すると同時にラベルを作つて書物の背部中央から下の定位に貼り付ける。函架表は書物が書架に列べられる順序を書き込むもので、ルーブリック式よりもカード式として一部一行式にし、分類毎に見出カードで區別する。著書名・書名・冊數・版次など必要あれば省略を加へて簡明に記入する。函架表が作られラベルが貼付されると、書物



は書架に納められて讀者の利用を待つのである。これで圖書の整備はすむのであるが、かう書いてくると書物の整理は複雑で困難な仕事と考へられるかも知れない。しかしこれは精確を期する常識だけの問題であつて、特別の學問的研究がいるのではない。附近の活動してゐる圖書館を訪問して實際を見學すれば充分である。定期刊行物の雜誌についても圖書と同様であるが、これは多く豫約するのが普通であるから、注文票の代りに雜誌受入票を作り、到着毎に日附を記入し圖書原簿に登録する。この受入票は時々これを點檢して調査しないと、未着のまま缺號を生じてゐる場合がないと限らない。

藏書印については讀者の既に知られる通り朱肉・黒肉・青肉とりどりに甚だ興味があり、その歴史的研究所は趣味あるものではあるけれども、貸出を主とする近代圖書館においては必要程度にとどめたがよい。即ちゴム印に朱或は紫色のインキを用ゐて、これを普通は標題紙の裏に捺するのであるが、時には藏書印のほかに圖書番號を併記した受入日附印を捺するのも一つの方法であらう。藏書印はその書物が圖書館の財産であることを示すのを目的とするのである、しかし實用以外に多少の趣味を加味することも望ましい。パッドはいつも清潔にして餘りインキを滲みこませないで、文字のにじまないやうに、また反對の頁にうつらないやうに注意せねばならない。浮出印は抹消が困難である

點が買はれ、標題紙のほか挿圖・地圖等に使用すれば切り取られるのを防ぐに役立つ。別に十五頁三十五頁・五十五頁・百五頁と豫めきめた場所に小形の藏書印を、巻尾に大形の館印を捺すのもよい。寄贈者の氏名は見やすいところに記して置かねばならない。藏書票を藏書印の代りに貼付することも近頃は行はれてゐる。

函架記號即ち請求記號に使ふラベルは圓形が最もよいとデーナは言ひ、その理由の一つとして角形のもはその角が剝がれ易いと言つてゐる。わが國の圖書館で使用されるラベルには殆んど大部分が角形である。兩者の優劣・ゴム糊の性質・ラベルに代るインキ使用の可否・ラックを塗つたらよいか否か、圖書館がそれぞれの事情により研究すべき問題は多いと言はねばならぬ。デーナはまたラベルは書物の背に底部から四吋のところを適當であるとしてゐるが、わが國では底部から三センチ位になつてゐる。これ等も研究すべきであらう。書背のラベルが剝落する虞れがあれば、表紙の裏上右隅に同じものを貼附して置くことよい。「ブックポケット」を使用する圖書館は藏書票の必要はなく、請求番號もブックポケットに記入する。書物は利用する前にとりどころ開いて背に弾力をつけて置くこと、少々手荒く扱つてもこれに堪へることが出来る。

書物は普通の大きさであれば書架に直立させる、特大・特小・横長・縦長の書物は特別の書架に



納めるがよい。書物の列は一端を本立で押へて置けば相互に倚りかかるとはならない、書物が倚りかかつてゐると形が崩れ、綴目が早く切れる。本立を手に入れ難いときには煉瓦を新聞紙に包んで代用したらよい。書物の一番の敵は不注意にこれを取扱ふ人々で、その次には濕氣である。わが國では濕度が高い故か、ことに背革の書物には黴が生ずる、この場合には乾いた布片でこれを拭ひとる。乾燥過ぎることも亦書物の敵であるから、暖房用の電気爐・ガス爐・石炭ストーブの火氣が直接書物にあたると紙質・装釘を破壊する。書架は出来るだけ度々書物を取り出し乾布で塵を拂ひ、同時に點検して書物の地位が誤つてはゐないかを調べる。圖書館によつては代用板を使つて貸出圖書の所在を知る必要があらう。製本は早目に出して取りかへしのつかなくなるまで放任せぬこと、使用に堪へぬ書物は商議會に提出して思切つて廢棄し、舊版の圖書は新版のものに時を移さず代置する。集書が常にアップ・ツー・デートで書架も書物も清潔に保たれ、職員が親切で明るい圖書館には讀者が集まらざるを得ない。

書架に配列された書物は目録が作られ、それがカード抽出に整備されて讀者の利用を待つばかりであるが、多くの讀者は目録を引くことを面倒がつて、ある著者の著作か、ある題目の書物を探がすほかに近寄らないものである。目録を引くことに經驗と訓練を積んだ讀者でも、新刊書を見落

したり、必要の書物を見遁したりするものであるから、これを公告する必要がある。館内の告示板を利用することはむろんのこと、地方新聞の編輯局長に懇請して、一週に一回紙面を割愛して貰つて文化欄に紹介を依頼する。各種の地方團體に圖書館の一室を提供して置いて、これに新著圖書の目録を渡して會員に利用して貰ふ。圖書館が主體となつて讀書會・討論會・講演會・朗讀會を組織し、圖書館職員もこれに加入し、またその指導に當れば會員は自然に讀者となる。出來得れば謄寫版刷でよいから館報を發行して學校・銀行・會社・工場に配布し、圖書館ニュース・新著書紹介を頒けるのも一方法である。これ等の努力がどんな價值をもつかは置り知ることが困難であるが、圖書館職員と讀者との接觸を深めることは疑ひなく、かくしてこれ等直接の讀者を通じてその友人である、未だ圖書館に來たことのない讀者に働きかけることができる。

## 九 圖書目録と分類

どんな小規模の圖書館でも、その藏書の目録を作りこれを分類しなければならぬ。さうでないと混雜を惹き起し、時間と勞力とを浪費することとなる。いかに記憶力のよい圖書館職員でも、藏



書のすべてを隅々まで知つてゐる譯にはゆかない、況んや讀者は何等かの手引なくしては、その欲する書物を發見することが困難である。圖書目録はひとり讀者のためばかりでなく、圖書館職員のためにも必要なものである。圖書原簿は藏書のすべてを網羅してゐるに違ひないけれども、受入年月日順に登録されてゐるから、或る著者について、またある事項について、更にまた或る標題をもつ書物を探し出すことは不可能に近い、これ等の要求に僅少の時間で應じ得る目的をもつものが圖書目録である。

形式から言へば圖書館に最も普通に備へられてゐる圖書目録はカード型である。通常七・五センチ一・五センチの標準型を用ひ、書物一部につき一枚一単位とし、數單位が一定の順序で配列されてゐて、追加の場合には全體に變更を加へないで、いつでも適當な場所に挿入することができ、除去することも容易であるから弾力性をもつてゐると言へる。書物は書架では唯一の空間を占めてゐるに過ぎないが、その書物を代表するカード目録は、必要な數だけこれを複製して各種の目的に供することができる。カード目録に類するものに紙葉型目録がある、カードの代りに強靱な紙葉を用ひ、大きさも同じくまた加除自在である、ただカード箱の抽出に入れる代りにバインダーで書冊型とする。これはカードを操るよりも手輕にテーブルの上などに持つて來て樂に點検することがで

き、費用も格安にできると言はれてゐる、ロンドン公共圖書館の目録はこの型である。最後に印刷書冊型目録であるが、これは弾力性のないのが缺點で、各頁に印刷された書目は加除自在といふわけには參らない。しかし一頁にある數十の書目を一瞥してこれを捉へ得るのが長所である。現在の圖書館は書物を新に購入し、寄贈を受けてその數も増加する、公共圖書館では廢棄代置するものも多くあらうから、印刷書冊型目録はアップ・ツー・デートとはならない、若しこの型を採用するとすれば、一定の期間毎に補遺を刊行しなければならぬ。なほ最も多く讀まれる書物、例へば小説とか傳記とか旅行記だけの書冊目録を補助的に作る、各區分毎に多少の餘白を置いて、増加した書物を追記すると讀者に便利である。ルートズリーフ式なれば更によい。そして圖書目録はいつれの式にしても、注意して汚損したものは更新せねばならない、圖書目録の汚れたのは、書物の不潔以上に讀者の反感を喚ぶこと疑ひなしである。

米國議院圖書館では一九〇一年以降印刷カード型目録を低廉な費用で頒布し、廣く一般圖書館の需要に應じてゐる。圖書館はその注文した書物の番號を知つて、その印刷目録を必要な枚數だけを手にすることができる。むろんすべての圖書のカード目録を議院圖書館から入手することは不可能で、ことに大規模の大學圖書館は三分の一位しか目録カードの供給を受けるに過ぎないが、小規模



なカレッジ図書館は七五%、公共図書館は九〇%以上の印刷カード目録を規則正しく議院図書館から配給されてゐる。この制度は是非ともわが國でも設けられなければならない、少くともわが國で出版される書物について、印刷カード目録を配給する方法を講じられるならば、わが國の図書館は劃期的な發展を遂げることは疑ひない。これまでわが図書館では、目録作業に職員の精力の大部分を消耗し盡して、本來の大切な仕事である書物と讀者とを結びつけることに殆んど力を入れなかつた。書物を愛することが多く、讀者に奉仕することが少かつた。これでは愛される図書館となる筈はなく、街頭に汎濫跳梁する貸本屋に押され氣味な理由でなからうか。そこで印刷カード目録によつて図書館職員の目録事務をできるだけ壓縮して、その餘力を讀者の奉仕に傾けさせるなら、図書館はこれまでよりも愛される違ひない。かつて岩波書店はその出版物に印刷カード目録を附けたことがある、これをすべての出版物に及ぼし、これを國立図書館なり、出版協會の事業とすれば、その實現は不可能ではない。

書物は著者があつて始めて存在する、著者のない圖書は考へられない、従つて圖書目録を作るときには著者標目を基本とすべきは言ふまでもない。著者目録は著者がわかつて居れば容易に著者を見出すことができるが、しかし讀者のうちにはある事柄、例へば「砂糖」に關する書物を欲するも

のもある、これ等の人々のために主題目録を準備しなければならない。また著者は忘れたが、書名なら記憶してゐる人もある、極端な例かも知れないが、尾崎紅葉の名は知らなくとも『金色夜叉』を讀みたいといふ希望者があつたとしたら、その人たちのために書名目録を準備する必要がある。即ち著者目録を基本として別に主題目録と書名目録によつて讀者の便宜を圖り、彼等の時間を節約する方法を講ずると同時にこの三者を綜合し、アルファベット順配列の辭書體目録がアメリカでは廣く行はれ、やがてわが國の図書館でも採り入れられて普及するであらうが、現在のように各館がそれぞれ目録作業をやつてゐては、一種乃至二種の目録で満足しなければならぬほど大きな負擔なのである。わが國では洋書については著者目録と分類目録、和漢書については書名目録と分類目録とが多い。分類目録は主題目録に類するものであるが、標目を五十音順或はアルファベット順に配列するのではなく、書物が書架に配列されてゐると同じ順序になつてゐるから、これを理解するには圖書分類についての知識が必要である。

図書館が實際に價値をもつためには、書物を書架に順序立てて配列することが大切である。若しこれを実際に行はないならば、讀者は手當り次第に圖書を選択抽出して、眞にその欲する書物なり主題なりを發見するに夥しい勞力を要し、目的達成は不可能にちかひ。書物を書架に順序正しく



配列する方法を圖書分類と言ひ、もともと博物學から來た學術語である。圖書目錄さへ完全で、どこにその書物が置かれてあらうとも、所在さへ記入してありさへすれば、それで充分であると考へるかも知れないが、しかし讀者がある特別の書物或は同じ主題の他の書物を手に取つて見るのでなければ、それが眞にその欲するものであるか、否かを正しく判断することはできない。書物が任意に配列されてゐるのであれば、即ち例へば書物がその形の大小によつて配列され、論理的順序による一定の構想のもとに配列されてゐるのでなければ、書物の検索は讀者に取つて可なりに勞力の浪費となるに違ひない。論理的原則を把握することによつて圖書配置の構想を知り得るならば、讀者自身の欲する特殊な書物の所在を知ることが容易であり、且つある主題とそれに關聯する他の主題とが自然接近して配列されてゐるため、讀者はその關心をもつ書物を發見する困難を軽減することができるとができる。

圖書の分類とは書物を集群することであり、各集群に所與の主題例へば宗教に關するすべての書物をでき得る限り網羅することであり、或は主題のいかに拘はらず特殊の文學形式例へば詩のうちすべての書物を包含せしめることであり、更にまた特別の時代例へば江戸時代についての書物を他と區別することである。しかし書物は絕對的にある一つの主題に限定されるとか、全然ある一

類に屬するとかいふものは極めて少數である。圖書分類の目的は精確にすべての書物を區分するといふのではなく、書物の利用率を高めることである。従つて圖書はその屬する分類記號をもち、同類の他の圖書と區別され、容易に發見されなければならぬ。

圖書分類の方式についてはいろいろある。カッターの展開分類法は彼がポストン・アセニウムの圖書館長であつた經驗から考案したもので、最も科學的と評されてゐる。即ち第一段階は十一類で最小規模の圖書館はこれで充分であるが、第二表の十五類十六地理的區分は次の段階の圖書館に適合し、三十類二十九地理的區分から成る第三表は更に進んだ圖書館に適する。かくして最後の第七表はどんな大圖書館にも使用されるが、その各段階において、それぞれの圖書館に適用されるやうに展開してゆくところから、かく稱せられてゐるのである。同じ記號が終始一貫、各段階を通じて用いられて變更の必要がないのも特色である。

ブラウンの主題分類法の主類はA總記・B—D自然科學・E、F生物科學・G、H人種學、醫學・I經濟的生物學、家政學・J、K哲學、宗教・L社會學、政治學・M語學、文學・N文學形式・O—X歴史、地理、傳記である。更に世界に最も廣く行はれてゐる分類法はデュウヤーの十進分類法で、すべての知識を十主類に分ち〇〇〇〇總記類・一〇〇〇哲學・二〇〇〇宗教・三〇〇〇社會學・四〇〇〇言語。



五〇〇自然科学・六〇〇有用技術・七〇〇美術・八〇〇文學・九〇〇歴史（地理・傳記・旅行記を含む）となつてゐる。總記には他の主題に入らない著作を網羅收容するが、哲學は論理的に宗教を導いてこれに到達する。そして基督敎會が中世歐洲の社會生活の中心であつた事實から社會學が次に置かれ、社會學は廣く言へば社會生活の科學であり、社會生活は言語に始まり、周圍の世界を知る努力に轉じ、粗雑な繪畫技術から文學に進化し、やがて人類の過去・現在の事實とその生活する世界の外貌を記録することをもつて終る。主類は更に十綱に分れ、更に十目に細分され、これ以下は少數點を用ひる。例へば五〇〇自然科学、五一〇數學、五一三幾何學、五一三・一平面幾何學となるのである。

以上述べたごとく、圖書分類法は數字だけを記號とするものと、文字と數字との組合せたものがあるが、圖書館は自己流の分類法を工夫考案してはならない。別冊刊行の日本十進分類法はわが國の圖書館——和漢洋書を收容してゐる——のために考案されたもので、今後新設される圖書館にとつて典據となり得るものと信するが、いづれにせよ圖書の分類は實際の經驗によつて學ぶところが多い。最初分類作業に着手するときには歴史とか旅行記とから着手すると、これ等の書物は自然に適當した分類主題に落付くものである。書物の標題は迷路に導くものであるから、これに頼つて分

類をしてはならぬ。序文を読み目次を調べ、なほ疑のある場合には内容を吟味した決論を下すがよい。一部の書物のうちに二つ或はそれ以上の主題を含むものは、その分量の多い主題によつて分類を決定するのが安全であるが、讀者社會の抱く興味と價值とによつて例外とせねばならぬこともある。

圖書分類の問題は久しく學者並に圖書館當事者によつて論じられ、多くの注意が拂はれてはゐるものの、人間活動の範圍が擴大して知識の分野が増加すれば、自然これを記録する書物の範圍も擴大増加することとなり、これを完全に分類する困難は加はり、その解決は不可能であらう。例へば航空學は物理學の一部門であつた數年前と比較して、今日では應用技術に重要な地位を占めることとなり、用途からは交通・軍事に及び、分類法考案者の夢想だもしなかつた時代となつてゐる。従つて今日決定した分類が明日には誤つてゐないとは限らぬ、昨日は考へ及ばなかつた主題の書物が現はれないと斷言はできない。しかし昨日の決定が今日の知識からみて間違つてゐたからと驚くには當らぬ。さうした誤謬の結果はそれ程重大なものではない。附近にある先進圖書館について分類作業の指導を仰ぎ、或は印刷物例へば「圖書館雜誌」の推薦選定、新刊圖書の分類記號などを詳細に研究し、更にその圖書館の函架目錄を調べ、既に配架してある書物と對照して矛盾撞着を避け



る注意があればよい。分類に誤謬があつてもそれに焦心してはならぬ、誤謬は常に存在するものであるからこれを改訂することはせず、一貫性をもたせることを心掛けて、一度決定すればこれを固執して猥りに變更してはならない。

## 一〇 圖書の貸出

圖書館は書物を保存するところではなく、これを利用させる場所であり、すべての讀者に圖書を與へ、老若男女都會の人も農村の人も、ひとしくそれぞれその欲する書物を手にする權利をもち、圖書館職員は讀者と書物とをできるだけ簡便に、かつ僅少の時間で供給奉仕する役目を負ふものとするならば、次に圖書の貸出法について考慮されねばならぬ。所謂開架法或は接架法は即ちこれに應ずるもので、讀者親しく書架につき、圖書館の集書を自己の書齋にある書物と同様に、自由に檢索する機會をもつことである。開架式がはじめて紹介されたのは、一八八七年(明治二十年)サウサンド・アイランドでアメリカ圖書館協會の總會が開かれたとき、ロードアイランドのパウタケット圖書館を經營してゐたサンダース夫人がその經驗した成功事歴を述べ、會衆の非常に熱心な稱

讚と羨望とを喚起したことに窺まる。むろん當時の大圖書館のうちにはパウタケットはパウタケットであり、紐育は紐育であるといふ意見を述べたものがないでもない。しかし間もなくクリーヴランドがこれに倣ひ、次いで急速にこれを採用するものが増加し、一九〇七年紐育市と五つのボローとを合せた大紐育で、開架式による貸出圖書の數は九、四六四、八四八冊で、これに教育局を通じて學校へ貸出された六、二三二、〇九六冊を合せると、一年間に一千五百五十萬冊以上の書物が市民の手に渡されたこととなり、爾來四十年を経過してますます増加してゐるものと推測して間違はない。

開架式がアメリカ圖書館の支配的政策となつてゐるのは、それが適切かつ有効で、市民大衆の支持を受けてゐるからであることは言ふまでもないが、眞に聰明な正當な方法であるか否かについては、尙ほアメリカの圖書館長の間で、或は商議會の有力な人々のうちに疑を抱くものもあり、或は却つて有害であると説くものがないでもない。會員組織の俱樂部・學會或は大學圖書館の場合とはかくとして、無料公共圖書館では開架式はいろいろな問題を提供するものである。特にこの式によつて多くの書物が損じたり盗難に罹る心配があるが、この事實に恐怖を感じたり、ヒステリーになる必要はないにしても、なほ不安は除かれない。書物の盗難は大社會に多く、大圖書館とは限ら



ない。大社會は人口の移動が激しく、公民としての責任感が薄く、また圖書館としては個人的に親密となる機會に乏しいため、それが原因となつて圖書の紛失が行はれるのである。ロード女史の報告によると人口三十萬以上の都市では貸出圖書一萬冊につき一年の紛失圖書は七冊から三十九冊、最大の都市で九冊から十七冊で平均十七冊となつてゐる、そしてそれが閉架式の場合では貸出圖書一萬冊につき一冊から九冊である。また人口十萬乃至二十萬の都市では貸出一萬冊につき閉架式で紛失圖書八冊から四十二冊で平均三十三冊、閉架式ときは二冊から五十三冊となり、更に二萬五千から十萬の都市では開架式で六冊乃至四十八冊平均十五冊、閉架式で兒童室を含めて五冊が紛失し、二萬五千以下の人口をもつ町では一年を通じて二冊が失はれるとなつてゐる。盜書の原因は建物が看守の行届かぬためだと言はれてゐるが、假りに一年二、三百冊の紛失圖書があつたとしても、その看守に二、三人の人手を要するとすれば、それに支拂ふ給料と比較して、いづれが利いづれが不利であるかは一考すべき問題だと思ふ。

盜書は經濟的と道德的の二方面から考察しなければならぬが、しかし金錢上の損失は現在では大した問題とは考へられないことは、前に記した通り人件費と照合すれば明瞭であらう。むしろ問題は紛失した書物はどうすれば容易に補充できるか、その方法を講究するのが肝要である。それよ

りも盜書が社會的惡を育てるであらう道德的責任がより重大である。教育制度の存在理由は知的改善と同時に道德的改善にある、兩者はともに相倚り相援けて人類進歩の途を歩むべきものである。開架式圖書館は盜書を暗示し、或は獎勵することはないであらうか。

圖書館は學校と違つて第一にその社會に屬するすべての人々に、いつでも容易にその必要とする知識を書物を通じて供給するところであり、第二にはその知識を求める心を刺戟し或は獎勵し、同時に書物を愛する心を更に刺戟し獎勵し指導するところである。しかし讀者は知識ばかりを求めてゐるのではない、娛樂のための讀書、暇つぶしのための讀書、小説——それも新刊の小説だけを喜ぶものもある。これ等の人々は多く自分の欲するものを知つてゐて、それが得られなければ不快不満を感じるものである。更に別に書物を通じて精神的刺戟を欲するものもある。

圖書館を常時利用するこれ等の讀者は書物が書架にあるを好み、書架の間を往來することによつて自由感を味ひ得て満足と喜びとを感じ、書物を手にしてこれを眺め、これを檢閲することによつてこれを愛し讀書の刺戟を受ける。眞に適書を發見するのは圖書目錄を通ずる場合は少數で、書架によつて讀者自身が瓦石のうちから眞に欲する眞珠を見出すのである。

開架式が書物の利用を刺戟し、増加したことは疑ひない事實であるが、同時に盜書に誘ひ、これ



を増加したことも亦事實である。しかしここでも百貨店を例に引くのであるが、百貨店で萬引の行はれてゐることは事實であり、或は窃盜の温床であるとも言はれてゐるが、しかし盜品のために百貨店が終に閉店の己むなきに至つた例を知らない。百貨店に来る多數の買客は決して萬引ではなく、彼等は店内を徘徊していろいろの品物を手に取つて吟味し、氣に入つたものは代價を支拂つて立去る。もし百貨店が店内には入つてくる人々を買客と考へずに萬引である見るならば、どんな品物でもこれを棚のなかに仕舞込んで容易に近よせない筈である。それなのに、現在の制度を良いと認め、或は能率的であると考へてゐるところから察して、圖書館も亦同一の方法を採用して讀者自らその欲する書物を發見させるのがよいことであり、これによつて容易に書物に親しみ利用率をあげてゐる。この事實は、プラムマー女史の報告によると、A書は開架式による貸出十六回に對して閉架の場合は九回、B書は開架式二十回に對して閉架式七回、C書は二十回に對して十二回、D書は十回に對して四回となつてゐる。そこで盜書の災厄豫防の方法として、例へば書架への出入口を一つにするとか、廻轉式木戸を作るとか、檢索證を入口で提出させるとか、盜書の處罰を特に重くするとかが考へられる。

開架に反對する他の議論のうちに、書物が書架の當然あるべき場所になく、誤つて他の場所にまぎ

れこんで行衛不明になる場合が起り易いといふのがある。しかしこれは讀者に書物を引き出すことは許すが納めることを禁ずる規則を作つてもよく、或はしばしば書架の點檢を行つて圖書の整頓をすれば避けることができる。イギリスの圖書館では色ラベルを書物に貼つて例へば青色は歴史、ピンク色は社會學といふやうに區別して混れ込みを防ぎ、所在場所の誤りを容易に發見した經驗をしたことがある。これも一應考へられる方法であるけれども、十進分類法を採用したとして假りに十類を區別する十種の色を擇ぶのは容易であるにしても、その色は日敷を経るにつれて褪せて區別が困難になるのは當然である。そこで最も多く讀まれる小説・傳記・旅行記等に對しては○形或は△形の特別ラベルを使用すると便利であらう。點檢と納書とは專任の館童に當らせるなり、他に常務をもつ圖書館の職員例へば目錄係が疲勞を感じたとき、心氣轉換の意味で進んで點檢に當るもよからう。また日時を定めて定時點檢も行はれてゐるが、これも亦できる限り讀者の利用を制限したり、不便を與へないことが望ましい。

次に開架式に反對する理由として書物が損傷するといふのである。もしこの損傷が取扱の不注意による不精の結果であるとすれば、この反對理由は成り立つかも知れないが、多く讀まれるために生じた損傷であるならば、むしろ喜ぶべき現象である。書物を町重に取扱へと教へなければならぬ



ことは言ふまでもないが、書物の利用率が増したために生じた損傷であれば、それは図書館経費の問題である。図書館の利用が増せばそれだけ図書館経費が増加するのは當然である。また一方では開架式は図書館職員の手数を省く意味で、経費が減じたといふ説もあり、いづれが是であるかを論證する確な資料はない。しかし讀者が自ら書物の出納を處理して呉れば、図書館職員は個々の讀者に奉仕するためより自由な時間が得られる。圖書目録は書物の状態について詳細に記入はしてあるものの、その著者の文体についてまで記録してない。アメリカでは實際に圖書目録について要望する書物を選択するのはごく稀で、図書館職員の忠言によつて目的を達する場合が多いと言はれてゐる。図書館を當然利用すべき人々がこれを利用してゐないのはカード目録がその脆きの石であり、図書館をしばしば利用するものには開架式が便利である。市民大衆が映畫を觀賞し、音樂を聴き繪畫を楽しむと同様に、詩歌・小説・傳記・旅行記によつて一日の勞苦を楽しく便利に忘られる方法を見出すことが大切である。

開架式による圖書の貸出が行はれる以前から、知識に對する欲望は参考部を通じて讀者を満足させてゐた。アメリカの図書館の組織を見ると参考部をもたない図書館は、殆んど無いといつてよい程に普及してゐる。元來図書館職員の手を省く動機から普通に使用される参考圖書を開架式とした

のが原因で、その利益が一般に認められるに至つて書物の數も増加するに至つたものと思はれる。しかしこれは多くの圖書を誰彼の差別なく手に取らせるといふのではない、参考圖書は副本があるのではなく、市場で容易に手に入るものでもなく、しかも其價値は大きいから自然専門の盜書家の目標となりやすい。その上形においても大いさにおいても製本においても、或はそのうちにある挿書においても一般の亂雑な取扱を許さぬばかりでなく、高價であるため普通の貸出圖書のうちに含めることはできない。参考圖書の利用には特別の資格をもつ職員がこれに當り、その管理に萬全を期すると同時に讀者の質問に答へ、圖書の出納はもちろん利用の日時・目的・利用者についても記録を作製することを忘れてはならない。讀書室には椅子・卓子のほか筆紙墨を備へて心ゆくばかり研究の便宜を図るがよい。讀書相談に應じて讀者と親密になれば圖書館は愛されること疑ひない。書を消化するのは讀者の胃袋であるが、その調理をする役目は参考事務擔當の図書館職員である。

圖書の貸出を希望するものは圖書借用願に姓名・生年月日・住所・原籍・職業・勤務先・電話番號等を記入して図書館長に差出す。受附番號・日附・研究題目などは圖書館の受付職員が記入し、學生であれば學校長、未成年者であれば兩親の保證が必要であらう。借用願には一切の圖書館規則を遵守すること、書物の紛失・延滞・損傷には賠償の責に任する旨を誓約する。わが國では別に保證人を必



要とするかも知れないが、小町村の図書館では煩瑣な手続はできるだけ省略したらよい。そして一定期限内に身許を調査したのちに借用票を交附する。借用票の裏面には注意事項を印刷しておく、借用期間は一年乃至二年として満期のときは更新する。圖書借出の費用はこれまで縷々述べたところによつて絶対に徴収してはならないが、読者が書物の返却を怠つたときは必ず延滞料を支拂はせることにしたい。義務遂行の責任は決して寛容してはならぬ。更に一箇月も二箇月も図書館に來ない借用者には、必ず郵便で注意を喚起することを忘れぬようにありたい。書物の貸出期間は大体二週間限度とし、新刊書でない限り繼續を許可するがよい。

以上はこれからのわが國の図書館のあるべき圖書の貸出について素描したのであるが、現在の図書館のあり方では圖書の貸出は閲覧室を中心として行はれてゐる。即ち書物は図書館に來て讀むべきものであり、多くの場合に読者は書物を借りて歸つて家庭で楽しむのではない。いまその是非は兎に角としてこれに倣ふとすれば、閲覧券を貰ひ受けて——多くの場合に閲覧料を支拂ふ——これに住所・姓名・職業を書き、次に圖書目録について欲する書物の著者・書名・請求番號を記入して差出すと、閲覧係員が館重に書物を書架から取出させて貸し、閲覧が終るとこれを返却して閲覧券を受けとり、これを受附に差出して退館するのである。これ等の手続は附近の同種先進図書館を見

學すること一日、各種のサンプルを割愛して貰へば大體を會得するに困難はない、図書館はそれぞれの異つた事情によりそれぞれの方法に工夫を凝すべきである。

書物の讀まれる回數が多く出納が頻繁であれば、汚損することは已むを得ない自然の現象であり、そこで製本の必要が生じてくる。製本技術は長い間の熟練と經驗とによつて修得されるものであり、図書館職員のうち特別な技術者が無い限り、また學校図書館で生徒に簡易な修理法を實習させる場合は例外として、よき製本師に依頼するのが却つて無駄をしないで済む。最もよい製本は結局最も廉價なものである。しかし図書館職員は製本技術の知識をもつことが肝要である。書物はそれぞれ性質が違つてゐて、製本についても特別の取扱ひを必要とするからである。製本はまた図書館を自體の圖書購入政策および圖書保存政策により、更にまた圖書館の財政状態によつて決定される。製本には正副二通の製本票を作り、一は圖書目録に併せてカード函に入れ同時に書架に代用板を入れて置き、他は書物と一緒に製本師に渡して詳細の指示を與へる、例へば著者名・書名にアンダーラインをして背文字を、雑誌ならば巻號或は刊年を、また兩者をともし示すかどうか、表紙の材料がクロスならば見本を添附してそれと一致させるなどの注意が肝要である。製本票は大體前記の圖書注文票に準じてこれに請求番號を加へればよい。製本ができたときには製本票によつて詳し



く検査して、満足すべきものであれば蔵書票・ラベルを貼つて再び書架に戻す。製本擔任の圖書館職員には特別の知識をもつものを採用するは勿論であるが、汚損した書物のうちには再製本をするよりも廢棄するのがよい場合があり、書物によつては一層堅牢な上質の製本が望ましい場合もある。できれば二三の製本師を指定して置いて、それぞれ得意の製本を請負はせることも一の方法で、製本費も一年間を通じて契約價格を定め、特別に材料の騰貴を見ない限り變更しないことにすれば、どの程度に製本が可能であるかの見通しができる。

## 一一 圖書館商議會

圖書館は一般社會であると特殊社會であるとを問はず、その社會のために存在する。従つて圖書館はその社會を基礎とし、その協力によつて統一的發展と創造的進化とが期待される。これまでの圖書館はまだ文化的裝飾の状態に低迷してゐて、社會生活から動ともすると游離してゐる恰好である。社會を代表して圖書館の經營を指導し後援し、一方では社會の意思を圖書館に反映させ、他方ではまた圖書館經營の實務家である圖書館職員と表裏一體となつて、圖書館を社會に解釋する非専門

家の團體が圖書館商議會である。新しいわが國の小學校と中學校では、兩親なり兄弟なりが、これまでの父兄會の消極的協力關係を清算して、學校教育の全面的發展に寄與するため、道義的財政的後援を負擔し、子弟教育を完全に遂行する義務と責任とを引受けるP・T・Aを組織發足することとなつた。それは父兄保護者が子弟教育の一切を擧げて學校長と教員とに任せてきたこれまでの習慣と態度とを一抛して、健康な進歩的指導的理念に基づいて、嚴肅に理智的に聰明に、不撓不屈の努力を發揮する勇氣と情熱とを取り戻したことを意味する。この父兄保護者と學校當局との水魚の關係が、即ち圖書館商議會と圖書館經營の實務家との關係なのである。

圖書館の經營は専門の司書に委ねらるべきであつて、門外漢であり素人であるものが猥りに容喙したり、干渉したりするのは宜しくないことは、なほ父兄保護者が學校長なり教員の教育方針について干渉するのが不可なものと同様である。これまで有力な父兄保護者のうちには、ボスの存在として學校の教育方針に干渉したものがあり、教員の任免異動にも容喙した事實があり、そのため學校長或は教員のなかにはこれ等のボスに媚態を呈したのもあると聞いてゐる。若し圖書館商議會がボスの集團であつて、その名譽と特權とを濫用して圖書館内部の行政に干渉したり、義務と責任とを忘れて書物その他物品の購入に壓迫を加へることがあつては由々しい問題である。と言つてどん



なに非能率的不満足な状態に圖書館の經營が置かれてゐても、平氣で見逃すがごとき無關心な態度は尸位素饗の譏を免れ難い。常識を超越した脱線ぶりも困るけれども、同時に因循姑息も喜ぶべきでない。

圖書館商議會の性格は圖書館政策の連続性と統一性を決定し、圖書館經營に生命を吹き込み、正しい理念と遠大な計畫と鞏固な實踐力を與へるものなることである。圖書館の經營がただ圖書館職員の手任せられると、マンネリズムに墮する危険が充分にあり、その結果動脈硬化症状となる傾向がある。その際圖書館商議會は圖書館經營當事者と協力し、革新的氣魄と進歩的精神をもつて新しい政策の樹立、新しい活動分野の開拓、新しい技術の向上など、社會の實際に適するやうに撻はしむべきである。もしまた圖書館經營當事者の企畫するところが餘りに急進的である場合には、これを修正し是正時にはこれを牽制することが圖書館商議會の機能である。要は保守であつてもならず、それだからと言つて猪突猛進であつても困る。

圖書館商議會は圖書館の志向を社會に傳へ、社會の意欲を圖書館に知らせる仲保者であり、集團としても個人としても圖書館を社會に代辯するスポークスマンとして、具體的かつ積極的な價值をもつものである。圖書館職員が圖書館を語るのは、政治家が政治を論じ、實業家が經濟を説き、教

師が教育を語るのと同じく、正確ではあるけれども一般人の受ける心理的印象の浅い場合がある。話術の巧拙は別として同じ材料を使ふにしても、圖書館の解説者としては専門の圖書館職員でない素人の一般人のほうが親しみを感ぜられ、効果的かつ適任である。

圖書館の經營には費用を要するが、この費用は圖書館が社會の要求を満足せしめて始めて調達が可能である。圖書館商議會は社會の代表者として圖書館がよいサービスを社會にしてゐることを最もよく知つて居り、従つて圖書館の必要とする經費を作り出すことは彼等の義務であり同時に重大な責任でもある。むろん圖書館長は必要な費目について、商議會を充分に説得するだけの資料を具へなければならぬが、圖書館長が直接社會に訴へて必要な費用を得ようと努力すると、社會の誤解を招く惧なしとしない。また圖書館に對して寄附金を得ることも商議會の財政上の義務として大切な役割である。商議會は各層各階級を代表し、個人として餘裕のある人々と接觸する機會を多くもつから、これ等の人々に圖書館の教育的効果についての關心を喚起することができる。大阪府立圖書館は住友家の後援を得て成り、東京帝國大學にあつたマックス・ミュラー文庫は岩崎家の寄附によつて手に入れたものである。特別の目的のための特別の寄附金は圖書館の經常費を軽減して社會の負擔を免れしめる意味ではなく、圖書館のサービスを増進するための補足であり、このこ



とが一たび社會に理解されるならばその實現は一層容易となる。社會は決して自からを弱めることをしないだけの自尊心をもつ。そして自からの力によつて自からを助ける機關に對して、餘裕のある人々は援助するものである。しかし圖書館の主要目的を弱めたり傷けたりする寄附に對しては、商議會は敢然これを拒否するだけの勇氣が必要であり、また寄附のために多くの經費を要する場合も同様である。書物は本來「物」であるが人と結びついて「佛」となる、圖書館も亦社會大衆と結びついて「佛」となる、狗子佛性とありとはそれであつて、いかに圖書館職員が笛を吹いたからとて「物」それ自體が踊り出すものではない。圖書館の主體と客體とが渾然一つとなるときに、國民生活のうちに深く根を卸す圖書館文化が創造されるのである。

圖書館商議會の構成員は原則として、圖書館の對象とする社會を代表するに足るものでなければならぬ。學校圖書館や専門圖書館の場合にはこれを組織するのは比較的容易であるが、一般公共圖書館にあつては町村はとにか、都市は地域が廣く市民も各種の階級から成つてゐて、利害も複雑錯綜してゐるから、各層の代表を網羅するとすれば、その選定は困難と言はなければならぬ。況んやその數は少いほどよいとすれば一般の投票によるのは無理である。商議會委員は所謂なりた人よりもなつて貰ひたい人を選ぶのであるから、市町村長或は選定委員の推舉した人々について

地方議會が選定したらどうであらうか。假りに定員十名任期二年として、最初だけは抽籤で甲乙二班に分け、甲に屬する半數は一年後に改選され、乙は二年後に任期を終へて改選される。かうすれば半數は舊のまま半數は新顔になつて（むろん再選重任は許されるが）、傳統を維持するにも革新を斷行するにも便宜とならう。そして三選六年の繼續は認めても四選は許さないとすれば、商議會の沈滞を防ぎ「閑」のできることが避けられる。圖書館長は職務上當然商議會委員に加はり、委員長（商議會議長）は委員の互選とする。圖書館職員のうち一名（多くの場合上席者）を商議會の幹事或は書記とし、商議會の記録整理、委員長と圖書館長との連絡などを圓滑に處理することにしたい。

圖書館商議會は最も進歩的な教育理想を抱く男女をもつて構成さるべきで、言ふまでもなく女子は全人口の半數を占め、女子教育の顯著な進歩を現在と將來とに期待するわが國では、進んで適當な女性を物色して圖書館商議會の構成メンバーとすべきであつて、男子が獨占すべきではない。年齢についても七十の老翁で氣力旺盛、進歩思想を抱く明朗潤達の人物があるごとく、四十の壯年で因循姑息、偏狹の人がないとも限らない。しかし有名な人々を入れようとする熱心の餘り、活動的な青年を除外するのは危険である。「老人には意見を、青年には活動を」同一程度に商議會に求めるとすれば、商議會の平均年齢が六十歳以上では進歩的團體といふを憚らざるを得まい。それでなく



ても圖書館は書庫視せられ、紙魚の棲所とさへ考へられてゐる場合が多いから、三十歳前後から六十歳前後までの所謂社會的活動者の範圍にこれを求むべきであらう。

公共圖書館商議會の構成員としての資格を擧げると、學識經驗のある人々のうちにも程度の差は別として、(イ)財政的企業の經驗ある人、(ロ)社會的宣傳の理論及び實際知識のある人、(ハ)一般社會情勢に理解をもつ人、(ニ)出版物に關する知識のある人、(ホ)圖書館の諸問題を科學的に検討し理解する能力のある人、(ヘ)立法技術を通じて圖書館を援助し得る資格のある人、(ト)兒童を理解する人などが擧げられるであらう。これ等の資格をもつ人々、即ち都道府縣市町村會議員、商工會議所議員、新聞社長又は主筆、學校教員、産業組合代表、宗教家など、いやしくも市民を代表するものは悉く網羅してよい。但しともすれば圖書館は教育機關であるとの觀點から、教育關係者を圖書館商議會の主たる要素として、一種の教育「閥」の上に地位の安定を策する圖書館職員がないとも限らないから警戒すべきである。地方的政黨政派、特別な宗派(宗教代表とは違ふ)、勞資階級の強い色彩は能ふ限り避けたがよい、一方に偏すると社會の圖書館信賴性を弱めることになる。

圖書館商議委員は社會の進歩的代表者として適當者であるためには、(イ)健全な判斷力と常識とを備へ、(ロ)公共的精神と實行力の持主であり、(ハ)勤勞意欲と文學的趣味をもつ品性の高い人であ

るを要する。一般的教養のある讀書範圍の廣い人物であれば、最初から圖書館に興味をもつもたぬは問題でなく、これを啓發し、刺戟し、鞭撻して有能な圖書館商議委員を作り上げることできる。圖書館商議委員は常に商議會に出席し、委員としての仕事に熱心であり、圖書館文献を通じて圖書館界の現状を知り、他の圖書館を訪問して見聞を廣め、その代表する社會の要求なり趣味なりを観察しなければならぬ。

圖書館商議會は(イ)圖書館の資金或は基金の管理、(ロ)經費支出の監督、(ハ)圖書の選擇・購入・廢棄についての一般方針、(ニ)圖書館長及び圖書館職員の選定と日常の仕事についての注意、(ホ)他の圖書館との比較による業績の評価とその是正が任務である。そのために行政委員會、財政委員會、圖書委員會、振興委員會などの小委員會を設ける必要があるであらう。商議會が常に念頭に置きてほしことは實務執行機關としての圖書館長の地位を認識し、その出席なくして會合を開くことをせず、圖書館行政の責任と圖書館政策の樹立とに自由にその手腕を發揮するやうに仕向けることである。商議會は圖書館の責任ある管理者であり、圖書館長はその代表者として商議會の希望を敏速にかつ徹底的に喜んで實施するのであるが、圖書館長がその知識・訓練・精力・見識・智慧に勝れた第一人者であるときには、その報告を聞きこれを補助して徒らに干渉がましいことは避け、



その手腕を妨げてはならない。例へば個人として自身が趣味とする書物の購入を強ひたり、図書館職員が欠員があるのを知つても、求められなければ知人や縁戚を推挙してはならない。假令推挙してもその採擇は當事者の裁量に委せるべきはもちろん、職員の見給などに容喙したり、また職員の一方的意見や批評などを聞いて、図書館長を牽制するがごとき態度は慎まねばならぬ。図書館長がその職務を完全に遂行してゐる限り、その活動に支障を與へるのはよくない。

図書館商議會の事務は定期の會合で處理される。商議會（議）長は一定の期日と時間と集會場所と議題とを商議委員に通知して召集する。召集状は大體二、三週間位前に發するがよい、もつとも毎月第一土曜日とか第三金曜日とかに豫定して置けば、もつと短くしてよいかも知れない。商議會は商議委員の集團ではなく、單一の組織團體としてその決議が尊重されなければならぬ。そこで定員數が問題となるから出缺の回答を求める必要があり、當日或いは前日に電話で注意を促がす手數も取らねばならないであらう。わが國ではとかく會合が不規則で、だらしがなく時間も勵行されないが、かかる悪弊は圖書館界から一掃しなければならぬ。そのためには商議會（議）長と圖書館長との緊密な連絡・意思の疎通が肝要である。商議會が成功すると否はその會合に出席する委員が、自分の職務に責任を感じてそれを見事に遂行することに欲びを感じるにある。議事の進行は議長

の手腕によつて左右せられる、形式に流れてもよくないが、懇談に終始して取りとめのないのでは意味をなさぬ。そこで圖書館長は周到な注意で一切を準備しなければならぬ、報告類は豫め印刷して置けば朗読を省略することもでき、統計などの數字を羅列するものはなほ更印刷の要があらう。討議事項の説明も亦然りである。商議委員の提案は緊急動議としないで、圖書館長にその提案趣旨を充分に納得させ、これに對處する資料を蒐める時間的餘裕を與へ、討論が無駄にならぬよう善處すべきである。會合の場所としては圖書館が最もよく、館長室なり他の部屋を用意すればあらゆる記録は手近にあるし、商議委員も圖書館の空氣に親しみながらなごやかに圖書館問題を議することができ、議事録を作製する必要は更めて言ふまでもなく、要領筆記であればなるべく詳しいほどよい。これは商議會（議）長と圖書館長との檢閲承認を受け、複寫印刷して全委員に配布するか或は次の回の劈頭に朗讀して全員の承認を求めたらよい。學校圖書館の商議會は公共圖書館のそれ程頻繁に開く必要はないかも知れないが、一學期に一回即ち年三回位は是非開きたいものである。この際商議會には學校教師と同數の父兄を加へて、圖書館後援會たらしめるのが至當ではなからうか。

商議會の費用例へば遠隔の土地にある商議委員の旅費日當、茶菓の費用などは當然豫算に計上せらるべきものである。アメリカで多くの圖書館が成功した原因は、商議會の指導性が有能な圖書館



長の内部管理と相俟つて効果を擧げたからと言はれてゐる。成人教育制度を發展させて現代の必要に應ずるためには圖書館商議會の責任は重い、圖書館職員の俸給は増加せねばならないし、圖書購入費をはじめ圖書館經費は増加する、建物の新營修繕の問題もあれば退職金問題もある。これ等の重要事項について圖書館商議會が對策を講じ得ないとすれば、特に圖書館職員に對する合理的代償を支拂ひ得ないとすれば、何等かの形式で集團的行動を導くに至るを豫想しなければならぬ。現代は雇傭者と被雇傭者との間の關係が新しい觀念の下に行はれてゐる世界に住んでゐる、圖書館の運命を決する指導者たちは賢明にかつ迅速に、圖書館職員に對する義務を公正に對處する計畫を樹てねばならない。その他多くの問題があつて一定の計畫を中心に展開する、その計畫が適切であるか否かは外部的調査に待つことが多いが、その目的なり意義なりまた重要性を認識するのは、有能な識見の廣い圖書館商議會の指導性に待つことが多い。圖書館長は商議會とともに確固たる根底に立つて、その計畫に着手することが一番大切である。かくて多くの圖書館が適當な社會奉仕を實現することができ、またこれを實現するに足るだけで十分な經費を手にするを得るのである。

圖書館長は商議會に對し月報・季報・年報を提出せねばならない、その何れとするかは圖書館の性質なり、商議會の開かれる度數によつて圖書館長の裁量に委ねらるべきである。圖書館の報告(年

報)はその種類と目的とから、(イ)事務的記録と(ロ)社會的宣傳とに分けることができる。年報は一種の記録文書として過去一年間の事業を記録したもので歴史的價值をもつ、即ち月々の圖書・金錢・讀者に關する統計と年中行事の記録とを撮要すれば、一應形式的に成立するけれども、この種類の記録文書は概して乾燥無味で生彩を缺き、殆んど通讀する忍耐力を失はしむるものがあり、圖書館關係者以外には興味を感ずることも少ない。しかし圖書館商議會は將來の計畫と經營の資料として成るべく詳細な記録を要求し、これを尊重すべきは議論の餘地がないにしても、これをもつて直ちに社會的宣傳用とすることはできない。そこで圖書館年報は(イ)商議會を對象とするものと(ロ)一般社會人を相手とするものとに別けて考察する必要がある。前者について各部局の記録・職員の任免異動・貸附圖書・借受人員の統計・受入圖書の種別的統計・歳入歳出の豫算並びに決算などが重要な項目であるが、これ等は一般社會人の大した興味をもつ事項ではない。故にこれ等の内容から選擇したものについて文章を推敲し、記事の分量を考へ、印刷の体裁に注意して、簡潔でしかも興味あるものを作り、餘り數字を使はないで圖書館の進歩發達の狀況なり、圖書館は何を社會に求めてゐるかを訴へたらよい。そして毎年同じ體裁でなく、新味を加へる工夫がなければならぬ。

シヤトル公共圖書館では一九二〇年に四〇頁の年報一千部を印刷し、うち百五十部を他の圖書館



に送呈したので残部の配布範囲は極めて限られた。そしてこの費用百八十弗であつたが、翌二一年には経費節約の必要から五頁の年報四千部を作り九十九弗を支拂つた。一面を圖表とし他を統計と圖書館案内として商工會議所・市政調査會・ロータリー俱樂部・小中学校長などに配布し、別に表紙をつけた五百部には常置委員の姓名や、アメリカ圖書館協會制定の様式による統計を載せて他の圖書館や市當局者に送つた。四十頁と五頁とはむろん前者が詳しい年報に違ひないけれども、平生多忙な生活を送つてゐる人々に取つては、五頁の年報をむしろ有り難く受取つたかも知れない。そこで圖書館の投資としては、假りに同一費用を要したとしても、五頁の短篇が優れた効果を擧げたと云ふべきであらう。年報の刊行に投ずる費用でもつて若干の通俗書を購入したらよいとデーナは言つてゐるが、年々の報告書は紋切型のものでなく、新鮮味を帯びた躍動的のものでありたい。網羅主義よりも重點主義をとつてニュース・ヴァリュエに力を注ぎ、十分準備して執筆すべきであつて、圖書館長はその點で日曜特輯號を編輯する新聞記者の心構へが必要である。

## 一一一 専門圖書館の輪廓

専門化といふことは人間活動のあらゆる分野に見られる事實であり、その結果として練達を生み、知識を深くし、方法もいろいろと改善される。専門醫はその領域で他の醫師よりも尊重されるし、熟練工は素人工よりもよい待遇を受けてゐる。圖書館も同様に一般に専門的價値を認められるようになったが、専門圖書館はその經營方針が公共圖書館とは自から違つてゐる。大都市の公共圖書館では特別の集書をもつことがある、例へば福岡縣八幡市は工業都市であるために、その市立公共圖書館に工業技術の書物が他の公共圖書館と比較して多く集められてあつたとしても、これを専門圖書館と稱へることは躊躇しなければならぬ。専門圖書館の主要目的は専門の書物を蒐集するにあつたのではなく、圖書その他の印刷物を利用し、最小の費用で最大の奉仕をする専門的知識の交換所となることである、即ち特殊社會の需要に應じ彼等に有要な知識を供給するにある。求められるものは書物でなくして知識なのである、従つて若し書物よりも新聞の切抜が役立つならば、専門圖書館は切抜に主力を注がねばならないし、或は小冊子・雜誌・報告書が本來の目的に副ひ得る場合が



ある。専門図書館はその専門の事項に關しては完全な集書をもつと同時に、これをアップ・ツー・デートのものとするばかりでなく、索引も分類も十分に作製されて、最も能率的に利用されるものでなければならぬ。

公共図書館は假りに特別の集書をもち得るとしても、これを縦横に驅使して専門家の満足を得るだけの職員をも併せて置くわけにはゆかない。そこで特殊の要求に應へる専門図書館が科學研究所・工業實驗所・農事試験所に附屬して設けられる所以であり、これ等の専門図書館はこれを利用する限られた人々の要求を事前に察し、知的にかつ遺憾なくこれに應ずる方法を講ずる。そのため醫學・法學・工業に關する図書館はその顯著なものに算へられる。専門図書館の職員たるべきものは健康な一般教育を受け、深い知識を背景にもち、組織力に兼ねて廣い視野と輕重を區別する判斷力を具へ、特に専門の學術に關しては特別な訓練を積まなければならぬ。斯くして専門図書館がその専門學術の分野で、また商工業・行政・司法各方面の難問題を解決する要素となるのである。

専門図書館は學校・研究所・工場・病院・商工會議所などに附屬するもののほかに、會員組織の図書館として存在價值をもつと考へられる。曩に述べたごとく、アメリカの図書館發達の過程で會員組織の図書館は公共図書館に先行し、一般公共図書館の發達とともに大部分はその姿を消したの

であるが、現在なほ存在して永續するものがないでもない。ボストン・アセニウムはその均整のとれた集書をもつ一般図書館で有名であり、同じボストンでもソシヤル・ロー・ライブラリーは法律に關し、ボストン・メヂカル・ライブラリーは醫學に關する會員組織の専門図書館である。會員組織の図書館と他の図書館との相違は、主として會員或は株主又はその紹介者に限り図書館の利用を許す點である。人口の稀薄であつたアメリカの南部および西部地方に、この種の共同出資による図書館の發達したのは故なしとしない。しからは會員組織の図書館は民主主義社會には存在の餘地がないかといふに、凡そ同一の趣味・嗜好或は利害關係をもつものが、共通目的のために團體を組織するのは人間および社會に深く根ざす本能であつて、個人にとつても社會にとつても利益を齎すものである。これ等の利益によつて社團法人・株式會社・俱樂部或は組合などが図書館を設立・維持・發展させる理由である。

會員組織図書館の長所は、同一の趣味嗜好と關心をもつ人たちの集會場所を提供するばかりでなく、他の図書館では到底期待することのできないサーヴィスをここで享けうることである。これ等の図書館は藏書の數では公共図書館と比肩することはできないが、書物を借り受けるもの數が少いだけに、讀者としてはその希望する書物を手にする機會が多くなる。そして図書館のサーヴィスは



會員の数が少なれば少い程、個人に對する程度が大きくなる。かつ圖書館職員はすべての會員に面識をもち、その趣味・嗜好・研究題目などについて知悉してゐるから、圖書の選擇購入についても決定的目的をもち、かつ會員のための圖書館として別途の便宜を提供する方法を案出工夫することもでき、會員の多くは教養もあり生活にも餘裕ある紳士であるから、彼等の希望に應じて圖書館の經營が可能である。圖書館の政策を決定するものも彼等であり、その場所を清潔に靜肅に便宜にかつ氣樂にするのも彼等である。公共圖書館のなほ發達してゐないわが國では、同志相結んで組織する會員圖書館の出現こそ望ましい。やがてそれが公共圖書館・専門圖書館への第一歩となるであらう。

## 1 法律圖書館

法律に關する専門圖書館は法學を教授する學校および裁判所に附屬するものほかに、法曹團の所有維持する圖書館が存在し得るわけである。いつれにしても参考圖書館としてその性質に大した相違はあり得ない。法律圖書館に備付けられる法律文献は主として法規と判決例である、現行の國內法ばかりでなく外國法でも古代法でも、出来るだけ網羅せらるべきはもちろんであるが、法律圖書館は法に關係ある人々の勞作する場所である點で法廷と同様である。法律

圖書館は武器庫であるといふ比較は或は適當でないかも知れないが、法廷で攻防戰を展開する檢察官と辯護人とが、それぞれの有利と信ずる武器を法律圖書館で發見しなければならぬ。法規そのものが一切の根據となることは言ふまでもないが、學者の解釋・最高裁判所の判決例も大切である。これ等は普通の法律書にも引用され、また法律年鑑にも載せられてゐる。その他法律事彙・報告書・雜誌などの參考資料が擧げられるが、法律圖書館にこれ等多くの參考文献を蒐集・整理・保存することに、裁判所の構内でも辯護士事務所でも適當な場所を求めることが困難である。そこでアメリカでは法曹會に加盟してその文庫を利用するとか、大都市ではビルディングの全部或は大部分が辯護士事務所で、その所有者の經營する法律圖書館を各人が利用する傾向があると言はれてゐる。

## 2 醫學圖書館

有名な醫師オスラーは「書物をもたないで醫學を研究しようとするのは、海圖をもたないで航海するときのものである、患者を診ないで醫學を修行しようとするのは、海上に出る意思を全くもたないと同じである」と言つてゐる。醫學の研究は眞の意味で完成するときはない。新しい發見・新しい經驗が次から次へと發表され應接に遑のないほどである、同時にその知識は次から次へと陳腐になつてゆく。醫學文献の生命は十年を経つとそのうち一〇%位しか價値が



ないと言はれ、最近の學理と實驗とを記述した醫書でも、出版せられたときには既に時代後れの感がある。従つて醫學最新の進歩は専門雜誌・モノグラフ・學會報告・會報・議事録などを涉獵しなければその知識が得られない。かく多くの文献は一人が到底座右に備へ得るところでない、そこで醫師たちは地方の醫師會に加入し、その經營する醫學圖書館の文献を利用することがアメリカではしばしば見受けられ、一九一四年世界にある醫學圖書館の數は三百十二で、合衆國だけで一九一七年に百七十四館あつたといふ。

## ハ 商工圖書館

經濟に關係ある圖書館の發達は最近の現象で、産業に科學的精神が導入されてからのことである。商工圖書館は生産技術の改善・外國市場の開拓・事務員勞務者の教育による能率の増進・時間の節約・生産の寄與など、その重要性が廣く認識されてますます發展の一路を辿り、アメリカでは既に四半世紀以前に約二千五百の商工圖書館を數へてゐた。これ等商工圖書館はその事業に關係ある一切の資料を圖書・小冊子・切抜等によつて手に入れ、これを整理していつでも必要に應じて必要な知識を供給する。上は重役主腦部から下はその手足となつて働く勞務者に至るまで、日々の仕事にこれ等資料を利用して利潤を獲得し、生産の質量を改善増加する。他の會

社との競争に對抗するためには一般の狀勢にも注意し、情報・統計・研究の中央機關として販路の擴大・金融の方法・産業の繁榮振興等を講究せねばならぬ。

商工圖書館はまた毎年學校を出て實際の仕事に就く十五六歳の青年男女を対象として、これ等雇傭者の不十分な教育を補充しなければならぬ。進歩的經營者はその事務所に或は工場に圖書館を設け、將來に大望を抱く青年男女に自からを助ける手段を講じてゐる。例へばシカゴの罐詰業者のウイルソン會社の圖書館は使用人のために組織され維持されるもので、各部課に發生する問題を解決するばかりでなく、罐詰業の各部門について精通することにより更に、高い地位に昇進する準備を與へてゐる。尙ほ同じシカゴのマーシャル・フィールド會社の圖書館は厚生福祉施設の一部として、娛樂慰安のため小説・旅行記・一般文學書の讀物を備へ、両親たちが家庭にゐる子女のために児童圖書の借覽をする便宜もある。合衆國勞働省が曾て調査したところによると、産業會社四百三十一の福祉施設のうち圖書館を自から經營するものが九十九あり、その他五十六の會社は自身圖書館を經營してはゐないけれども、公共圖書館の分館を置いてこれに必要な職員給料を負担して支拂つてゐる。これ等百五十五の商工圖書館のうち八十五は圖書室をもち新聞雜誌を具へてゐるが、これを使用者の休憩室に併置すると、疲勞した勞務者が再び元氣を回復して職場に向ふ。よく選擇



された書物は教育的慰安的目的に役立つものである。

科学研究所は専門図書館を中心として發達せしめねばならない。近代の進歩は偶然な發見によつて成就するものではない。科学研究所の成果が工業化されて一つの産業となるのであるが、工業専門図書館は科學を産業、ことに製造工業・機械工業・應用化學に適用し、これに要する各種の資料。その用途および製品についてあらゆる種類の資料をあつめ、これを分類して立どころに利用されるよう用意されておなければならぬ。實驗は知識を擴大する、しかし理論と事實と所見とが文献を通じて裏づけられ刺戟されるのでなければ、實驗を強化し活氣を與へるわけにはゆかない。科學的想像とは確固な事實を踏臺とする論理的飛躍なのである。工業図書館それ自體が必要なのではなく、むしろ図書館によつて知識の所在を知りこれを手にする方法を知ることである。今後工業専門図書館は各種の會社に設けられ生産を刺戟するに至るは必然であつて、工業図書館は工場・研究所の心臓であるばかりでなく動脈となるものと信ずる。

## 二 農業図書館

農事試験所の目的は農業の研究を行ひその結果による知識を普及するにある。農業の科學的研究は商工業の研究と同様重要なもので、正確な知識は理論と事實と實驗の裏づ

けで豊富となる。研究とは既知から未知への過程であり、他の業績が基礎とならねばならぬ、従つて研究に着手する時の知識を出發點として、新しい事實と概念と理論とを發展させるのであるが、過去の業績は殆んど文献によつて確認されるので、研究者は必要な文献をまづ涉獵しなければならぬが、ここに農業図書館職員は當初の補助者として登場する。そして研究がよいよ多岐複雑となつて他の科學部門に及ぶと、図書館員はその知識を通じて研究者を不斷に援助し、時間・精力を節約することに協力して無駄のないようにする。

農業図書館はまた農業知識の擴大事業に参加し、読書俱樂部を組織して読みものを提供する。アメリカの農業大學は農業図書館と提携して大學擴張事業に着手し——若し貴方がたが大學に來られないなら、大學が貴方がたのところへ來るでせう——といふスローガンを掲げて、小麥列車・玉蜀黍列車を仕立てたり、魚類・家禽・果樹の栽培飼育の方法を説明した特別な展覽會を開いたり、地方地方に見本市を開く計畫をしたり、冬の農閑期に短期の講習會を開いたりして、専門的知識を農家に浸潤させてその關心を昂揚させてゐる。同時に農業図書館は「農家の読物」とか「農民は何を讀むべきか」といふ冊子を編纂したり、書物を小包郵便で農家に送つたりしてゐる。マサチューセッツ州農業大學のごときは進んで巡回文庫を派遣したり、合衆國農務省發行の公報を配布したり、大



學以外に進出して、農業教育に公共図書館と同じ重要な要素となり、農事改善に生命力を與へてゐる。アメリカの近代的図書館の建設的寄與の一つは農業図書館の發達である。

#### ホ 宗教図書館

司祭階級は有史以來學問と關係があり、近代の教育制度が建設される以前には教師であり、圖書の製作者であり、保存者であり、かつ普及者であつた。従つて僧侶牧師などの宗教々師が有力な図書館をもち、或は特別な宗派に宗教図書館が所屬するのは不思議なことでない。しかし宗教図書館は宗教倫理に關する圖書に限りこれを蒐集すべきものではない、經濟問題・社會問題は人生と深い關係があるから、眞に衆生を濟度し羊の群を見守る牧者をもつて任ずるものは、經濟學・社會學に無關心であつてはならない。わが國の宗教専門學校の図書館に果してさうした用意があるであらうか。宗教図書館が佛敎學或は基督敎神學を敎授する大學の一部であるときは、大學図書館に集書の大部分を依存することができから、宗教文献に限り小規模であつてよいけれども、附近の一般図書館と隔離してゐる宗教図書館は宗教文献に力を注ぐのはもちろんとして、一般の集書にも注意すべきである。教會・寺院・日曜學校に附屬する図書館についても同様である。

ボストンにあるゼネラル・セオロジカル・ライブラリーといふのは、一八六〇年に各派の有名な

若干の宗教家によつて建設されたもので、彼等は「あらゆる宗派の神學書・宗教書の所有者」として結社を作つた特異の図書館である。ニュー・イングランドに住む按手禮を受けた正規の宗教家は誰でもこの図書館から書物を借り受ける特權があり、ボストンを距る二十哩以上の土地に住む人は郵便で書物を送つて貰ふことができる、そしてその費用はすべて図書館の負擔である。専門図書館のうち宗教図書館の重要性が餘り注意されないのは、日常生活における宗教の地位なり寄與が充分に理解されないためで、近代の宗教家はひとり心靈的教師であるばかりでなく、社會事業家として、輔導者として、講演家としての活動が要求される。この意味で宗教家は一面學究生活を送らねばならないとすれば、宗教図書館は必要缺くべからざる彼等の道具なのである。

#### 新聞社の調査部

主な新聞社には大概調査部を設けてゐるが、この調査部は何か大事件が起つたとき新聞にニュース・解説・寫眞・地圖・社説の資料を提供する機關なのである。例へば著名な人物が突然死亡してその記事を豫め準備する時間がないとき、編輯者は調査部から傳記・寫眞・切抜などの材料を取り寄せ、これによつてその人の經歷・家庭・政治的社會的功績を述べた記事の上に、更に最近の寫眞などを加へて立どころに紙面を飾ることが出来る。新聞社の調査部をモーグ Mougne



といふのは、もともとバリで身許不詳の死者の引取人を知る場所から来たもので、整備されてある新聞の調査部では地方的・國內的・國際的著名人について、半時間で幾十の項目を引出してこれを記事にすることができる。例へばあるアメリカ新聞社では大統領ハーディングに關してその逸話・家系・少年時代・大統領指名の顛末・選舉運動の経緯・大統領就職式の模様・内閣々僚の顔ぶれ・議會への教書・外交政策・英米關係・國際聯盟對策・勞働政策・禁酒問題・宗教的見解・婦人參政權・趣味娛樂・最も好む音楽・避暑地・署名などに分類された資料が保存されてゐたといふ。

新聞ニユースの取材者であるレポーターは絶えずその部署が轉換される、従つてその接觸する人々について、またこれまでに發生した種々の事件について、前任者から充分の引継ぎはされるにしても、新レポーターは調査部について擔任部署を研究して置けば、何か事件が起つたときには假令特殊な題目であつても、從來の記事を検討した後その新聞社の方針に則り、心おきなく筆を執ることが出来る。解説者・論說部員も亦調査部に材料を仰ぎ、若し引用文が必要ならばその正確な言葉とその語られた場合とを知ることが出来る。國會または地方議會に法律案或は議案が提出されたとき、これに關係ある事實なり數字なりを探ることも容易である。日曜特輯版の編輯者はまた寫眞を調査部から得て紙面を賑はし、文化部では何か學術的新發見があつたときには、手近の専門家の住所氏

名を知り記者を派遣してその意見を徴することができる。そこで調査部の經營管理者は過去・現在・未來の仲保者であり、現代史家であり、野球の用語を藉りればピンチヒッターと言ふべきであらう。以上いくつかの専門圖書館についてその輪廓を描いたのであるが、これが經營に當る司書は圖書館技術に練達した人であるばかりでなく、特殊の學識經驗者でなければならぬ。商工圖書館の司書は經濟學・金融・技術について知らねばならぬし、法律家でなければ法律圖書館の職務は勤まらぬ。醫學圖書館は大學を卒業した助手・助手級の人がこれを擔當してゐるが、醫學の知識に重きを置く結果として圖書館訓練が缺けてゐる。科學圖書館では特殊な高度の訓練を要することは、ドイツの國立圖書館ではドクトルの學位をもつものが二年間見習ののち、國家試験を経て一人前の司書となるのも分明であらう。これにつけても専門圖書館職員を養成するために、大學に圖書館學講座が必要であり、或は専門家に圖書館教育を興へる施設が要望されるわけである。

### 一三 特殊圖書館點描

最近數十年來、肉體的精神的缺陷のあるものに對する圖書館活動が盛んとなつた。その顯著なる



のは盲人のための點字文庫、精神病患者に對する讀書療法 *Bibliotherapy* 監獄における行刑文庫である。その他病院・サナトリウム・聾啞學校・養老院・感化院などに設けられる圖書館は、これ等の肉體的精神的缺陷者・犯罪人・寄寓者などを平常の状態に置き、自立させるのを主要な目的とする。例へば小説・傳記・旅行記・戶外生活を記した書物・軽い科學的讀物など、教育的といふよりも慰安的娛樂的のものが心機の轉換・肉體的不快を救済するものと一般に認められてゐる。かく治療的教育的見地からこれ等特殊圖書館の價値は大きいばかりでなく、外部世界と外界人と隔絶した人々に幸福感を與へ、そしてこの幸福感は心を平靜にし、健康を取りもどす状態に導く。今や人間が人間を視る眼、人間が人間を考へる心に大きな變動が生じて、不幸な人々を憐憫の對象としてでなく、飽くまでも人格的にその生活の改善向上を期する意識から、國民として妥當な取扱を受けさせるために、普通の市民と均等な機會を出来るだけ與へる特殊圖書館が生れたのである。

**イ 點字文庫** 盲人用圖書は一七八六年パリではじめて凸字で印刷され、その後種々の型が試みられて英國のムーン・タイプ、米國のボストン・ライン・タイプなどが廣く行はれてゐるが、これ等の凸字印刷は多くの紙面を要するばかりでなく、紙の一面しか利用できないのと、相當の大字で

間隔を必要とすること、可なり熟練したものでも遅讀で時間があるし、筆寫が困難である。それと比較するとルイ・ブライユがバルビエーの創案を工夫改良した點字は、盲人教育者のあいだに歡迎され、わが國でもこれを實際に試験して成功してゐる。しかしブライユの點字はもとローマ字を代表するものであるから、わが國語の場合には不都合でわかりにくい點もあつて、東京盲學校教諭石川倉次氏が更に改案したものが一般に行はれてゐる。

しかし點字圖書は紙面を多く要するために大冊である上に、普通の傳記一冊が點字四冊ないし五冊に當り、卷數も多く、需要が少ないのに比較して生産費が高くかかるばかりでなく、原版の刷出能力が五十冊を限度としてゐる。そこで合衆國政府は一八七九年一萬弗の補助金をルイスヴィルにある米國點字印刷所に與へ、一九一三年にはこれを五萬弗に増し、二七年には七萬五千弗、三一年には十萬弗に増額してゐる。そしてこの資金によつてアメリカ圖書館協會盲人部委員會の選擇した圖書を、小説一部に對して小説以外の書物一部と定めて印刷し、これを議會圖書館をはじめその他全國に互る十八の州立・公共・盲人圖書館を指定して、大圖書館には小説四冊その他の圖書館には二冊、小説以外のものは各館いづれも二冊を配布する。そしてこれ等の書物は盲人圖書無料遞送の特權によつて國內の隅々まで送附することができる。なほ一九二一年ニューヨーク公共圖書館が郵



送した盲人圖書は三六、八一七冊であつた。更に點字圖書は鐵筆で穿つことができるので、赤十字社篤志者のうちには點字圖書の乏しいのを憂へ、進んで翻字を志願するものもあつて、普通の雜誌などに載つてゐる短篇小説を點字化し、小冊子を作るものも出て公共圖書館長を喜ばせてゐると聞くが、それでも未だ盲人を満足させるだけの點字圖書の供給を得ることは困難である。

わが公共圖書館の一部に點字文庫のあることは既に周知の事實であるが、特別の部屋を設けてここに點字圖書を配列して自由に接架を許し、アメリカでは一定の時間を設けてお話會や朗讀會を開いて盲人を樂ませてゐる。盲人は正視者と同様に取扱ひ、圖書の貸出も一般と同じでよいとの説もある。また一部では點字文庫のために自身盲人である圖書館職員が必要を論ずるものもある。盲人圖書館職員が讀者に深い同情をもつ點でその價值は認めるが、集書が充分で職員が多數にゐる圖書館に一人ぐらい盲人職員があつてよい、しかし集書の少い場合にはその必要もなくまた望ましいことでもない。ただ盲學校に附設される點字文庫は特別である。

シンシナチ市では盲人トレーダー女史を中心に盲人讀書會が組織され、圖書館はこれに一室を貸與するだけで全く特志家の活動に委せたが、その結果新しく盲學校が組織され、婦人ホームが設けられ、盲人慰安會も行はれるやうになつたといふ。家庭盲學會は世界の各地にあつて巡回教師を盲

人の家庭に送り、點字を解讀するようになることを圖書館の讀者として登録させてゐる。わが盲人義務教育制度もいよいよ確立することとなつた現在では、點字文庫の重要性はますます増大せざるを得ないが、點字圖書の貸出はできるだけ手続きを簡便容易にする注意が望ましい。郵送するときには點字を傷けないやうな用紙を包装に用ひ、表に宛名を手書或は印刷し、裏は返送のときに使用できる様に圖書館名を印刷して置くことよい。圖書の借受期間は正視者と同様にする、盲人は思ひやりが深いから、他の讀者のためいつまでも書物を借り放しにして置くことはないと言はれてゐる。

## □ 病院圖書館

歐米諸國では病院圖書館が設けられて療養生活の孤獨と不安と、憂鬱と苦惱と、焦躁と煩悶とを除く考慮が拂はれてゐるばかりでなく、進んで書物を通じて健康状態に回復させる讀書療法が行はれてゐる。ひとり藥餌によつて原因的治療を施すだけでなく、患者から病症についての觀念を他に移動させ、精神的嗜好物を與へて病人の情緒を悦ばせて腦髓の過勞疲憊を恢復させる。シデンハムは『良好な書物は千百の醫藥に勝る』と言つてゐるさうだが、それほど讀書萬能でないにしても、病人の個性を知つてその嗜好と理解力とを考へ、適當の讀物を與へて時間の長短を計り、節制を加へて監督すれば顯著な効果を收めることは古今東西の事例に徴して少くない。吳



秀三博士は精神療法に讀書の有益な例を挙げ、ハーバート大學教授カツシグ氏は患者の幸福を冀ふ病院ならば、患者の圖書館に適當な考慮を拂ふ筈だと語り、カンニング少將はまた患者厚生の方法として病院圖書館に優れたものはないとさへ言つてゐる。

米國アラバマ州の老兵保護療養所圖書主任ペタソン・デラニー夫人の證言によれば、ある患者は切抜に興味をもつてその仕事を続けながら讀書に耽り、その娘がたまたま學校の卒業式に演説することになつたので、彼はその切抜や讀んだ書物から材料を提供し、首尾よく晴の務を果せると同時に彼も亦全快退院して、故郷で社會指導者として満足した生活を送つてゐると言ふ。またある常習的不平漢であつた患者は讀書の結果、その興味を感じた書物の梗概を他の患者に語り聞かせてゐるうちにいつしか樂天的協調的となり、毎月曜日に開かれる讀書俱樂部の會合に出席して批評を受け、病室中の物識りとなつた例もある。無口の患者が詩集を興へられてこれに興味をもち、やがて同室の患者のために朗讀の役を引受けるようになり病症が軽くなつたものもある。病氣に悪影響を與へる書物、例へば興奮性の内容をもつ小説や劇は患者に禁じなければならぬが、適當な書物を選んで、適當な時期に適當な患者に與へればたしかに讀書療法となるが、その際讀書指導が大切である。同情あり聰明な醫師の配慮を要するのはここである。

クリーヴランド公共圖書館は一九三一年に約十一萬冊の書物を十二の病院に配布したが、同館の病院部主任エドワーズ女史は病院長並に幹部職員特に看護婦長が、この事業に興味をもつて熱心に援助と協力を吝まぬことが大切であると語つてゐる。この公共圖書館は病院に働きかける前に病院と契約を結び、圖書館は(一)病院の職員および患者の數に應じて圖書を供給する、(二)そしてその圖書はできるだけ頻繁に交換して常に弾力性をもたせる、(三)毎週一日必要な時間を割いて圖書の配給と病院職員との懇談・協議・研究の指導・讀書の奨励に充てる。これに對して病院は(一)鍵附の本箱と場所を提供し圖書運搬車を備へる、(二)一般の患者と職員に公告して圖書の利用を奨励する、(三)圖書の紛失防止に積極的協力するといふのであるが、かうした形式的な契約の有無にかかはらず、實際には十分の成功を収めることができる由である。

もとより病院が圖書館を自から經營するのが理想的であるが、英國赤十字社病院圖書館のロバーツ夫人によれば、ドイツだけがこの原則により、英國では約二千の病院が赤十字社本部と聖ヨハネ病院圖書館とから書物の供給を受け、その世話をするものは素人の特志家が主で専門家ではない。スエーデンでは病院圖書館に國庫補助を與へることになつてゐるが、公共圖書館が書物と職員とを供給すればその補助金は圖書館が、病院自身が圖書館を經營すれば補助金は病院が受取る建前にな



つてゐる。アメリカでは一九三一年にボメロイ女史が調査したところによれば、三十四州の病院が公共図書館から書物と専門職員の提供を受け、ただ書物の供給を受けるのが數州あり、全然その設備のないのは僅少に過ぎないと言ふことである。ペンシルヴェニア州だけについて言つても、百二十三の病院が何等かの図書館奉仕をなし、うち九個の病院は専任の職員をもつてゐる。五十一の病院は全くその設備がないが、これは病院図書館を經營する方法を知らないのか、或は公共図書館から書物の供給を受ける方法を理解しないかである。

## ハ 行刑文庫

西南事件に連累して獄裡の人となつた陸奥宗光は入檻後、歐米の法律・經濟・理學などの書物を耽讀してゐたばかりでなく、囚徒にも時に講義をしてゐたことが明治十一年十一月の新聞記事に見える。また作家片岡鐵兵氏は一年半の獄中生活に約八十冊を讀破したと告白してゐるし、二・二六事件で下獄した歌人齋藤劉氏も亦その『獄中の記』のうちに讀書について記してゐる。歐米でも十九世紀の初期以來聖書や宗教書に限られてはゐたが、とに角囚人に讀書が許されてゐたことは、明治六年米歐を巡遊した岩倉具視等の一行の眼にも映じ記録されてゐる。行刑文庫はその組織が完全でなく、充分な資金も持たず、管理が不十分であるにかかはらず、受刑者は自由

な市民が一年間に讀むよりも多讀し精讀し、これによつて生活の單調を解消し、精神的療養を遂げ、心の緊張を去り、間接には教室で受けなかつた教育を完成する。

わが國の刑務所では監獄に備付けてある書物を、行刑上の術語で看讀書籍と稱する由であるが、その受刑者に與へた利益、ことに思想犯に及ぼした感化の著しかつたことは、大審院檢事池田克氏の「思想犯教化の經驗批判」と題する論文に述べてある。しかし監獄が必要とするのは圖書館であつて、書物ではない。既に述べたごとく眞の圖書館はその社會の要求に應じ、讀者に奉仕するために書物の購入・整理・分類に加へて、讀者の興味を刺戟し指導する方法を講ずる。即ち書物を知り讀者を知り書物と讀者とを結びつける司書が必要なのである。保健技師によつて受刑者の健康が維持され、作業技師によつて職業の輔導が行はれてゐるとすれば、看讀書籍についてもこれを掌る司書技師が必要であることは自明である。しかし専門の圖書館職員を行刑文庫に得ることは當分困難であつて、勢ひ已むを得ず教誨師・學校教師・累進處遇一、二級の在監者に依存しなければならぬ。アメリカではこれ等の専門的訓練を受けたことのない人々が、幾多のハンデキャップにもかかはらず既に多くの輝かしい業績を収めてゐると言はれる。

刑務所の首腦者は行刑文庫の運営に關し公共図書館の援助を求むべきである、また公共図書館長



もその制限された資金と人員の範囲内でこれに應ずべきである。圖書の選擇・分類はもとより貸出制度・讀書指導について進言したらよい。齋藤氏も述べて居られるやうに行刑文庫には書物を要する、新書・良書を多く必要とする、上りの通俗宗教書は深刻な人生の經驗を嘗めた人々の心を動かすものでない。小説・傳記・旅行記の類はもとより廣い分野にわたつて良書をもつことが要請される。池田氏も行刑教化の實を擧げるため國家は看讀書籍を充實する費用を吝んではならないと言つてゐる。アメリカでは創立費は別として行刑文庫の補充・追加・代替のため年額一人當り五十仙の經費を要すると専門家は論じてゐる。

## 二 兒童圖書館

兒童圖書館は公共圖書館の一部に設けられ、十二、三歳までの少年少女のために特別な讀物を配列し、自由にこれを讀み得るやうな設備をすると同時に、その管理者は兒童の希望に應じて讀物の選擇、またはその使用法を指導し、參考圖書も備へて閱覽させる。若し彼等が欲するならば、そしてそれが適當と認められるならば、年長兒童には青年圖書を貸與してもよい。いづれにせよ兒童圖書館の經營については別冊で詳細に講究されるものに譲り、ここでは兒童遊園の一角に設置せられるであらう兒童専用の獨立したものについて若干の知見を披瀝するにとどめる。

兒童は幼稚園時代から既に繪本に憧れをもつ、そして小學校に入ると面白い書物を讀みたいといふ要求をもつ。若しどんな家庭でもこの要求が満足されれば問題はないのであるが、これは何人にも期待されることではない。そこで兒童専門の圖書館が成人圖書館よりもモット多く設けられてよい筈である。讀書の習性は幼兒のときからこれを養成しなければならぬ。しかし兒童はすぐ倦きてくる、また餘り長く讀書させると疲勞する、そのときには戸外に出して運動させ、また興を催したら讀書させるよう指導したがよい。雨や雪の日には外へ出ることができないから、そのときは一定の時間を隔てて一齊に讀書を中止し、お話を聞くことにする。兒童圖書館の司書はお話のできる人であることが資格となる、もし話術が得意でなければ朗讀でもよい。兒童に讀書の意欲を起させることが大切である。

兒童には移り氣があつて讀書するといふよりも、本にある繪を楽しんだり、所々を拾ひ讀みをするものもあつて、頻繁に書物を取り替へるものがあるが、これによく指導して落ちついてユックリ終ひまで讀む習慣をつけさせなければならぬ。兒童の方に餘る場合は別として、讀後の感想を語らせたり、有り合せの紙にこれを綴らせたりするなどの工夫があつてよい。兒童圖書は一冊では足りないから、複本を揃へて置くと、仲よしなどが同じ本をめいめに手にして讀むのを見受ける。



また児童圖書は印刷が鮮明でなければならぬ、随つてこれを選択するとき紙質とともに吟味する必要がある。なほ書物の取扱はいくら注意しても亂暴になり勝ちであるから、装釘は最初から堅牢であるのを選ぶと同時に、早い目に修理をするやうに心掛けなければならない。

#### ※ 學校圖書館

學校圖書館は特殊圖書館ではないのだから、ここで取り上げるのはふさはしくないのだが、児童圖書館について述べたのと關聯して一言して置きたい。學校圖書館についてはその『手引』がいつれ刊行されるであらうし、また『學校圖書館入門』が別に用意されてゐる。

學校の主な仕事は言ふまでもなく學習である。生徒は學習を通じて視野を擴大し知力を發達させ人生の喜びを感じる。昔の教育は「読み書き算盤」とか三Rで足りたが、最近の理念では男女が成全生活をするに必要なあらゆる準備活動を意味し、これに基づいて學科課程が編成されてゐる。教科書を中心に教師がこれを説明し、生徒がこれを傾聴するだけで能事畢れりとした時代は既に過去に屬する。生徒自から働かせて個性を伸ばせ、その能力に應じて可能な範圍で特別に寄與させることを獎勵する。そのためにはいろいろな書物から、いろいろの知識を集め、廣い經驗の世界を展開して人間活動の種々相を知らせ、健康・徳性・職業を通じて人類社會に奉仕する正しい目標を與

へなければならぬ。例へば地理學は地圖の上でその位置を教へるだけでなく、人情・風俗・習慣から農工商業の世界にも旅行するし、史學は人物・年代の暗記ではなく、人類の協同生活を研究する學問である。家庭生活を美しく楽しく科學的にするために音楽・美術・文學・理化・工藝の知識を修得させ、進んでいろいろな學校行事にも參割させる。これ等の資料は主として圖書館がこれを提供する。

學校圖書館は直接に教育を補助するものである。これまでは公共圖書館が學校と平行して一方の形式的な教授と教科書とに對して、個人的自由と非形式的な學問と娛樂的事實に充ちた文學をもち、兩者の間には殆んど交渉も關係もなかつた時代がある。しかし年の經つにつれて相互のあいだに親密な愛情が生まれ、期せずしてそれぞれの分野に浸潤が始まり、圖書館にも教育的活動が行はれれば學校にも圖書館が組織され、ともに悦び共に利益を發見した。學校圖書館は生徒と教師とを對象に書物と讀者とを結びつける、従つて集書の大小よりもサービスが大切である。次に學校圖書館は書物と圖書館の利用法を訓練する、即ち辭書・百科事彙・索引・參考書の利用、圖書の分類と目録とについて解説し、圖書館に出入する習慣が作られれば、學校を卒業したのちでも讀書の習性は持續する。更に學校圖書館は生徒に社會的訓練を與へ、公民教育即ち正しい市民としての知識と市民の



權利義務を實際の行動に結晶させるため、學校の他の部門とも協力することがある。

圖書館は學校の心臟と言はれてゐる、若し心臟が弱ければ他の機關はすべてそのために苦しみ、心臟が強ければ元氣で健全である。圖書館のない學校の存在しないことは「學校教育法施行規則」第一條に明記してある通りで、この趣旨を徹底し運営を圓滑にするには人を要する。オレゴン州では州教育局が高等學校長に對し、十人の教師を任用するとき、うち九人は正規の教授陣を構成してよいが、一人だけは經驗ある司書で圖書館に専念し、他の九人を助けるものであることを勸告してゐる。またカリフォルニア州では一九一七年の法律で、一日に二時間以上高等學校の圖書館事業に従事するものは高等學校教師の資格をもつものか、圖書館の技術および利用法について特別の資格をもつものであることが要求されてゐる。

公民館 都市の圖書館では建物の一部を博物館として觀覽施設をもつものがあり、或は講演會・講習會・展覽會・映畫などを臨時に催す場所をもつものもある。圖書館は讀み物のほかに樂譜・レコード・映畫フィルムを蒐集保存するのを妨げないのであるから、農(山・漁)村又は部落を單位とする圖書館は、ひとり讀書の場所であるばかりでなく、公民館として綜合的社會教育機關

となることが、いろいろの施設を區々に經營するよりも、經費の點から考へても職員の點から見ても非常に望ましいことであり、これによつて郷土的情操と郷土的文化とを尊重し、涵養し向上し發展させることができる。圖書館の利用をいくら勸奨しても、嚴めしい建物で堅苦しい場所であつては、一日の勤勞に疲れた人々を惹きつけることは困難である。況んや公民館は簡便に利用され、興味をひく場所であるのが第一の要件である。ここは圍碁將棋ができ、レコード・映畫を觀賞する楽しい場所であり、農繁期には託兒所ともなり、お伽噺の會・兒童劇の練習所・青年男女の討論場・母の會の集會所となり、談笑のうちに教養を昂め娛樂に親むこともできる。もし醫療施設を併置する可能性でもあれば、人々の幸福を増進し、郷土生活は健實豊富となり、漫然離村するものもなくなつて農村の振興を招來することとなる。

#### 一四 圖書館職員の倫理

圖書館に勤務する職員は、館長から館童・使丁に至るまで、いろいろの職階によつて分れてゐるばかりでなく、その管掌するところによつて庶務・會計・圖書選擇・注文・受入・分類目錄・貸出・兒童・



部などがあり、それぞれ適材を適所に配置してその能率を發揮させることによつて圖書館の聲價は認識の度を深める。従つてこれ等すべての職務に通じ各段階に互る倫理を説くことは困難であり、或はむしろ不可能にちかいかも知れない。いづれにせよ圖書館は書物と人とを相手とするものであるから、これ等については特別に深く廣い知識を要することは言ふまでもない。香氣の高い文學趣味・正確な價値判斷・著者並に讀者についての理解・文献の徹底的利用などはその一斑であらう。しかし私見をもつてすれば圖書館職員に先づ求めらるべきものは健康である。

われわれはしばしば健康が充分でない故をもつて、圖書館に職を求める人々のあることを耳にするが、こんな誤つた觀念は一日も早く拂拭すべきである。過去の圖書館は或は半病人でも勤まつたかも知れない、しかし現代の圖書館は頭腦と手足とを勞する激務である。時間も食事も不規則になり勝ちであり、讀書によつて視力は疲れる。起立して人と應對すれば身體も神經も消耗する場合が多く、讀者の要求を判然と知るには聽覺が鋭敏でなければならぬ。健康人でなくては圖書館の仕事はなし果せるものではない。しかも氣まぐれでは能率は擧げられない、精神力を集注して健實に一步步つ仕事を片づけてゆかねばならない。時間の空費はもとより禁物であり、無駄口を利くことも慎まなければならぬ。半端な時間も有効に費すことを心掛けねばならないが、と言つて快濶を失つ

たり、明朗性を忘れることはよくない、ユーモアも充分にあつてよろしい。

精密的確は圖書館職員の大切な資格である。書類・貸出票・閲覧票の處理、統計・目錄記入・點檢・分類、配列の正確、注文・製本に誤謬があつてはならない。そのためには正しい判斷力と強い責任感を要する。本質的なものと然らざるものとの區別、讀者とその要求に對する適度の思慮分別、愛憎好惡を表はさないこと。讀者社會全體の興味に注意してその讀書を指導し、一部の階級に偏してはならないこと。擔當の仕事に關心をもつのはむろんとして、他人の事務にも喜んで援助を與へること。組織的に仕事を片づけ、これが改善に工夫を凝らすこと。好奇心を働かせて新刊書に注意し、知識の擴大をはかること。熱心に協同して愉快に敏速に順序よく仕事を撈取らせることなどは今更に取り上げて言ふまでもないことであらう。時間を正しく守り、どんな苦しい條件の下でも、良心的に氣軽くこれに應ずる。讀者に對しては丁寧親切で、その信頼性を得べきはもとよりではあるが、圖書館規則の嚴守、館内を清潔にかつ靜肅に維持し、貸出圖書の満期・督促に注意を怠つてはならない。

記憶力も亦重要な素質の一である。目錄規則を一々参照しなければ作業ができないようでは困る、必要な件名標目は指頭から捻り出すほどにならなければならぬ。分類記號は必ず謄記しておく、



そして一度手にかけた書物はいつでも思ひ出すことができなければいけない。読者の姓名を記憶してその趣味・研究題目に應じ得る用意が必要である。またいかなる読者が図書館に来るであらうかを豫想し、それらの人々の要求を察して資料を選択するためには活潑な想像力を無視できない。そして読者が充分にその要求を表現し得ないときは暗示を與へてこれを引出す、假りにその書物が手許になくてもこれに代るべきものを提供し、読者の要求を斥けて失望させることがあつてはならない。

図書館職員は知識欲が旺盛でなければならぬ。内外の時事問題にも興味をもち、新事實についてもこれを知る機会を捉へること、そのためには信用ある新聞・雑誌を精讀し、市民大衆の欲望が那邊から起るかを探究しなければならぬ、そして市民に伍して親しく眼に見・耳に聴き體驗しなければならぬ。讀者に對しては氣軽く友人視してこれに應じ、いつでも平靜を失つてはならぬ。疲勞したときでも、困難な問題に直面したときでも、疝癢を起さず、その義務を果す心構へが必要である。

服装は簡素で清潔な感じを與へなければならぬ。図書館で職務服に黒色の外衣を給與してゐるところもあつたが、陰鬱な色合はさなきだに図書館の空氣を明朗にしない。醫師・看護婦の白衣は汚れが目について洗濯代が嵩む、クリーム色ないし薄い草色などが好ましいのではなからうか。圖書貸出臺を常に清淨にして硯箱・インキ壺に塵が積つてゐてはならぬ、書類の整理箱・書棚も同様

である。低い愉快な聲で神経質な相手の氣持を和げる用意があつてほしい、手記されたカード目錄の文字にも、見るものに快感を與へねばならない。上司同僚の意見を善意で受け入れること、些細なことにも無な時間を徒費しないこと、身邊を常に整頓して置くこと、言はでものことながら序をもつて記して置く。

## 一五 圖書館協會

勤勞はすべての國民の權利であり義務である。われわれは自由に選擇した職業を通じて、健康で文化的な最低限度の生活を営む權利をもち、また集會・結社および言論の自由が保障されてゐる。図書館職員はこれ等の權利と保障のもとに、図書館に關心をもつ人々とともに團體を組織して図書館事業の進歩發達と強化とを圖り、それによつてわが國の文化の進展に寄與し、また自からの福利厚生を要求することができる。中央と地方の図書館協會は會員個人の努力と組織とによつて實際的な方法で、會員の親睦・図書館相互の連絡・學校その他の關係團體との提携・図書館に關する調査研究・機關雜誌の發行・講演會・講習會による啓蒙運動並に図書館職員の養成と再教育・就職の斡



旋・良書推薦による國民讀書運動の促進と指導・圖書館用品の購入斡旋などによつて目的達成に努力してゐる。

社団法人日本圖書館協會は明治二十五年三月田中稻城・西村竹間・中根肅治・關直・揚龍太郎・大城戸宗重・太田爲三郎氏等によつて組織され、年に數回例会を開いて會員の研究を發表するほか、和漢圖書目錄編纂規則を確定した。のち田中稻城氏を會長に推し、三十六年の夏には第一回圖書館事項講習會を開き、三十九年には始めて全國圖書館大會を開催し、毎年これを開くを例とするに至つた。四十年十月『圖書館雜誌』を創刊するに及んで會員の數も増加し、徳川頼倫侯が總裁となられると飛躍的發展の一路を辿り、その間東京市・福岡縣のために圖書館建築設計案に意見を開陳したり、永年勤續者の表彰、先亡功勞者の慰靈祭を催したりした。大正四年には『圖書館小識』を刊行して一般の啓蒙書に兼ねて圖書館經營の手引とした。その後全國大會は東京のみならず地方でもこれを開き、朝鮮・滿洲・臺灣にも赴いて圖書館の普及・宣傳を試みた。松平頼壽伯が總裁となられると總裁賞を設け、新研究・新施設を表彰してその獎勵に拍車を加へた。最近更に組織を改編して中央の機關として東京都文教區原町十二番地に事務所を置いてゐる。

青年圖書館員聯盟は昭和二年大阪に設立され、季刊『圖書館研究』を機關誌として『日本十進分

類法』『日本圖書目錄規則』『日本件名標目表』『圖書館總覽』を次々に刊行すると同時に、しばしば圖書館事項に關する講演會を開いた。戰爭中解散の己むなきに至つたが、その後日本圖書館協會として更生し兵庫縣寶塚文藝圖書館内に事務所を置いて逸早く活動を開始し、講習會の開催・圖書館用品および求人求職の斡旋・會報の發行・機關誌『圖書館界』を出してゐる。その他一時姿を消したその他の團體も追々再組織再出發されることであらう。また各府縣にはその府縣を單位として圖書館協會が作られ、例へば京都圖書館協會は京都市左京區川端通丸太町下ル和風圖書館に事務所があり、研究會・講習會・參考圖書選定・その他の事業に着手してゐる。

かく各地各種の圖書館協會が盛んとなり、その事業が活潑の度を加へ、その刊行物に圖書館事業に關する調査が掲載されて廣く読まれるならば、圖書館は一般の注意を喚起してその眞價を發揮し、熱心有能な男女をこの事業に献身せしめる誘因となるであらう。しかしながらこれまでの圖書館協會は圖書館職員の社會的地位の向上・經濟的生活の保障に關しては比較的冷淡であつたばかりでなく、中央圖書館長協議會のごときは特權階級的存在として、一般圖書館職員の幸福追求の障礙となつてゐたとさへ信じられてゐる。わが圖書館文化を他の國々と比肩し得るまでに引上げるには、まづ圖書館事業に従事する勤勞者が高きも低きも心から力を協せ、これまでのやうに官僚的方式で上



からの命令によつて動くといふのでなしに、すべての人の智慧と能力とを結集してこれを實行に移し、事業そのものを愛し親しみ、これをわが物と考へて自發的に改善を企てるのでなければ不可能である。そのためには圖書館職員がその知識と技術と經驗とに自信をもち、その仕事に關して發言する機會が與へられなければならない、しかもこれを秩序正しく且つ力強く行ふには團結によるより外に方法はない。

圖書館の職員が保障された結社の自由に基つき圖書館協會を組織し、文化的社會的活動をしてゐることは前記の通りであつて、圖書館勤勞者の賃金・就業時間・休息その他の勤勞條件は法律によつて基準が定められてゐる。それで一應は満足すべきであらうが、しかし團結權の保障と團體交渉權の保護助成とにより、進んで自主的に勤勞條件の維持改善その他經濟的地位の向上を圖ることを目的として勞働組合を組織すべきである。勞働組合は經濟的地位の向上を第一義とするが故に、動ともすると金銭的待遇の改善とのみ考へられ勝であるが、政治的社會的行動を妨げるものでもなく、文化の進展に寄與するのを禁ずるものでもない。結果から見れば經濟的地位の向上は政治的社會的向上をもたらし、勤勞者の地位が全般的に向上すれば、その従事する事業をわが物として、その經營改善に對する創意工夫も活潑に反映することは疑なきところである。日本圖書館協會がこれまで

御用團體の觀を呈し、中央圖書館長協議會が屋上屋を架する贅肉であり、一般圖書館勤勞者は單なる從屬者として他律的道德の世界に住み慣らされてゐるに過ぎなかつたのであるが、今こそ自から主體となつて團體を組織し、自律的道德世界に解放され、自律的精神のもとに自發的に正當な行爲により、各自の力で働きよい住みよい能率的な世界を作り上げなければならぬ。これまでのやうに圖書館長は常に天降りの素人であり、十年苦節の圖書館職員が下積みにとどまる慣習は、圖書館の經營を民主化する所ではなく、斷じてこれを排除しなければならぬ。單に利己的でなく全體を考へ、またこれまでの小市民的虛榮心を清算し、眞に勤勞者としての歎びを平和的に享受するための奮起が望ましい。圖書館經營は飽くまで圖書館職員が中心とならなければならぬのである。



- 和田萬吉著 圖書館管理法大綱 大正十三年再版 丙午出版社
- Arthur E. Bostwick: The American Public Library. 3rd ed., rev. & enl. N.Y. 1923. Appleton
- John Cotton Dana: A Library Primer. Boston 1920. Library Bureau.
- Anna Gertrude Hall: The Library Trustee. Chic. 1937. A.L.A.
- Francis K. W. Drury: Book Selection. Chic. 1930. A.L.A. (Library Curriculum Studies)
- Margaret Mann: Introduction to Cataloging and the Classification of Books. Chic. 1930. A.L.A. (Library Curriculum Studies)
- J.H. Friedel: Training for Librarianship; Library Work as a Career. Phil. (c.1921) Lippincott. (Lippincotts Training Series)
- S.R. Ranganathan: The Five Laws of Library Science. Madras 1931. Madras Library Association. (Publication Series. 2)
- Eric Leyland: The Public Library; its History, Organization and Functions. Lond. 1937. Pitman.

部首索引

ア	アイモスト大學 <small>ダイガク</small> ……………二七・三六	アスタークーパーレンツクス <small>トシヨカン</small> ……………三三	アメリカ圖書館 <small>トシヨカン</small> ……………二六・二七・三三	イ(キ)	イガクトシヨカン <small>イガクトシヨカン</small> ……………二二	醫學圖書館……………二二	石川 倉次……………二三	インサツ <small>モクロク</small> ……………三三・七七・七八	印刷カード目錄……………三三・七七・七八	インサツジダイ……………三四	印刷時代……………三四	インサツシヨサツガタモクロク……………七七	印刷書冊 型目錄……………七七	ウ	ウキリヤムス……………六七	ウキダシイ……………六七	浮出印……………七二	ウケ	ウケ入……………七〇・七一	エ(エ)	A・L・A 見ヨアメリカ圖書館協會……………二七	エザンバラ(市) <small>ダイガクシウ</small> ……………二七	「エヂンバラ大學史話」……………二七	エツランケン……………二七	閱覽券……………二七	エワート案……………二九	エワート案……………二九	延滞料……………二九	オ(オ)	オスラー……………二二	オハナシカイ……………二二	お話會……………二二	カ	カタモクロク……………七六	カード型目錄……………七六	カイインソシキトシヨカン……………一九・二〇・二六・二六	會員組織圖書館……………二〇・二〇	カイカ <small>ホオ</small> ……………二四	開架法……………二四	カイガモンジ……………二二	繪畫文字……………二二	カイケイジム……………二六	會計事務……………二六	ガイコクホオ……………二〇	外國法……………二〇	カイセツヤ……………二八	解説者(新聞の)……………二八	カクケンケウシヨ……………二四	科學研究所……………二四	カキガクコウ……………二五	夏期學校……………二五	ガクシユツトシヨカン……………二九	學術圖書館……………二九	カチハンダン <small>シヨモツ</small> ……………二六	價值判斷(書物の)……………二六	カツクストン版……………二九	ガククトシヨカン……………二二・二三	學區圖書館……………二二・二三	ガクコオキヨオイクホオシヨコオキツク……………二三	「學校教育法施行規則」……………二三	ガクコオトシヨカン……………二〇	學校圖書館……………二〇・二〇・二〇	カツター……………二八	カライセイカツ……………二二	家庭生活……………二二	カライモオガクカイ……………二三	家庭育學會……………二三	カンカバンゴ……………二二	函架番號……………二二
---	----------------------------------------	--------------------------------------------	--------------------------------------------	------	------------------------------------------	--------------	--------------	----------------------------------------	----------------------	----------------	-------------	-----------------------	-----------------	---	---------------	--------------	------------	----	---------------	------	--------------------------	----------------------------------------	--------------------	---------------	------------	--------------	--------------	------------	------	-------------	---------------	------------	---	---------------	---------------	------------------------------	-------------------	-------------------------------	------------	---------------	-------------	---------------	-------------	---------------	------------	--------------	-----------------	-----------------	--------------	---------------	-------------	-------------------	--------------	------------------------------------	------------------	----------------	--------------------	-----------------	---------------------------	--------------------	------------------	--------------------	-------------	----------------	-------------	------------------	--------------	---------------	-------------



函架表	七二
換氣	〇
官廳圖書館	三三三
鑑詰業	一一三
看讀書籍	二七
官僚方式	二九
記憶力	二五
機會均等(教育の)	二六・二九
規格品	四
器具	四六・六〇
寄贈圖書	五九
寄託圖書	五九
寄附金	二六・九七
宮廷文庫	一七
教育関係	一〇〇
行刑文庫	二六
郷土資料	五
郷土的文化	一三
京都圖書館協會	一六
基督教神學	一六
記録	二
近代文化と圖書館	二
勤務時間	五
クリテラント	二七
健康(圖書館員の)	一三
建築資金	三六
件名標目	一五
講演會	七五
交換圖書	五九
好奇心	一三五
公共圖書館(無料)	一四・二三・三四
公共圖書館	三三・四六〇
航空學	八三
光線	四四・四八
購入圖書	五九
公民館	一三三
公民教育	一三一
國會圖書館	三三・三六
國立圖書館	三三
個人文庫	一六
古代法	一〇
コロンビア大學	二七

最低給料	五・五
鑽書	二六
雜誌受入票	七三
サナトリウム	三〇
サン・アール	二九・三〇
三R	二九・三〇
参考圖書	九〇・九一
参考部	九〇
紙葉型目錄	六
史學	一三二
シカゴ	二七
時事問題	一六
司書	見ヨ圖書館職員
辭書體目錄	七
思想犯	二七
濕氣	五
十進分類法	八
實地調査	六二
兒童圖書	三二
兒童圖書館	四八・二八
兒童部	四七
兒童遊園	二八
社會教育機關	二三
社會事業家	二七
社會的要求	三六・六一
社會奉仕	二二・二五・六〇
集會結社言論の自由	二七
就業時間	一四〇
宗教圖書館	一六
就職幹旋	一七
修道院	一七
主題分類法	八
主題目錄	七九
巡回文庫	三〇・二五
象形文字	一三
商工圖書館	二二
小圖書館	四四
書架の點檢	四七・七三・七四
書庫	二二
女子教育	二九
書寫時代	二四
初任給	五
處務分擔	六八
書名目錄	七九



書物 (モツ) ..... 一三・二六

書物の種類 (シヨモツ シユルイ) ..... 一五

書物の照合 (シヨモツ シヨオゴ) ..... 一六

書物の損傷 (シヨモツ ソンシヨオ) ..... 一八

書物の敵 (シヨモツ テキ) ..... 一九

新聞社調査部 (シンブン シヤチヨオサブ) ..... 二七

推薦圖書 (スイセン トシヨ) ..... 二八

スボーグスマン (スボーグスマン) ..... 二九

請求番號 (セイクウバンゴウ) ..... 三〇

青年圖書館員聯盟 (セイネン トシヨカン インレンメイ) ..... 三一

製本 (セイホン) ..... 三二

製本票 (セイホンヒョウ) ..... 三三

精密的確 (セイミツ テキカク) ..... 三三

赤十字社病院圖書館 (英國) (セキジウジヤビヨオン トシヨカン イイコク) ..... 二五

接架法 (セツカホオ) ..... 一八

接觸 (讀者との) (セツショクダクシャ) ..... 一四

設備費 (セツビヒ) ..... 一六

設立委員會 (セツリイイカンカイ) ..... 一五

全集 (ゼンシュウ) ..... 一七

宣傳 (センデン) ..... 一六

專門圖書館 (ゼンモン トシヨカン) ..... 一四・一三・一六

相互貸借 (圖書の) (ソオダイシヤク トシヨ) ..... 三五・三七・三五

叢書 (ソウショ) ..... 一七

藏書印 (ゾウショイン) ..... 三七・三三

藏書票 (ゾウショヒョウ) ..... 三三

藏書目錄 (ゾウショモクロク) ..... 一六

創設費 (ソウセツヒ) ..... 三九・四〇

大英博物館 (ダイエイハクブツカン) ..... 一七・三五

大學擴張事業 (ダイガクカクチャオジギョウ) ..... 一五

待遇 (圖書館職員の) (タイグウ トシヨカンシヨクイン) ..... 三五・三五

タイラー教授 (タイラー ケウジュ) ..... 一八

託兒所 (タツジシヨ) ..... 一三

建物 (タテモノ) ..... 一五・一六

田中不二麻呂 (タナカフジマロ) ..... 一四

ダブリン市 (ダブリンシ) ..... 一七

暖房 (ヌルボウ) ..... 一四・一四

知識慾 (チシキヨウ) ..... 一三

ザニーキー (ザニーキー) ..... 一八

中央圖書館 (チュウオウトシヨカン) ..... 一四

中央圖書館協議會 (チュウオウトシヨカンギョウギカイ) ..... 一三・一四

注文票 (チュウモンヒョウ) ..... 一六

著者標目 (ショウシャヒョウモク) ..... 一六

著者目錄 (ショウシャモクロク) ..... 一六

重複調査 (チュウワフクチヨウサ) ..... 一六

地理學 (チリガク) ..... 一三

遠報機關 (書物の) (トウホウキョウカン シヨモツ) ..... 一三

定期刊行物 (テイキカンコウブツ) ..... 一三

デパートメントストア (見ヨ百貨店) (デパートメントストア 見ヨヒヤクテン) ..... 一三

展開分類法 (テンカイブンルイホウ) ..... 一八

點字圖書 (テンジツトシヨ) ..... 一三

點字文庫 (テンジツブンコ) ..... 一三

投書 (トウショ) ..... 一六

盜書 (トウショ) ..... 一五

討論會 (トウロンカイ) ..... 一五

德川賴倫 (トクガワライリン) ..... 一八

特權階級 (トクケンカウキキウ) ..... 一三

讀者 (ショウシャ) ..... 一四

讀者調查 (ショウシャチヨウサ) ..... 一四

特殊圖書館 (トクシユトシヨカン) ..... 一四・一三・一六

讀書會 (トクショウカイ) ..... 一五

讀書傾向 (トクショウケイコウ) ..... 一三

讀書室 (トクショウシツ) ..... 一三

讀書指導 (トクショウシントウ) ..... 一三

讀書獎勵 (トクショウキョウレイ) ..... 一三

讀書統計 (トクショウトウケイ) ..... 一三

讀書的習性 (トクシヨシユウセイ) ..... 一三

讀書療法 (トクショウリョウホウ) ..... 一三

圖書 (トクショ) ..... 見ヨ書物

圖書館 (位置) (トクショカン イチ) ..... 二六・四五

圖書館 (近代文化と) (トクショカン キンダイブンカ) ..... 一一

圖書館 案内 (トクショカン アンナイ) ..... 一〇

圖書館員講習所 (トクショカン インコウシユウシヨ) ..... 一〇

圖書館 學講座 (トクショカン ガクコウサ) ..... 一〇

圖書館 學校 (トクショカン ガクコウ) ..... 一一・一五

圖書館 基金 (トクショカン キジン) ..... 一六

圖書館 規則 (トクショカン キョウキ) ..... 一三

圖書館 協會 (トクショカン ケイカイ) ..... 一三

圖書館 經費 (トクショカン ケイヒ) ..... 一五・一六・一四・一六

圖書館 建築 (トクショカン ケンチク) ..... 一四

圖書館 資金 (トクショカン ショウキン) ..... 一〇

圖書館 商議會 (トクショカン ショウギカイ) ..... 一五・一六・一四・一四

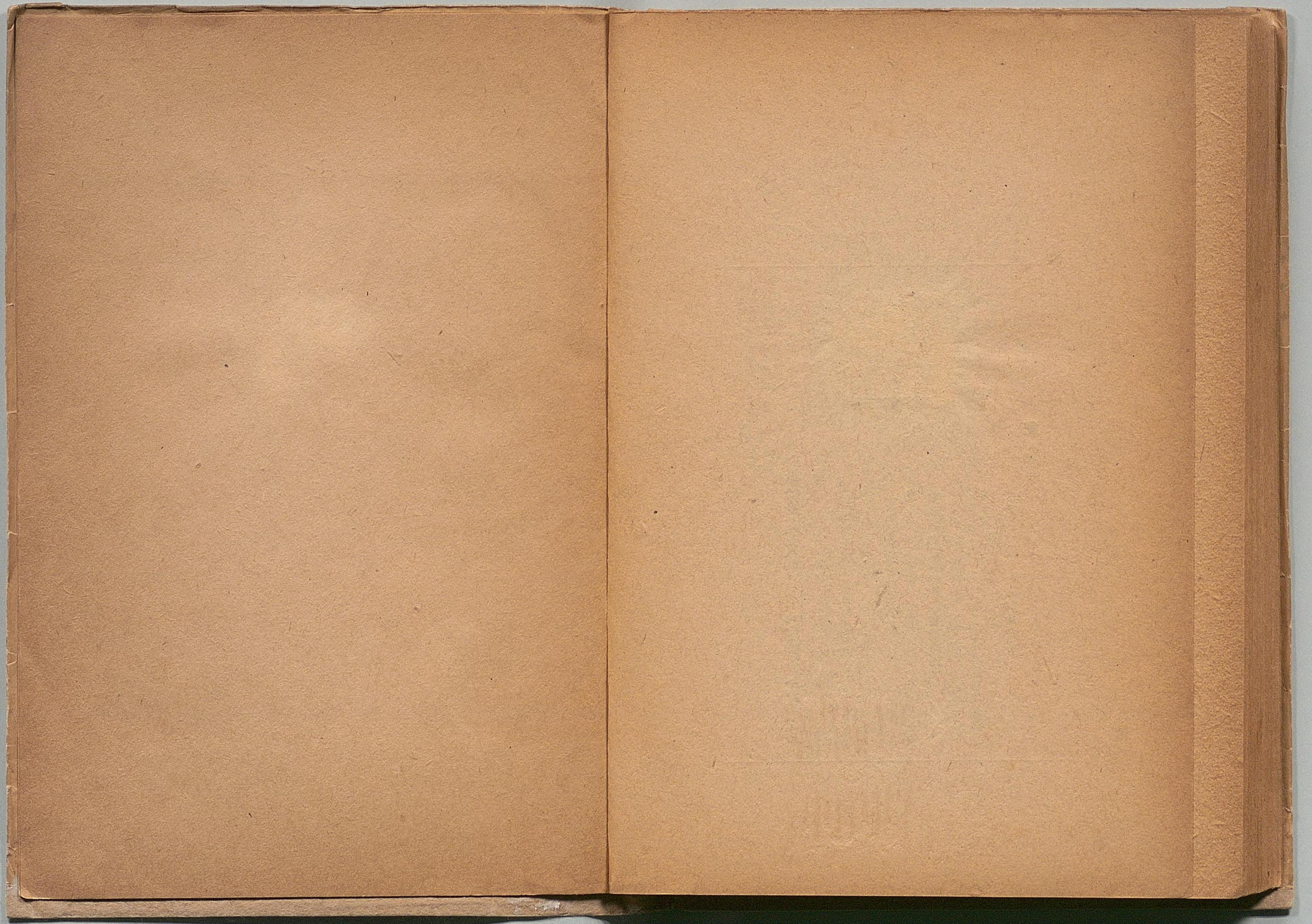




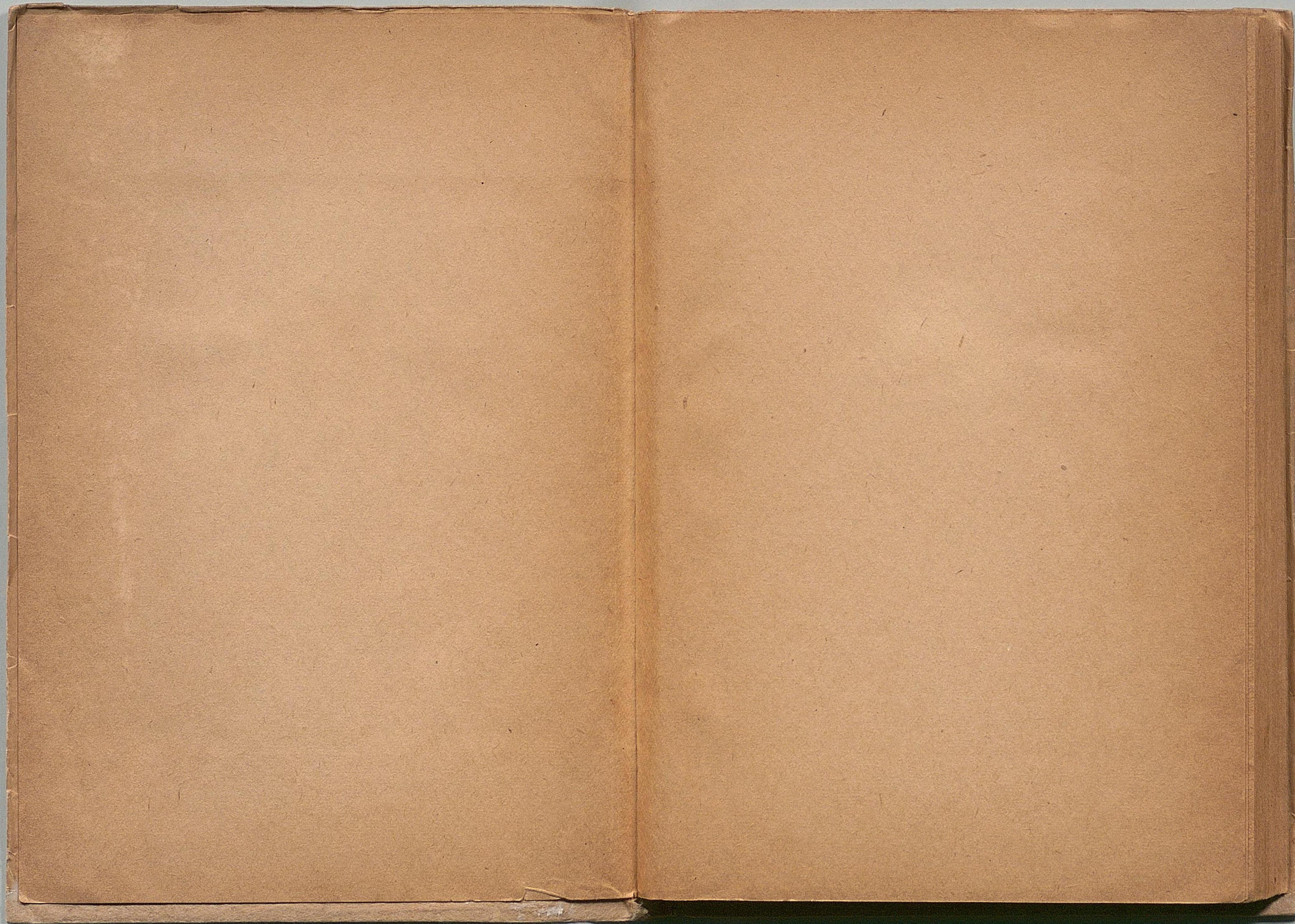




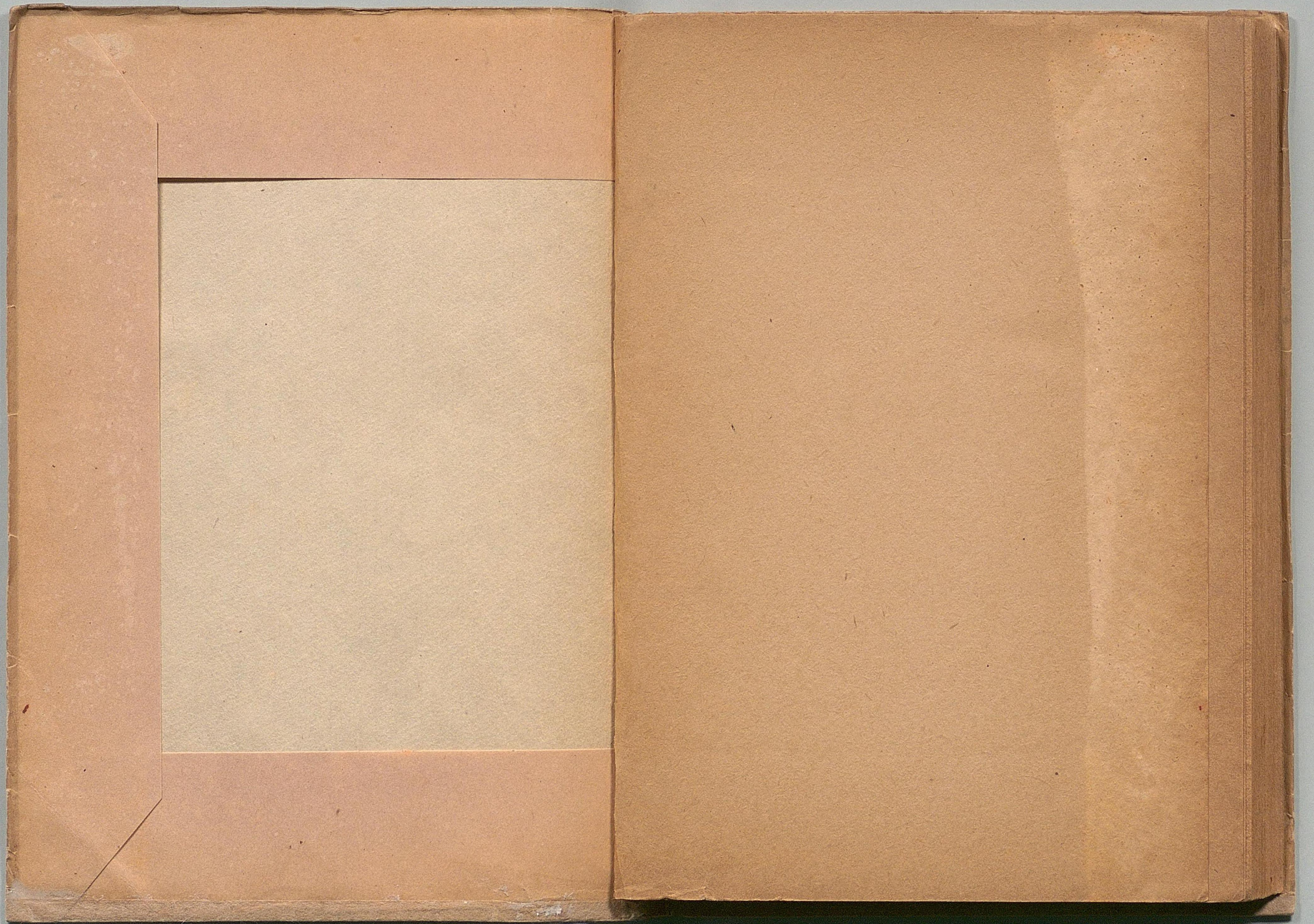




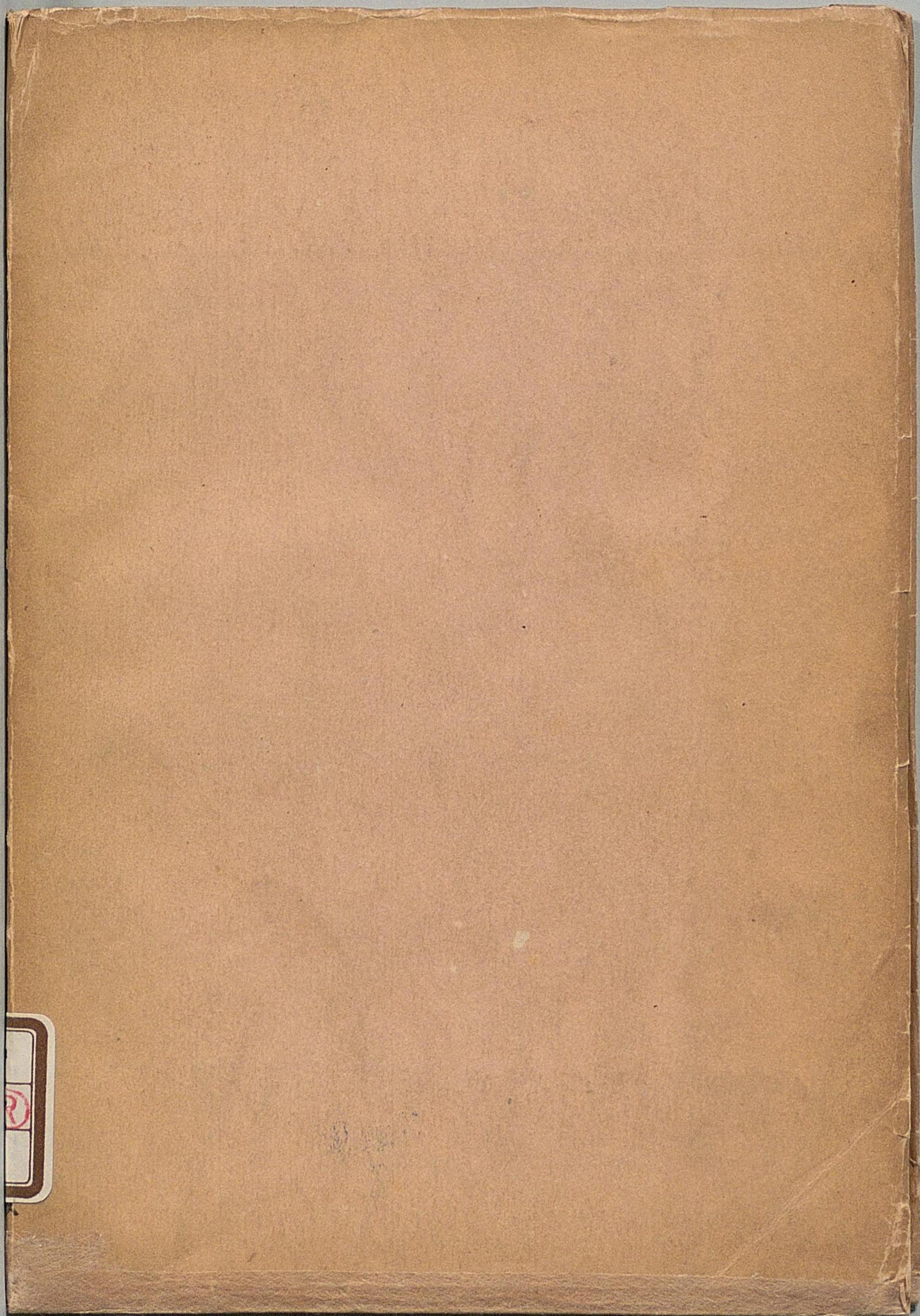














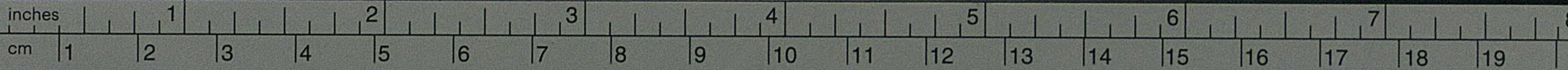


# KODAK Gray Scale

© 2021 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. KP127081B



**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# KODAK Color Control Patches

© 2021 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. KP127082B

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

